令和3年度

研究くりた

研究主題

一人一人の学びに応じた教育課程の工夫・改善 〜学んだことを活用・発揮できる 児童生徒の育成を目指した授業づくりを通して〜











秋田県立栗田支援学校

目 次

◇はじめに	校	長	佐	藤	博	司
◇全校研究						1
◇小学部研究					1	3
◇中学部研究					2	2 9
◇高等部 普通科研究					5	5 1
◇高等部 総合サービス科研究					6	5 9
◇寄宿舎研究					8	3 1
◇資料 研究のあゆみ					9	3
◇おわりに	副相	交長	諸	畄	美	佳

はじめに

新型コロナウイルスの感染拡大は、未だに収束の見通しが見えない中にありますが、 このような予測困難な状況にあってこそ、子どもたちの学びを止めない、個別最適な学 びを実現させる工夫が求められていると感じています。

そのような中、特別支援学校の学習指導要領については、小学部・中学部が全面実施となり、来年度からは高等部においても年次進行で実施されることになります。学校においては、より一層改定の基本的な考え方を踏まえて、確実に実施することが求められています。

今年度、本校の全校研究主題を、「一人一人の学びに応じた教育課程の工夫・改善 ~ 学んだことを活用・発揮できる児童生徒の育成を目指した授業づくりを通して~ 」と題して各学部・学科・寄宿舎が研究テーマ設定し、1年計画で研究を進めてまいりました。今年度の取組は、1年だけの研究実践ではなく、これまで数年かけてきた研究実践によって導き出されてきた成果や課題を教育課程の視点で整理し、さらに研究実践を深めることとしました。

教育課程の編成に当たっては、法令や学校の教育目標の実現を目指して、各学部や学年などの発達段階等に応じて、教育の内容を選択して組織し、指導のねらいを明確にし、単元・題材を他教科との関連を踏まえて構成し、それに必要な授業時数を配当していくことになります。今年度はその一連の流れを研究実践として進めることで、今年度の取組そのものが教育課程の工夫・改善につなげていると言えると思います。

研究の過程で取り組んできた「目指す姿と学習内容の一覧」や「単元配列表」を作成 し活用することによって、教職員が児童生徒に対する指導の意図を明確にすることがで きました。そして、児童生徒が学んだことを活用・発揮できる目指す姿に近づけること ができたと感じております。

この度本校は、文部科学省の第14回「キャリア教育優良教育委員会、学校及びPTA団体等文部科学大臣表彰」において被表彰校となりました。開校以来、地域との関わりを大切にしており、学校経営の重点の一つに「地域に根ざしたキャリア教育の推進」を掲げるとともに、地域を学習の場や教材とする「地域学習」を教育活動の中核としていることを評価していただきました。小学部・中学部・高等部の一貫した教育課程の編成と各学部段階に応じた教育活動を展開する必要性を一層強く感じているところです。

学部等で取り組んできた研究実践は、学校全体のキャリア教育の視点からどのような 関連性、系統性があるのか、寄宿舎の果たす役割がどう位置づけられるのか等、小・中・ 高における一貫性のある指導を改めて考える機会となり、学校全体の教育課程の編成に も関わってくると言えます。このように教育課程の工夫改善を組織的かつ計画的に教育 活動を見直すことで、学校全体のカリキュラム・マネジメントが行われ、本校教育の質 の向上を図ることを目指したいと考えております。

本校の実践研究においてたくさんのご指導ご助言をいただきました秋田県教育庁特別 支援教育課指導主事の先生方を始め、日頃から本校教育活動にご理解、ご協力を頂いて いる皆様方には深く感謝申し上げると共に、この場を借りて御礼申し上げます。

一人一人の学びに応じた教育課程の工夫・改善 < 1 年計画> ~学んだことを活用・発揮できる児童生徒の育成を目指した授業づくりを通して~

1 主題設定理由

(1) 特別支援学校小学部・中学部学習指導要領及び特別支援学校高等部学習指導要領を踏まえた 本校学校教育目標の実現に向けた取組

特別支援学校小学部・中学部学習指導要領、特別支援学校高等部学習指導要領(以下「学習指導要領」と記載)では、「社会に開かれた教育課程」の実現に向け、教育課程に基づき組織的かつ計画的に学校の教育活動の質の向上を図っていくこと(以下、「カリキュラム・マネジメント」と記載)を示している。そして、各学校の教育目標を達成し、学校教育の改善・充実を生み出すためのカリキュラム・マネジメントについて、①教科等横断的な視点で教育内容を組織的に配列していくこと、②子どもや地域の現状に合わせて教育課程を改善し続けること、③教育内容と人的・物的資源等を効果的に組み合わせること、そして、④個別の指導計画に基づいて児童生徒に何が身に付いたかという学習の成果を的確に捉え、その評価と改善を教育課程の評価と改善に結び付けること、を示している。

したがって、本校学校教育目標「知的障害のある児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた適切な教育を行い、それぞれの自立と社会参加を目指す」の実現においても、カリキュラム・マネジメントの側面から教育課程の工夫・改善が求められるところである。しかしながら、本校教師の教育課程に対する意識は、教育課程=時間割や時数、年間指導計画と同様のもの、イメージしづらい、といった意見が散見され(第1回研究全体会 自由記述によるアンケートより)、教育課程と日々の授業づくりや学級、学年経営との結び付きへの意識は高いとは言えない。

(2) より多様化する児童生徒の教育的ニーズへの対応

特別支援学校(知的障害)の在籍者数は全国的に近年増加の一途をたどっており、知的障害の程度が比較的軽度な生徒の増加に加えて発達障害を併せ有する生徒が増加している¹。本校においても例外ではなく、在籍する児童生徒の増加に加え、特に中学部、高等部に他校から入学してくる生徒については、障害の状態が多様化している。そのような生徒の中には不登校やいじめなどにより否定的な自己理解を有する生徒、経験不足や「できない」経験の積み重ね等により、学習に向かう意欲が低い生徒なども多く、不適応行動や生徒指導上の問題に発展するケースも少なくない。したがって、より多様化する児童生徒への教育的対応の在り方と指導・支援の改善が喫緊の課題として挙げられている。

(3)昨年度までの研究の成果と課題 「児童生徒が学びを実感できる授業づくり」2年計画

本校では、令和元年度からの2年間「児童生徒が学びを実感できる授業づくり」を研究主題に 掲げ、児童生徒が学びを実感できるよう「根拠のある授業づくり」と、教師が児童生徒の学びを 的確に見取る力を高めるために「学ぶ姿に着目した授業研究」に取り組んだ。

「根拠のある授業づくり」は、多様な児童生徒の実態に即した指導計画の作成や授業づくりを 目指し、育成を目指す資質・能力を基に、単元(題材)の構成や他教科等とのつながりや関連付 けを検討し、授業づくりを行った。昨年度中学部が作成した「目指す姿と各教科等の目標と学習 内容の一覧」は、学校教育目標と学年の生徒の目指す姿や日々の授業づくりとのつながりを意識するために有効な取組であった。また、昨年度行った各教科等間の関連付けは、各学部が設定した研究対象授業を中心とした取組でありながら、教科等横断的な視点をもつことへの意識につながった。また、昨年度までの研究を通して、本校児童生徒の多くは他の教科場面や実習先など学習場面が変わると学んだことを活用したり発揮したりすることが難しいという実態と、それに伴い今後育むべき児童生徒の資質・能力はどのようなものであるかを明らかにすることができた。

「学ぶ姿に着目した授業研究」は、対象とした児童生徒の「学ぶ姿」として事実に着目し、教師同士が互いに解釈を重ね合う授業研究であるが、授業研究を重ね、特定の子どもの思考の流れをより深く見取っていくことが、多様な子どもの学びに丁寧に向き合う姿勢につながり、児童生徒一人一人の学びを支える授業づくりの実現と、教師同士が互いに力量を高め合う意識の醸成につながった。

表1 昨年度までの研究の成果と課題

「根拠のある授業づくり」と「学ぶ姿に着目した授業研究」の取組から

成果

課題

- ○「根拠のある授業づくり」
- ・育成を目指す資質・能力を明確化
- ・単元構成の検討や各教科等との関連付けを意識した授業づくりの実践
- ・見通しを立てる、振り返る活動の充実
- →自分の学びを振り返る力の育成
- ○「学ぶ姿に着目した授業研究」
- ・「何をどのように学んでいるか」学ぶ姿=事実に 解釈を重ね合い、学びを見取る授業研究
- →教師同士互いに力量を高め合う意識の醸成

- ●学んだことを活用・発揮できる力の育成
- ・場面が変わる(他の教科場面、実習など)と学んだ ことを発揮することが困難
- →子ども自身が学んだことを活用しようとする力の育成
- →各教科等間の関連付けを図る際には学習活動レベルでの関連付けではなく、各教科の目標や学習内容を 関連付けると共に教科の特質に応じた見方・考え方を働かせられる授業づくり(教科等横断的な視点での授業づくり)

今年度は、昨年度の「根拠のある授業づくり」と「学ぶ姿に着目した授業研究」を取組の土台として、多様化する児童生徒の教育的ニーズに応じる教育課程の工夫・改善を目指し、本研究主題を「一人一人の学びに応じた教育課程の工夫・改善~学んだことを活用・発揮できる児童生徒の育成を目指した授業づくりを通して~」とした。

2 研究の目的

- ・各教科等で身に付けた知識や技能を相互に関連付け、学んだことを活用・発揮できる児童生徒 の育成
- ・一人一人の学びに応じた指導の充実と、教科等横断的な視点からの指導体制等の検討及び教育 課程の工夫・改善

3 研究仮説

学んだことを活用・発揮できる児童生徒の育成を目指し、一人一人の学びに応じた指導の充実と、 教科等横断的な視点からの指導体制等の検討を行うことで、教育課程の工夫・改善が図られるで あろう。

4 研究の内容と方法

学校教育目標と日々の授業のつながりを意識し、教科等横断的な視点をもって教育課程の工夫・ 改善を図るために、各学部で課題となっていることをテーマに設定し、以下の取組を行う。

(1) 目指す資質・能力の明確化 ~学ぶ内容を明確にする~

- ・児童生徒の実態や教育的ニーズを基に目指す児童生徒の姿を具体化し、各教科等で学ぶ内容を 明確にするための「目指す姿と各教科等の目標や学習内容の一覧(表2)(以下「目指す姿と 学習内容の一覧」と記載)」の作成
- ・多角的な視点から中心となる単元を検討するための「中心単元検討会」の実施

(2) 単元(題材)の目標と学習内容を明確にした単元(題材)計画 ~学ぶ内容を関連付ける~

- ・育成を目指す資質・能力を基に、各教科等間の指導内容等について関連付けを図るための「単 元配列表(表3)」の検討と作成
- ・単元のまとまりで「何ができるようになるか、どのように学ぶか」を明確にできるよう、学習 内容や学習活動、育成を目指す資質・能力を記述する欄を設けた「単元計画案」の作成

(3) 目標達成のための学習過程の工夫・改善 ~学んだことへの気づきや自覚を促す~

・学んだことが他の教科や生活でも使えるとい う気づきや自覚を促すことができるような既

個別の指導計画⇔年間指導計画 「育成を目指す資質・能力と各教科等の目標や 習事項(学習内容、教材、学習方法、体験活 学習内容の一覧」「中心単元検討会」 動など)との関連付け を明確にした単元・題材計画 ・一人一人の学びに応じた振り返り活動の充実 学習過程の工夫・改善 何を学ぶか どのように学ぶか ・学習内容や学習グループ、指導体制等の検討 学ぶ内容を関連付ける 学んだことへの気づきや百貨を促す 活用・発揮の場面を単元・題材、教科横断的な 教科等横断的な視点からの単元・題材 計画・配列の検討(各教科等間、学年 振り返り活動の充実(単元計画への位置づけ) 学習グループ、指導体制の検討 間の関連付け)評価場面の設定(児童 生徒の学習改善/教師の指導の改善)

5 研究の実際

(1)研究を推進するにあたって

①育成を目指す資質・能力の明確化と共有

「目指す姿と学習内容の一覧」は、児童生徒の実態や教育的ニーズを把握している学年の教師 が作成する。「学校教育目標」を各学年の児童生徒の目指す児童生徒像として具体化し、共有す る。さらに各教科等で学ぶ内容、育成される資質・能力、学習内容、学習活動との関連を明らか にする。

②教科等横断的な視点の共有

「単元配列表」は、単元や単位時間の位置づけを教育課程全体で確認し、各教科等の枠を超え 横のつながりの視点をもつことができるように学年の教師で作成する。他の教科等との関連やつ ながりを検討する際は、学習活動レベルでの関連付けに止まることなく、各教科等の目標や学習 内容の関連、見方・考え方との関連付けを図る。

③学習指導要領の内容の理解

「単元配列表」を作成する際には、年間指導計画を基に単元名と指導 内容に加え、学習指導要領におけるどの内容にあたるかを付箋紙(図2) に明記し、各教科の段階に示す内容の理解を促すとともに、学習内容の 偏りを確認・改善できるようにする。

単元名 · 指導内容 項目 ・指導内容 項目

何が身についたか

実践·評価

つ基の

教育課程のエ

目指す資質・能力の明確化

何ができるようになるか

教育的ニーズ⇔学習指導要領・学校教育日標

図1 学習指導要領改訂の方向性から整理した本校の取組

図2 単元配列表作成 の付箋紙

④学習評価の充実

「目指す姿と学習内容の一覧」や「単元配列表」を学期ごとに評価することで、授業の評価や 指導の評価を計画的に積み重ね、児童生徒の学習改善及び教育課程の改善につなげる。児童生徒 の学習状況を評価する際は、観点別学習状況の評価とともに、児童生徒自身が自分の成長を感じ ることができるよう、計画的かつ意図的で適切な振り返り活動の積み重ねを大切にする。

表2「目指す姿と各教科の目標と学習内容の一覧」

学校教育目標				
「知的障害のある児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた適切な教育を行い、 それぞれの自立と社会参加を目指す」				
目指す児童生徒像				
じょうぶな子ども あかるい子ども がんばる子ども				
キャリア教育における基礎的汎用的能力				
自己理解・ 自己管理能力 人間関係形成・ 社会形成能力 課題対応能力 キャリアプラ ンニング能力				
学部目標				
学年で目指す児童生徒の姿				
児童生徒の実態や教育的ニーズを基に学年で目指す児童生徒の姿、 育成を目指す資質・能力として示す				
日指				
生単				
国語				

表3「単元配列表」

例	4	5	6	7	8	9	10	1 1	1 2	1 ,
行事	入学式	運動会	宿泊学習	校内実習		特総体		栗田祭 校内実習		くりた市
日常生活 の指導										
生活単 元学習										
国語										

(2)授業研究会と授業研修

•授業研究会

研究主題に迫るための授業研究の取組の一環として、特定の学級、学習グループが授業提示する学部内授業研究会と全校授業研究会を行う。

- 授業研修
 - 一人一人の授業力の向上を目指し、一人一授業を提示する授業者実践研修を行う。

(3) 授業研究会のもち方について

昨年度の成果を受け、学部内授業研究会及び全校授業研究会は、事前授業検討、提示授業の参観、授業協議で構成した。「学ぶ姿に着目した授業研究」として、児童生徒が「何をどのように学んでいたか」という事実を基に解釈を重ね合う授業研究を行い、児童生徒の学びを見取る目を養う。

事前授業検討

事前授業検討では、単元等や授業の構成等についての検討を行う。その際、一人の対象児童生徒を特定し、その児童生徒が本時のねらいを達成した際に想定される姿としての「期待する姿」について授業者と参観者が共に事前検討することで、参観者も授業づくりに参画し、ねらいを共有したうえで授業参観、協議ができるようにする。

学部内授業研究会の事前授業検討は、学部の教師で行う。全校授業研究会の事前授業検討は全校の教師の縦割りグループを設定し行う。全校研の際は、他学部の児童生徒の学習の様子や学び方、学習の積み重ねなどをイメージしやすいように、授業をビデオ撮影し、授業提示の前に視聴するなどの工夫をする。ビデオ映像はパソコンで教職員共有フォルダ内に保存し、それぞれの職員が都合のよいときに視聴できるようにすることで、時間的制約を軽減する。

参加者:授業者+参観者

ねらい:単元(題材)計画及び授業の検討を通し授業のねらいや特定児童生徒の「期待する

姿」の共有

準備物:単元(題材)計画案

実施時期:授業提示の2週間程度前内 容:・育成を目指す資質・能力

・他の教科等とのつながり、これまでの学びの積み重ね、これからの学び

・対象児童生徒の障害特性や得意な学び方、困難の背景などを基に、本時の指導内 容や手立てについて

・単元(題材)で目指す姿、児童生徒の「期待する姿」

提案授業の参観

「授業概要シート^{**}」を作成し、指導案に添付することで、授業者のねらいや児童生徒の目標を達成した際の姿「期待する姿」を共有した上で授業参観できるようにする。参観する際は、「期待する姿」を基に、「何を、どのように学んでいたか」という事実に着目して参観する。

ピンクの付箋紙には事実を、水色の付箋紙にはなぜそのような行動(期待通りの、もしくは期待とは異なった)をとったのかについての自分の解釈を記入する。

授業協議

「期待する姿」を基に、実際の学んでいる様子「何をどのように学んでいたか」について教師 同士が解釈を重ね合う。

ねらい:「何を、どのように学んでいたか」という事実について教師同士が解釈を重ね合うことで、児童生徒の学びを多角的に捉え見取る力を高めるとともに授業改善につなぐ。

	· 1 O E B // IF/IC IC // C A V B IC I S V S
グループ協議 1	「期待する姿」を基に、授業中の実際の児童生徒の学んでいる様子
	について参観者が解釈を重ね合うことで、捉えの共有を図る。
グループ協議 2	協議1で図った児童生徒の捉えを基に、改善策を導き出す。
全体共有(学部主事)	グループ協議の論点を整理し、改善の方向性や全体像を共有する。
指導助言	管理職等からの指導助言によりさらに改善点を得る。
振り返り	教師自身が授業に生かすという視点から自分の学びを文章化する。
授業者から	授業研究を通し、自分の変容などについて話す。

※授業概要シート

「本時の授業の概要」と「単元における育成を目指す資質・能力」、「児童生徒の実態」「期待する姿(本時のねらいを達成した姿)」を記載したシート

(4) 研究組織

学部 • 学科研究 全 校 研 究 各学部・寄宿舎運営(重点)・授業実践 寄宿舎研究 「研究全体会」 ・生活技能の向上に向けた取組 ・研究説明と周知(4月) ・学部・学科の取組と関連 ・実践経過の共有(8月) まとめの報告 (2月) 教育 課 程 討 委 員 会 検 授 業 研 究 業研 修 授 「授業者実践研修」

「学部内授業研究会」

- ・学部内で特定した学級、学習グループが提示
- ・事前授業検討・提案授業の提示・協議

- 「全校授業研究会」 ・全校縦割りグループで実施
- 各学部代表が提案授業の提示
- ・全校縦割りグループで事前授業検討・提案授業提示・協議

「提案授業」について

「提案授業」とすることによって、授業研究会は、研究主題に迫るために、学年、学部、全校職員で検討した授業 を提案する場であると共に、その授業を基に学び合う場であるという意識を高め、事前の授業検討や事後の協議の 活性化を図る。

(5) 研究の日程

_			1	
月	学部研	究	教科等研修	研究会等 研究全体会、研修会、
Я	学部研究日で実施	学年会等で実施	各学部で適宜実施	部内・全校授業研究会、 教育課程検討委員会
4				21日(水) 研究全体会 ・研究の方向性の確認
5	26日(水) ○今年度の学部での取組について説明 ・研究対象授業について(見方・考え方 の確認) ・授業研究会の提案授業 ・研究対象児の設定→ 各学部のテーマ、課題に応じて ・自立活動の視点について確認	○「目指す姿と学習内容一覧」作成 →個別の指導計画、年間指導計画 へ○中心単元検討会 学年職員+学部主事+研究部員 +教育専門監	○年間指導計画の検討 (学部内の教科担当で情報交換)○各教科における見 方・考え方の確認○学習目標や学習内 容、学習活動の情報 交換○教材・教具の情報交換	
6	23日(水) ○学部研究テーマに沿った各学年の取組 の報告と検討	○各教科等の年間指導計画の目標や 学習内容を関連付けた単元配列の 検討(各教科等間、学年間)	○授業者実践研修を活用した教科研修	
7	28日(水) ○学部研究テーマに沿った各学年の取組 の報告と検討 ・児童生徒の変容 ・研究対象授業の取組 ・研究対象授業を中心としながら他の教 科等も含め、課題点の洗い出し →教育課程検討委員会へ	夏季休業中の学年会 ○1学期の評価と二学期の目標 ・学習状況の評価(児童生徒の自己 評価を含む) ・指導の評価 ・授業の評価 →個別の指導計画、年間指導計画の 評価・改善 →「目指す姿と学習内容一覧」の評価・改善 →「単元配列表」の見直し		2日(金) 小学部内授業研究会 16日(金) 普通科部内授業研究会 19日(月) 中学部内授業研究会
8		, yakay yang e yaka e		3日(火)教科研修 ○校内の実践の紹介・情報交 換等 25日(水) 教育課程検討委員会 (紙面実施)

・基本的に一人一授業提示 (T2まで)

事後協議の実施

・管理職及び授業改善アドバイザーを中心に参観

9			15	日 (水) 研究全体会 学部研究の取組の報告 5日 (水) 小学部内授業研究会 と日 (水) 普通科全校授業研究会
10	○学部研究テーマに沿った各学年の取組 の報告と検討 ・児童生徒の変容 ・研究対象授業の取組 ・授業づくりのシステムの工夫・改善			
11	○教育課程の検討→教育課程検討委員会へ		29	日 (金) 中学部全校授業研究会 日 (月) 小学部全校授業研究会
12			23	日 (火) 総サ部内授業研究会 日 (木) 中学部部内授業研究会
1	○研究紀要作成/発行	○2学期の評価と3学期の目標	12	2日(水)
(・学習状況の評価(自己評価)	教	育課程検討委員会
)		・指導の評価・授業の評価		
3		→個別の指導計画、年間指導計画の 評価・改善 →「目指す変と学習内容一覧」「単		
		元配列表」の評価・改善	9	月 18 日 (金)
			· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	完全体会
				研究のまとめの報告

6 まとめ (成果と今後に向けて)

(1) 成果

①児童生徒の多様な教育的ニーズに応じた授業づくりの実現と活用・発揮する力の育成

学校教育目標と日々の授業とのつながりを意識し、教科等横断的な視点で授業づくりができるよう、「目指す姿と学習内容の一覧」と「単元配列表」の作成を学年の教師全員で行った。

学年に在籍する児童生徒の実態や教育的ニーズを基にした「目指す姿と学習内容の一覧」の作成により、育成を目指す資質・能力や各教科等で学ぶ内容を明確にし、学校教育目標と日々の授業づくりのつながりを意識することができた。また、学年の教師全員で作成することで、目指す姿の実現に向けた支援の手立てや関わり方、評価規準の共有ができ、一人一人の学びに応じた指

導が充実した。「目指す姿と学習内容の一覧」を職員室の各学年の教師が目に付く場所に掲示することで(写真1)、生徒の変容について日常的に話題にし、エピソードを重ねることができ、単元の評価・改善、年間指導計画の評価改善につながった。

「単元配列表」は、資質・能力の育成に向け、教科等の枠組みを超え、教科等横断的な視点で他教科等との関連付けを図る取組である。各教科等の担当教師が年間指導計画から単元名と指導内容を書き写し、学習指導要領の各教科の内容の項目を書いた付箋紙(図2)を持ち寄って作成した(写真

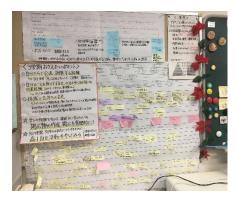


写真 1 職員室に掲示

2)。年間指導計画から指導内容を書き写す際、特に生活単元学習や作業学習などの各教科等を合わせた指導の指導内容が、学習活動や作業学習製品名で記されている年間指導計画もあったため、単元(題材)で「何を学ぶのか」という視点から指導内容を再考した。また、学習指導要領

の項目を書くことで、改めて各教科等を合わせた指導は、各教科の内容を基としているということを確認できた。

付箋紙に各教科の項目を書く際は、「熊本大学教育学部附属特別 支援学校 教材ほりおこしプロジェクト²」がまとめた「指導内容 確認表(表 4)」を活用した。「指導内容確認表」は知的障害特別 支援学校の各教科について、小学部・中学部・高等部で取り扱う教 科の指導内容を一覧化したものである。各教科等で扱った内容にマ ーカーで印をつけることで、学習指導要領を根拠に、指導内容の偏 りの確認、改善につながった。

付箋紙を基に他の各教科等との関連やつながりを検討する際は、 学習活動レベルでの関連付けに止まることなく、各教科等の目標や 学習内容の関連、見方・考え方を生かすことを確認した。このこと により、各教科等間の指導内容の関連付けと育成を目指す資質・能 力とのつながりを明確にすることができた(写真3)。同時に各教 科等合わせた指導と他の教科等との関連付けが明らかになり、児童 生徒にとっても学習の関連性が実感できるようになることで、学ん





写真3

だことを活用したり発揮したりする姿につながった(詳細は各学部の取組を参照)。

このように、「目指す姿と学習内容の一覧」や「単元配列表」の作成を通し、児童生徒の多様な教育的ニーズに応じた授業づくりが実現し、教育課程全体で児童生徒を育てるという意識が高まり、教育課程を核とした教師同士の協働が図られた。

表 4 指導内容確認表 抜粋 (国語科)

		Г					
30.00 m			120.86	小学部	245.86	1 20,0E	
回物的		ا	1段階	2段階	3段階	段階	
	項目		内容	内容	内容	内容	
		言葉の 働き	ア (7) 身近な人の話し掛けに慣れ、言葉が事物の内 容を表していることを感じること。	(7) 身近な人の話し掛けや会話などの話し言葉に ア 慣れ,言葉が,気持ちや要求を表していることを感 じること。	ア (7) 身近な人との会話や読み聞かせを通して、言葉には 物事の内容を表す働きがあることに気付くこと。	(7) 身近な大人や友達とのやり取りを通して、言葉には、事物 ア 容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付 と。	
	-ju	話し言葉と 書き言葉			(イ) 姿勢やロ形に気を付けて話すこと。	(4) 発音や声の大きさに気を付けて話すこと。	
	葉の	語彙		(1) 日常生活でよく使われている平仮名を読むこと。	(ウ) 日常生活でよく使う促音, 長音などが含まれた語 旬, 平仮名, 片仮名, 漢字の正しい読み方を知ること。	(ウ) 長音,拗音,促音,撥音,助調の正しい読み方や書き方をこと。	
(1)	特徴や	部果	(1) 言葉のもつ音やリズムに触れたり、言葉が表 す事物やイメージに触れたりすること。	(ウ) 身近な人との会話を通して,物の名前や動作など,いろいろな言葉の種類に触れること。	(I) 言葉には、意味による語句のまとまりがあることに気付くこと。	(1) 言葉には、意味による語句のまとまりがあることを理解すともに、話し方や書き方によって意味が異なる語句があること付くこと。	
	使い方	文や文章			(オ) 文の中における主語と述語との関係や助調の使い 方により、意味が変わることを知ること。	(1) 主語と述語の関係や接続する語句の役割を理解すること	
		言葉遣い				(カ) 普通の言葉との違いに気を付けて,丁寧な言葉を使うこ	
				音読			(カ) 正しい姿勢で音読すること。
(2)	扱情い報	情報と情 報の関係			イ (7) 物事のはじめと終わりなど、情報と情報との関係に ついて理解すること。	イ (7) 事柄の順序など、情報と情報との関係について理解する	
	方の	情報の 整理			(イ) 図書を用いた調べ方を理解し使うこと。		
		伝統的な言語文	イ (7) 昔話などについて,読み聞かせを聞くなどして 親しむこと。	(7) 昔話や童謡の歌詞などの読み聞かせを聞い イたり,真似したりするなどして,言葉の響きやリズム に親しむこと。	ウ (7) 昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞き、言葉の 響きやリズムに親しむこと。	ウ (7) 自然や季節の言葉を取り入れた俳句などを聞いたり作っして、言葉の響きやリズムに親しむこと。	
	我	化	(1) 遊びを通して、言葉のもつ楽しさに触れること。	(1) 遊びややり取りを通して、言葉による表現に親 しむこと。	(イ) 出来事や経験したことを伝え合う体験を通して、いろ いろな語句や文の表現に触れること。	(イ) 挨拶状などに書かれた語句や文を読んだり書いたりし、 に応じた表現があることを知ること。	

②「事前授業検討」による学ぶ姿の共有と授業改善

昨年度に引き続き、「学ぶ姿に着目した授業研究」を行った。「学ぶ姿に着目した授業研究」は、「子どもがどう学んでいたか」という事実に着目する授業研究である。中央教育審議会「教育課程企画特別部会における論点整理について(報告)」が学習指導要領改訂の視点として「まずは学習する子供の視点に立ち、教育課程全体や各教科等の学びを通じて『何ができるようになるのか』という観点から、育成すべき資質・能力を整理する必要がある」と示したことを授業研究の根拠としている。「教師が何を教えるか」、「子どもが何を知っているか」から、「子どもがどう学び、何ができるようになるか」、という視点にシフトし、児童生徒の具体的な学びの姿から授業をつくり、改善する取組である。

全校授業研究会における「事前授業検討」は昨年度から2年目の取組である。学習指導案を作成する前の段階で、全校縦割りグループを設定し、学部を超えた教師同士で「単元計画案」を基に単元計画や授業の流れの検討を行った(写真4)。今年度は、キャリア教育の視点からの単元検討が行われたり、より対話的で深い学びを実現するための視点として他学部の授業との関連付けが提案されたりするなど、全校の教育課程を俯瞰しながら授業を検討する取組につながった。



写真4 全校縦割りによる事前授業検討

「事前授業検討」を行うことで、参観者も主体的に授業づくりに参加し、ともに「期待する 姿」を共有しながら「何をどのように学んでいるか」といった具体的な学ぶ様子や成果物から児 童生徒の学びを丁寧に見取ることができた。さらに、授業後に授業協議を重ねることで次時への 授業改善につながる授業研究を実現することができた。

③校内人材等の活用・連携によるキャリア教育の充実と専門性の高い教育実践

寄宿舎では衛生面に焦点を当てた指導をテーマに、養護教諭や進路指導主事など校内の人材を

活用した衛生管理や身だしなみ、卒業後を見据えた知識や技能の習得に向けた学習会を実施した(写真 5)。衛生面やマナーの指導は指導者の感覚や環境に依拠することも多いため、学部や家庭との連携が課題となっている。そこで、総合サービス科の生徒を中心として、寄宿舎指導員が学部の教師と情報交換シートを介して情報共有したり、授業研究会に参加し目標や支援の手立ての共有を図ったりしたことで、学部と寄宿舎が連携した指導ができるようになった。

また、中学部では職業・家庭科の教育課程へ位置付けることについて、学習指導要領に準拠し、それぞれの学年に在籍する生徒の発達段階に即した指導内容の検討と、授業づくりを行ってきている。より、実践的かつ具体的な内容の指導を行うために、寄宿舎の施設を活用し、体験的な内容を含んだ学習を行った(写真6)。いずれの生徒も意欲的に活動し、その後の家庭生活において自分から掃除等を行う生徒もおり、



写真5 養護教諭による学習会



写真 6 寄宿舎の居室を活用した家庭科 (掃除)の学習

家庭での仕事や役割に対する意識を高めることができた。

生活自立、職業自立に向けた授業づくりや寄宿舎での指導において、学校が有する人材や施設の有効活用、教職員間の連携を深めることで、卒業後の生活を視野に入れ、自分のできることを増やしていこうとする生徒の意欲や態度の育成につながった。

(2) 今後に向けて

①キャリア教育の充実を目指した学部間及び社会との接続の検討

今年度、各学部では教育課程上の課題をテーマに掲げ取組を重ねてきている。特に、中学部における職業・家庭科の教育課程への位置付けの検討や高等部における職業科の授業づくりを中心とした教育課程の検討は、本校におけるキャリア教育の視点から教育課程を考える機会となった。

全校授業研究会では、中学部が提案した主に職業・家庭科の指導内容との関連付けを図った生活単元学習の授業や、高等部が提案した職業科の授業を基に、全校の教師で生活自立や職業自立を目指す授業づくりについて検討する機会を得た。また、第2回教育課程検討委員会(紙面開催)では、小学部の生活単元学習の年間指導計画、中学部の進路学習ガイド、高等部の職業科の学習内容表、キャリア教育全体計画を並べ概観することで、系統的で発展的な学びを積み重ねるためには、各学部の指導内容のつながりの検討が必要であることを確認した。同じく第3回教育課程検討委員会では、本校のキャリア教育の柱として位置付けている「地域学習」について、「地域学習」を通して子どもたちにどのような資質・能力の育成を目指し、また育成されているのかについて、その運用方法も含め、改めて検討する必要性について確認した。

これらのことから、各学部で行われてきている「地域学習」の実践とともに、小学部の生活単元学習、中学部の職業・家庭科、高等部の職業科、家庭科を中心とした各教科等の指導の実際についても、全校で再確認することで、学部間の接続や指導内容の系統性や発展性を考慮した指導計画の組織・配列が可能となり、更なる教育課程の工夫・改善につながるものと考える。特に「地域学習」は「社会に開かれた教育課程」の実現に向け要となる取組である。子どもたちが自立し、社会参加する資質・能力を育成していくためにも、地域社会との連携・協働の在り方やその授業づくりについて、今後、改めて検討を図りたい。

②より深い児童生徒理解に導くための授業研究の在り方の検討

「学ぶ姿に着目した授業研究」を通し、児童生徒の言動や行動から、思考の流れを読み取ろうとする意識が高まり、多様な児童生徒の学びに丁寧に向き合う姿勢が高まる一方で、昨年度からの新型コロナウィルス感染拡大予防の状況下における授業の参観体制への課題も生じている。特に今年度は教室内の密集を避けるため、参観人数を制限し、前半、後半に分けたり、終始ビデオで参観したりするなどの体制を取ってきた。これまでも長時間の参観体制を確保することが困難な場合は、前半、後半を分けて参観する体制をとってきたが、参観場面を分けることで児童生徒の思考の流れやどんな学びが実現できたのか、その過程を読み取ることが難しいなどの課題が明らかになった。現行の体制では、同じ場面を参観した教師同士による「前半参観グループ」「後半参観グループ」による協議を行っているが、今後は前半参観、後半参観の教師が共に、児童生徒の学びの事実をもち寄り、その事実を基に全員で児童生徒の思考の流れやどのような学びが実現していたのかを解釈し合うなど、協議の仕方について改善を図りたい。それとともに、児童生

徒の思考の流れや学びの過程を読み取るためには、より深い児童生徒理解が必要である。発達障害や愛着の問題を抱える子どもなど、知的障害特別支援学校の教師がこれまで接することが少なかった児童生徒への支援についての理解を深める研修の実施や自立活動の視点を大切にした授業研究の在り方を検討したい。

③児童生徒の資質・能力の育成に向けたマネジメントサイクルの構築とキャリア発達支援

今年度で3年目となる「学ぶ姿に着目した授業研究」は、授業研究の視点を「教師がどう教えたか」から「子どもがどのように学んでいたか」に大きくシフトチェンジした取組である。この取組により教師の「子どもを見る視点」を高め合う姿勢につながった。

そして、今年度新たに取り組んだ「目指す姿と学習内容の一覧」や「単元配列表」の作成は、 教育課程全体でどのような力を育むのかといった教科等を超えた視点をもちつつ、それぞれの教 科等でどのような力が身に付くのかについて整理する取組となり、「授業づくりの視点」の共有 につながった。そして、その作成により、教育課程を介した教師の協働性を生み出した。

今年度の取組を継続し、児童生徒の資質・能力の育成に向けた教育課程を編成するためには以下の2点についての取組が必要だと考える。

1) 「子どもを見る視点」「授業づくりの視点」を支えるマネジメントサイクルの構築

今年度研究実践として行った「目指す姿と学習内容の一覧」や「単元配列表」の作成を個別の 指導計画や年間指導計画といった教育資料作成スケジュールに位置付け、計画的に行う。また、 実施状況を評価し、改善を図ることができるよう「単元配列表」作成時に学期ごとの具体的な評 価場面や評価規準を設定する。

2) 児童生徒のキャリア発達を支援する視点から自己の変容や成長を評価する機会の設定と蓄積 これまでも各学級、学年で行っている「学期の目標」「1年の振り返り」などの取組を基に、 児童生徒が自らの学習状況や日常生活等の振り返りをしながら、自己の変容や成長を自己評価す る機会を設定するとともに、一人一人の成長を記録し、蓄積する資料(例「キャリアパスポート」)の作成についても検討したい。

<文献等>

- 1 国立特別支援教育総合研究所 専門研究 B「知的障害者である児童生徒に対する教育を行う特別 支援学校に在籍する児童生徒の増加の実態と教育的対応に関する研究」平成 21 年
- 2 熊本大学教育学部附属特別支援学校 教材ほりおこしプロジェクト (2019) 指導内容確認表 熊本大学附属特別支援学校 Web ページ

<小学部 研究テーマ>

どの子も分かり、気付き、考えて行動する授業づくり ~多様な実態の児童の学びに応じた単元構成の工夫~

1 学部研究テーマ設定理由

昨年度まで、児童が思いを表現するためには、「思考する」ことが大切な姿と考え、児童の「思考する姿」に着目し、思考を促すための手立てを工夫した授業を行ってきた。まず、めあての提示の仕方と学習内容の提示を分かりやすくし、児童の思考する場面を作った。さらに、児童自身が考え、判断し、自らの行動に移すことができるように、児童が気付くための教材の準備や教師の言葉掛けをするタイミングを図ること等を授業を作る上で大切にしてきた。このような授業を積み重ねてきたことで、「児童のやりたい、やってみたいという気持ちが表情や活動に表れてきた」「教師が児童の分かった瞬間や悩んでいる時間を大切にするようなってきた」という成果が得られた。

しかし、その反面、思考する姿や教師からの働き掛けに反応する姿が捉えにくい児童の「学びを実感する姿」をどう捉えるのかという課題も残った。多様な実態の児童の集団の学習についても「学びを実感する姿」を具体的に想定しながら授業づくりを行っていく必要があるのではないかという課題も挙げられた。

今年度、小学部では、興味・関心及び見通しをもって学習し、夢中になって活動したり、自分の考えで選択・実行したりする力を育てることを学部目標に挙げている。そこで、昨年度の国語の授業づくりで大切にしてきたことを集団の授業づくりに取り入れ、多様な児童の興味・関心、知的好奇心を刺激するような学習内容や題材の設定と教材の工夫を行い、「学びを実感する姿」を具体的に想定しながら授業づくりを行った。

特に、生活単元学習において、児童が教科等の見方・考え方を働かせる学習活動を取り入れ、知的好奇心を刺激していく。また、自立活動の視点を学習内容に取り入れて授業を考える。その上で、それぞれの児童が活動に興味・関心をもち、やることが分かり、気付き、考えて行動できる力が付くように、児童の実態に合わせて学習内容や単元構成、1単位時間ごとの授業構成を検討していく。こうすることで、それぞれの児童の学びに応じて必要となる教科の内容や、小学部を通して必要と考えられるキャリア教育の視点を取り入れた教育課程を考えていくことができるのではないかと考え、今年度の研究テーマを設定した。

2 研究仮説

それぞれの児童の「思考する姿」を大切にしながら、集団での学習(遊びの学習、生活単元学習)において、児童の実態に合わせて学習内容や単元構成、1単位時間ごとの授業構成を検討し、あらゆる活動場面において思考を促す手立てを工夫する授業づくりをすることで、それぞれの児童が活動に興味関心をもち、やることが分かり、気付き、考えて行動できる力が付くであろう。そのために具体的に次に示す授業づくりを行う。

- ① 多様な実態の児童に応じた単元構成、めあての提示や授業構成の工夫と学習グループの構成。
- ② 教科等の見方・考え方を働かせる場面や自立活動の視点をより意識した学習内容の工夫。
- ③ 夢中になって活動したり、自分の考えで選択・実行したりする力を育て、知的好奇心を刺激するような手立てと教材の工夫。

3 取組の実際

(1)目指す資質・能力の明確化~学ぶ内容を明確化にする~

学部目標から「学年で育てたい力」を設定し、年間指導計画や遊びの指導・生活単元学習の中心単元に盛り込むために「目指す姿と学習内容の一覧」を作成し、各教科等ではどのような力を育てたいのかの確認を行った(図1)。その後、中心単元を考える際に「学年で育てたい力」を付けるためにどのような授業を行うのかのアイディアを出し合った(図2)。また、学習内容が他の教科とどのようにつながっているのか確認し、各教科等の見方・考え方や自立活動の視点での関連やつながりを考えた。



学年で育てたい力

遊びの指導、生活単元学習 で付けたいカ→どのように 指導するのか

各教科等との関連・つながり の確認

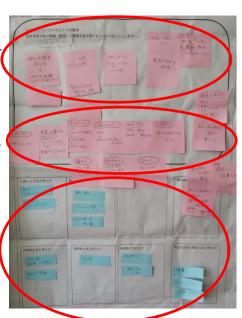


図2 中心単元検討表

図1 目指す姿と学習内容の一覧

(2) 単元の目標と学習内容を明確にした単元計画~学ぶ内容を関連付ける~

1学期の終わりに、年間指導計画を元に「単元配列表」を作成し(図3)、学習指導要領の項目を照らし合わせてどのような学習内容を行っているのかをチェックした。その後、学校行事や各教科等と関連する部分をつなぎ、学習の時期について検討した。また、「学年で育てたい力」がこの学習内容で身に付いたかどうかの検討を行い、今後の学習計画や後期の年間指導計画に取り入れた。

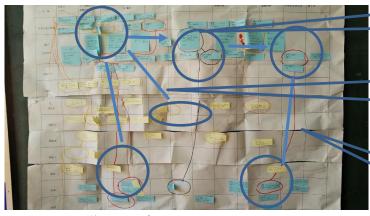


図3 単元配列表

学期ごとに同じ学習内容を行い、ステップア ップを図っている。

遊びの指導や生活単元学習で行っている内容 に関連したことを国語・算数で学習をしたり、 音楽で関連した曲を取り上げたりする。

国語・算数の指導で読み聞かせたお話で「お はなし遊び」や「調理活動」をする。

(3) 目標達成のための学習過程の工夫・改善~学んだことへの気付きや自覚を促す~

遊びの指導と生活単元学習において、「児童に育てたい力」を基に学習内容と学習グループを考え、次の3つのポイントを押さえて授業づくりをしてきた。

① 多様な実態の児童に応じた単元構成、めあての提示や授業構成の工夫と学習グループの構成

1) めあての提示

それぞれの児童の実態に合わせて、 めあての提示や振り返りの工夫を検討 した。全体の場で学習について確認し た後に、育てたい力に応じた学習グル ープに分かれて、より実態に応じて、 個々の具体的なめあてと学習内容の確 認を行った。活動の後にも全体で振り 返る前に、学習グループで、個々に応 じて活動の振り返りをする時間を作っ た(図4)。

2) 単元構成の工夫と学習グループの構成

「学年で育てたい力」に応じ、一つの単元の中で学びに応じた学習グループを構成し、学習のねらいに応じて学習グループを変える単元構成を考えて学習計画を立てた(図5 資料1)。

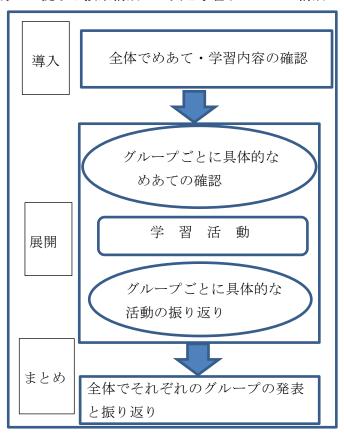


図4 授業構成 めあての提示例

6年生「修学旅行報告会」

1時間目~3時間目

《企画班》 報告会の企画 を考え、自分の 考えを伝える児 童 《制作班》

自分の役割を 理解し、報告会 で全体に必要な ものを制作する 児童

 $\triangle \triangle \triangle \triangle \triangle \triangle$

※ ○△▲は学習グループを構成している 児童を示す。

1時間目~8時間目

全体・各学級で校外学習の事前学習

9時間目~14時間目

3年生「わくわく動物園会」

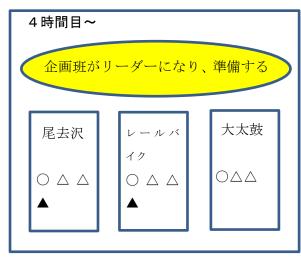
《インタビュー》 動物園のことを 動物のこれ場で 問し、展示掲る としてまとめる児 童

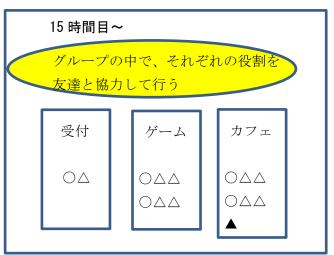
00000

《カフェ体験》 作るものを理解し、「わくわく動物園」で使う グッズを製作する児童 \triangle \triangle \triangle \triangle \triangle \triangle

 $\triangle \blacktriangle$







※ ○△▲は学習グループを構成している児童を示す。

図5 単元構成の例

② 教科等の見方・考え方や自立活動の視点をより意識した学習内容の工夫

1)より実態に応じた学び

一人一人の児童に身に付けてほしい知識や態度等、個々の興味・関心や知識の蓄積に応じて 教師が必要と考える学習内容(例:鉱石について、地域の歴史について、動物や植物のことに ついて等。また、係活動、役割、集団のルール等)を選び、検討しながら授業づくりを行った。 児童一人一人が満足感を感じ、積極的に学習に取り組む姿が見られた。

2)「学年で育てたい力」から考えた学習内容

小学部では、各学年の実態に応じて多少の違いはあるが、低学年で経験を広げたり、友達との関わりをねらい、中学年では友達のために、誰かのために自分ができることをねらい、そして、高学年ではリーダーとして自分からみんなのために活躍するという流れでそれぞれの「学年で育てたい力」を考え、学習内容を積み重ねてきている。そして、各「学年育てたい力」から考えた学習内容は、キャリア教育の視点からの学習内容を踏まえて考えられていた。

③ 夢中になって活動したり、自分の考えで選択・実行したりする力を育て、知的好奇心を刺激するような手立てと教材の工夫

学習の見通しをもたせるために、また、学習の振り返りのために映像を使う授業が多かった。 学習導入の映像は、児童にとって見通しをもちやすかった。また、振り返りの映像を使っての評価は、自分の行ったことが分かりやすく、即時評価につながっていた。また、友達の様子を知ることで、今度は自分もやってみようとする次時の意欲につながった。

(4) 学ぶ姿に着目した授業研究

学部内授業研究会(第2学年 遊びの指導「ぴかぴかランド②」、第6学年 生活単元学習「修 学旅行報告会」)、全校授業研究会(第3学年 生活単元学習「わくわくどうぶつえん開園」)の3 つの授業研究会を行った。また、授業者実践研修の機会を取り入れながら、授業改善アドバイザ

① 授業者実践研究会との連携

1) 第2学年 遊びの指導「ぴかぴかランド②」 7月2日(金)3校時

6月に行われた第1学年の遊びの指導「紙であそぼう」の 授業者実践研修に2年生の遊びの授業者も参加し、互いの遊 びの指導に使用している教材について情報交換を行った。

学部内授業研究会では、学習の振り返りについて、児童の ねらいに応じて言葉掛けを変えたり、発表する児童、実践し てみる児童とねらいに応じて振り返りの方法が違ってもよか ったのではないかという助言があった。また、教材について、 生活に広がりをもてるような工夫について課題が残り、9月 に次単元「ぴかぴかランド③」の授業者実践研修を行い、学 部研究会で助言のあった教材の改善や児童がルールを守って、 友達と一緒に活動するための工夫について改善を図った。



写真 1 児童がイメージして遊ぶた めの教材の工夫



写真2 児童の実態に応じた振り 返り

2) 第6学年 生活単元学習「修学旅行報告会」 9月15日(水)3校時(資料1)

学部内授業研究会に向け、授業者実践研修を同一単元で行い、2回の授業改善を行った。そこで児童の実態や学習のねらいと授業者の授業への思いを学部職員で共通理解することができた。「どの子も分かり、気付き、考えて行動できる」授業にするために学習内容の妥当性についてやリーダーの児童を生かしながらも、リーダーの役割を明確にし、他の児童も自分で考えて活躍できるようなアイディアを出し合った。

学部内授業研究会では、グルーピングの工夫と児童の発想を 大切にし、それを基にダイナミックに再現できたのがよかった。 児童のアイディアが徐々に実現していくことが、児童の自信や 意欲につながっていくという助言があった。





写真3 児童のアイディアを実現 させた発表場所

② 全校授業研究会~第3学年 生活単元学習「わくわくどうぶつえん開園」11月29日(月) (資料2)

この単元では、友達と協力し他学年の友達を招待してもてなすことをねらいとしている。単元の前半では、動物園に行き、飼育員さんにインタビューを行ったグループとカフェの準備のために制作を行ってきたグループに分かれ、友達と協力しながら「わくわくどうぶつえん」の準備をしてきた。後半の「わくわくどうぶつえん」では、お客さんに喜んでもらうために児童一人一人が役割を果たし活動した。

1) 全校縦割りグループによる事前授業検討会・学部内の授業シミュレーション

事前授業検討会では、「どうぶつカフェ」の活動内容が多いので、活動の整理をすること、児童をペアにして関わりをもたせるとよいのではという意見が挙げられた。また、自信を付けるためにもう少し練習する機会を増やし、繰り返し練習することが必要なのではないかという意見があった。そこで、その意見を基にグループ編成を工夫し、児童の練習の時間を増やした。また、学部内の授業シミュレーションでは、リーダーの児童に責任のある仕事を与えることの必要性や即時評価や映像での評価を取り入れてはどうかという意見が挙げられた。

2) 授業提示

グループを「受付・案内」「どうぶつカフェ」「わくわくパーク」「展示」の4つから、展示は 見学するスペースとし、3つのグループに分けた。

全体での導入では、自分の活動内容が分かり、役割を果たすために、活動の予定カレンダーや写真や映像を用いた。また、活動の内容を写真と文字で提示した。グループに分かれてからは、

「今日のがんばりポイント」をグループ内で決める時間を設定し、 自分の役割を果たすことができるように、役割を確認したり、練 習したりする時間を設定した。また、授業の途中で即時評価を行 い、授業の最後に動画や写真でがんばりポイントの振り返りを行



写真4 グループの友達に声 を掛けて活動する児 童の様子

った。繰り返し練習を行ってきたことで、児童は自分の役割に自分から気付いて取り組み、グループの友達に声を掛けたりしながら活動する姿が見られた。

3)授業協議と指導助言

【協議の概要】

全体的に児童一人一人が自分の役割を理解し、招待した5年生をおもてなししようと活動していた。グループ協議では、本時の達成感を次の単元につなげる工夫やより少ない支援で活動に取り組み主体的に活動するためのポイント等、さらなる成長に向けての意見が挙げられた。

【指導助言:高田屋教頭】

みんなが「分かった、できた」と達成感を感じられるように、少し高めの目標を設定していたことで、がんばっている友達の様子を見て、自分もやってみようと意欲をもち、他の児童に引っ張られるように伸びていった。そのためのグルーピングがよく考えられていた。自分の役割を果たして、相手が喜んでくれたと実感できる、経験できる場の設定であったという助言があった。

4 まとめ

(1) 分かり、気付き、考えて行動する児童の姿

いずれの授業においても自信をもって活動をし、自分から様々なことに気付き、取り組む姿が 見られた。リーダーの児童は他の児童に声を掛けながらグループをまとめていこうとする様子 が見られた。また、繰り返し活動を行ったことで、自分のやりたいことを自分で選んだり、活動 の役割を理解し、自分から取り組む姿が見られた。また、リーダーの児童への憧れから自分もや ってみたい、やってみようという意欲が見られた。このような変化は、他の学習や児童会、家庭 でも見られた。以下、にエピソードを挙げる。

- ・遊びの指導の中で、「貸して」「いいよ」「どうぞ」等のやり取りをすることで、休み時間でも 友達と遊びの中でのやり取りでも使えるようになり、友達とのやり取りもスムーズになって きた。(1・2年生)
- ・おもてなしで友達にメダルをプレゼントしたり、飲み物を渡したりする学習をしたことで、家でも母に「どうぞ」とコップを渡す様子が見られた(3年生)
- ・友達に関心が出てきて自分から関わろうとすることが増えた。リーダーの児童はグループの他の児童のことを分かろうとし、他のグループの児童は、リーダーが話すことで何か楽しいことが始まるのではないかと期待し、話を聞くようになってきた。また、他の場面でも、友達を待ったり、「一緒に行こう」と声を掛けたりするようになった。グループとして活動しようとする意識が強くなった。(3・6年生)
- ・生活単元学習で丁寧に制作したことで、みんなに喜んでもらった経験から、図工の作品や他の 場面で制作を行ったときに、丁寧に作るようになった。また、じっくり取り組むようになった。 (4・5年生)
- ・高学年が他学年との交流を計画するときに、「こうするといいのでは」等、自信をもって意見 を出し、他の児童のことも考えた意見を出すようになった。(6年生)

(2) 各教科等の見方・考え方を働かせることができる学習活動や自立活動の視点を取り入れた授業づくりについて

児童が教科等の見方・考え方を働かせることができる学習活動を取り入れ、知的好奇心を刺激していく。また、自立活動の視点を学習内容に取り入れて授業を考える。その上で、児童の学びに応じて必要となる教科の内容や小学部を通して必要と考えられるキャリア教育の視点を取り入れた教育課程を考えていくことができるのではないかと考えていた。しかし、「児童の育てたい力」や教科等の見方・考え方を働かせる学習内容を考えた中心単元学習の計画、単元配列表などの作成を通して、必要な学習内容や単元構成、グループ編成を工夫することで、生活単元学習の中でも効果的に指導を行うことができた。そして、教科等横断的な視点を授業の中に取り入れることができた。また、遊びの指導や生活単元学習で「児童に育てたい力」を考えて、一つの単元の中でも、学習場面に応じて様々なグループで学習をする場面を設定したことで、教科的な知識を身に付けたり、リーダーとしての自覚や自分の役割をがんばろうとする意欲をもったりする等、それぞれの「児童に育てたい力」が付いた。

(3) 今後に向けて必要な取り組み

① 学習内容・学習状況を整理、把握し、引き継ぐ方法の検討

今年度、年度当初に「目指す姿と学習内容の一覧」で「学年で育てたい力」を確認し、年間 指導計画を作成したことで「学年で育てたい力」を考えた授業づくりができた。また、その後 に「学年で育てたい力」を「中心単元検討表」の作成の際に参考にして単元・題材検討を行っ たことで、「児童に期待する姿」を常に意識して学習活動や手立てを考える授業づくりにつなが った。また、各教科等の見方・考え方や自立活動的な視点を考えて、一人一人の児童に必要な 学習内容を検討することができた。そして、「単元配列表」で学ぶ内容を関連付けたことで、学 習指導要領の内容を確認しながら今まで行っていなかった内容もどのようにすると学習の中 に取り込むことができるのかを考え、学習計画を考えるきっかけになり、児童の知的好奇心を 高める授業づくりにつながった。今後、今まで行ってきた学習内容・学習状況を整理、把握し、引き継ぐことで、学習が偏らないように検討することが必要である。

② 一人一人の学びに応じた学習内容と友達と関わりながら学ぶ場面を取り入れた単元構成

それぞれの児童に必要な学習内容やねらいを高めに設定した学習活動を学習に取り入れることで児童は興味・関心をもって学習に取り組んだ。また、同じ学年のリーダー的な児童や上学年の児童と関わり、一緒に活動することで、意欲をもち、自信や達成感につながっていた。このように児童一人一人のねらいに応じた学習内容と友達と関わりながら学ぶ場面をバランスよく授業の中に取り入れることで、一人一人の学びが豊かになっていくと考える。そのためには、生活単元学習の計画の時点で児童一人一人の「育てたい力」を考え、学習内容をどのような学習グループで行うかを考えていかなければならない。また、私たち教師は、各教科等の指導の充実を図るために、その教科ならではの見方・考え方を働かせることができるようにどのような学習活動を取り入れていくかについても検討していきたい。

小学部 6 年 生活単元学習 「修学旅行報告会」学習予定

日にち	校時	活動グループ		活動内容
8月31日 (火)	3 • 4 • 5 • 6	全体→班活動	報告会を	スケジュール、班分け 企画班:発表アイディア企画
9月1日(水)	3 · 4	班活動	しよう準	制作班:式次第 モザイク文字作り スタンプカード、案内状 会場展示用写真選び
	3 · 4	班活動	· 備	云物成八川子英医U
9月3日(金)	5 · 6	全体→グループ別	土口	発表グループ発表
9月7日(火)	3 • 4 • 5 • 6	発表グループ活動	報告会をし	
9月8日 (水)	3 · 4	発表グループ活動	よう発表	大太鼓グループ レールバイクグループ 尾去沢グループ
9月10日(金)	3 • 4 • 5 • 6	発表グループ活動	準備	
9月13日(月)	2	リーダー会議室 他の児童 教室		報告会練習 進行練習
9月14日 (火)	3 · 4	発表グループごと	報	報告会練習 グループ練習
9月15日 (水)	3 • 4	全体→発表グループ	告会をしよ	報告会通し練習
9月21日 (火)	3 • 4	全体→発表グループ	よう発表準	報告会予行
9月22日(水)	3. 4	全体→発表グループ	準備	予行を受けて修正
_ ,,,,	3 • 4	全体→発表グループ	1	報告会準備
9月24日(金)	5 · 6	全体→発表グループ	1	報告会

令和3年度 全校授業研究会(小学部)授業概要シート

1 本単元における育みたい資質能力

学びに向かう力・人間性等

- ・自分で考える、気付く、行動する
- ・自分のやることが分かって、最後まで取り組む
- 「グループの友達と一緒に」取り組む

知識及び技能

- コミュニケーション力
- ・自分の考えをもつ、伝える力
- ・道具の使い方、デザインカ
- ・自分の好きな物を選択する力

第3学年

思考力・判断力・表現力等

- ・ルールや約束を守る
- ・友達と協力する
- ・友達の様子を見て、まねる

2 日 時 令和3年11月29日(月) 10:40~11:25

3 授業

学年· 学級	指導の形態 単元・題材名	場所	指導者
3 学年	生活単元学習	小体育館	T1 藤原真美、T2 宮野佳代子
	「わくわくどうぶつえん開園①		T3 中野純子、T4 高橋 遥
	~小学部の友達を招待しよう~」		T5 岩谷 桜、T6 中村麻希子

<本時の授業について>

本時は、「わくわくどうぶつえん」を開園し、5年生を招待する。友達を招待するのは、2回目であり、1回目は2年生を招待した。(2年生とは、昼休みに一緒に鬼ごっこやボールゲームなどをして遊んでいる。5年生とは、他学年交流をしている。どちらの学年も3年生と交流があることから、子ども達からもからも「招待したい」という要望が多かったため、招待することにした。)

「受付・案内」「どうぶつカフェ」「わくわくパーク(ペンギンボウリング)(キリンの輪投げ)」のコーナーをそれぞれのグループで担当し、招待する友達をおもてなしする。「招待する友達に喜んでもらうため」というポイントを念頭に、個々の頑張ることを「頑張りシート」を用いて確認し、実際に行う。

以上の点や、児童または学習集団として積み重ねた経験、一人一人の変容を踏まえ、次のねらいを設定する。

<ねらい>

- ① お客さんに喜んでもらうために、自分の役割を果たす。
- ② 友達に声を掛けたり、応えたりしながらグループの友達と協力してお客さんをもてなす。

<児童について>

グループの児童のこれまでの学習の様子と期待する姿(本時のねらいを達成した姿)

		g (This is it is the second of
	これまでの学習の様子	期待する姿
〇 5 名	直接お客さんと関わる役割が多い。接客に必要な言葉や動きを覚えたり、相手に伝わるための話し方などに気を付けたりしながら、役割を果たそうとしている。	・自分の役割に自分から気付いて取り組む姿。 ・グループの友達に声を掛けたり、協力したりし ながら活動する姿。
△ 7 名	繰り返し練習してきたことで、自分のやることやコーナーで行う活動の流れが分かってきている。グループの友達の動きや視覚的教材を手掛かりにして、自分から行動できるようになってきた。	・自分から活動に取り組む姿。また、最後まで活動に取り組む姿。 ・友達の声掛けに応えたり、友達の様子を手掛かりにしたりして取り組む姿。
▲ 1 名	「興味ある活動」「自立活動の時間や普段の学校生活で取り組んでいる活動」を生かした役割を設定したことで、手を伸ばして教材を操作するようになってきた。	・みんなと同じ場所で時間いっぱい活動する姿。 ・自分からスタンプやボタンに手を伸ばす姿。

小学部3年 生活単元学習 学習指導案

日 時:11月29日(月)10:40~11:25

場 所:小学部体育館

児 童:男子7名、女子6名、13名

指導者: T1 藤原真美 T2 宮野佳代子 T3 中野純子

T4 高橋 遥 T5 岩谷 桜 T6 中村麻希子

1 単元名 「わくわくどうぶつえん開園① ~小学部の友達を招待しよう~」

2 児童と単元

(1) 児童について

本学年は、男子7名、女子6名の計13名で2学級からなる。教師と言葉でのやりとりを楽しむ児童や教師の簡単な指示が分かり、身振りや自分なりの発声で要求を伝える児童、自分のやりたいことや嫌なこと等の気持ちを泣いたり怒ったりして伝えようとする児童がいる。友達との関わりについては、自分から友達を誘って遊んだり、教師や玩具を介して一緒に遊んだりする様子が見られる。また、一人遊びを好む児童も見られる。活動の場面では、友達を気にかけて声を掛ける、友達の様子を見てまねる、友達に誘われて活動に向かうなど、友達を意識する様子や児童同士で関わり合う場面も見られるようになってきた。一方、学習集団が大きくなると自信のなさから、手を挙げなくなったり、声が小さくなったり、消極的になる様子が見られる。

(2) 単元設定理由

本学年では「動物」をテーマに、1学期は「大森山動物園での象の餌『スダックス』の栽培」、2 学期と3学期は自分たちで動物園を作る「わくわくどうぶつえん」に取り組んでいる。

本単元は、「動物園に行こう」「動物園を作ろう」「動物園を開こう」という小単元によって構成する。実際に動物園で見聞きしたことをもとに活動内容や役割を設定することで、児童が開園までの大まかな流れや必要な準備物などが分かり、開園時のイメージをもちながら取り組むことができる。

小単元「動物園を作ろう」では、制作活動を行う。招待した友達にプレゼントするキーホルダー作りや各コーナーの看板制作、動物にちなんだゲームの制作などは、個々の興味・関心や得意なことを生かした役割分担が可能である。さらに、グルーピングの工夫等によって友達と関わり合いながらみんなで動物園を作り上げていく意識を高めることができる。また、制作活動が苦手な児童も教材(素材)を工夫することで感覚刺激を楽しみながら活動できる。

本単元のゴールである「動物園を開こう」では、3年生の児童と関わることが多い他学年の友達を招待する。ここで「友達に喜んでもらうために」という視点を取り入れることで、相手を意識した接し方や話し方を覚え、実行する状況が設定できる。最後に「ありがとう」や「楽しかった」と感謝されることで達成感や満足感を味わい、一人一人の自信や友達と一緒に活動する喜びにつなげられると考えた。以上のような成果が期待できる学習と考え、本単元を設定した。

(3) 指導について

- ①活動が分かり、自分の役割を果たすための工夫
 - ・見て分かる教材(活動の予定カレンダー、写真や映像)を用いたり、児童が自分で活動を選択したりする場面を設定する。また、活動の内容を写真と文字で提示する。
 - ・自分の役割を果たすことができるように、授業前に役割を確認したり、練習したりする時間を設 定する。
- ②自分や友達を認め合うための工夫
 - ・友達の様子を意識したり、目を向けたりすることができるように、教師が児童の良い点を全体に 紹介したり、実際に制作物などの成果を見せたりする。
 - ・児童が友達の様子を見たり、教師が児童の良い点を見つけたりできるような、座席配置や動線に 留意する。

- ③教科横断的な観点から、「わくわくどうぶつえん」に関連させた学習活動の計画
 - ・国語・算数:校外学習事前学習(しおり作り)、招待状・チケット作り、動物の調べ学習、招待者の人数や準備物の数、お金(バス賃)、メニュー表、ゲームの得点
 - ・図画工作:看板作り、装飾作り、Tシャツ作り ・音楽:テーマ曲 ・体育:校外学習での歩行
 - ・生活:(理科)スダックス栽培と観察記録 (社会科)きまり、公共施設や公共交通機関の利用
- 3 単元目標 知:知識及び技能 思:思考力・判断力・表現力等 学:学びに向かう力・人間性等
- (1)活動内容や自分の役割が分かり、「わくわくどうぶつえん」に必要な物を考えたり、作ったりする。 $\boxed{\mathbf{P}}$
- (2) 友達と協力して、開園準備をしたり、お客さんをもてなしたりする。知 思
- (3) 友達や先生達を招待することを楽しみに、準備や練習に取り組む。学

4 単元計画 (総時間数 49 時間/本時 48 時)

	単元計画(総時間数 49 時間。	/本時 48 時)	
時	学習内容	学習活動	育成を目指す資質・能力(知 圏 学)
1	_	・「わくわくどうぶつえ	・「わくわくどうぶつえん」の活動に見通
	の見通しをもつこと	ん」について知る。	しや期待感をもつ。思学
	国A聞く・話す(イ) (ウ)	・スダックス栽培をす	
	理A生命(ア)	る。	
6	 ・校外学習の見通しをもつこと ・路線バス等の利用の仕方 ・約束を守ること 国A聞く・話す(イ)(ウ) 国B書く(ア)(イ) 生ケきまり(ア) 生コ公共施設(ア) 生ク金銭の扱い(ア) 	・事前学習をする。(いつ、どこに、何で、 誰と等)(しおり作り)(路線バスの乗り方)・事後学習をする。(振り返りシート作り)	・公共施設や公共交通機関の利用を体験し、「みんなと一緒」「話をよく聞く」という約束を守って行動する。知 思 ・動物園で見た動物や楽しかったことなどを写真を見ながら振り返り、シートにまとめる。 思 学
	全/金銭の扱い (/) 体A体つくり(ア)(イ)		
6	 ・校外学習の見通しをもつこと ・相手に伝わる話し方 ・メモの取り方 ・目的をもった行動 国A聞く・話す(イ)(ウ) 国B書く(ア)(イ) 生ケきまり(ア)	・事前学習する。 (いつ、どこに、何で、 誰と等) (しおり作り) (インタビュー練習) (シールラリー) ・事後学習する。 (振り返りシート作り) (礼状作り)	・動物園の方に聞こえる「声の大きさ」「ゆっくりと」に気を付けて質問する。 知 思 ・聞いたことをメモする。 思 学 ・活動内容が分かり、動物を見つけたらカードにシールを貼る。 思 学 ・動物園で見た動物や楽しかったことなどを写真を見ながら振り返り、シートをまとめる。 思 学 ・動物園の方へ感謝の気持ちを込めて、礼状を作成する。知 思
18	 ・活動内容と手順の理解 ・友達との関わり方 ・道具の使い方 国A聞く・話す(イ)(ウ) 国B書く(ア)(イ) 図A表現ア(ア)(イ) 音A表現(ウ)(ア)	<全体> ・Tシャツのデザインをする。 ・招待状、チケット、看板、飾りを制作する。 <どうぶつ展> ・動物について調べてきたことをまとめる。	・好きな動物を描いたり、色塗りをしたりして、自分の動物 T シャツをデザインする。知学・招待する友達に渡すことが分かり、文字やイラストを丁寧に書き、招待状やチケットを作る。知・自分のアイディアや意見を伝える。思・グループの友達と協力して、準備をす

		<どうぶつカフェ> ・プレゼントを制作する。 <わくわくパーク> ・遊具(動物ゲーム)の制作をする。	・動物園で見たことや聞いたこと、調べたことをまとめる。知 思 ・招待した友達にプレゼントすることが分かり、丁寧に作る。思 学 ・自分のやることが分かり、友達と一緒に遊具を作る。知 思
17	 ・相手に伝わる表現の仕方 ・役割の理解 ・友達との関わり方 国A聞く・話す(イ)(ウ) 国B書く(ア)(イ) 算B数と計算(ア) 	 ・各コーナーに分かれて練習する。 ・他のグループに体験してもらい、自分の仕事の練習を重ねる。 ・2年生を招待し、「わくわくどうぶつえん」を開園する。 ・5年生を招待し、「わくかくどうぶつえん」を開園する。 ・1 ・2年生を招待し、「わるくかくどうぶつえん」を開園する。 	・グループの友達と協力して「わくわく どうぶつえん」を開園する。 知 思 学 ・自分の役割が分かって、最後まで取り 組む。 思 学 ・頑張ったことや嬉しかったことを自分 の言葉や絵カードで表現する。知 学

5 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
0	・自分や友達の役割が分かる。	・自分のアイディアを相手に	・経験したことや自分のアイデ
グ	作りたい物をイメージして材料	伝える。	ィアなどをまとめる。
ル	や道具を使い、工夫して制作す	・経験したことを思い出しな	・グループの友達に声を掛けた
1	る。	がら、考えたり伝えたりす	り、協力したりしながら活動
プ	・道具を安全に使う。	る。	する。
△グループ	・自分のやることが分かり、「みんなと一緒」に活動に取り組む。 ・道具の使い方に慣れ、材料の色や模様を選んで制作する。	・見本を手掛かりにして、友 達の様子を見ながら制作す る。	・自分から取り組み、最後まで活動する。・分からないときや上手くできないときには、教師やグループの友達に聞きながら制作や活動に取り組む。
▲グループ	・道具や材料を使って、教師と一 緒に制作する。	・教師や友達の言葉掛けを聞きながら、活動する。	・みんなと同じ場所で、一緒に 時間いっぱい活動する。・自分から手を動かして、制作 する。

6 本時の計画(49時中の48時)

(1) 本時のねらい

- ① お客さんに喜んでもらうために、自分の役割を果たす。
- ② 友達に声を掛けたり、応えたりしながらグループの友達と協力してお客さんをもてなす。

(2) 児童のねらいと手立て(★はリーダー ○・△・▲は「児童の育てたい力」を基にしたグループ)

	No.	氏名・性別	実態(自立活動の視点も含む)	個別のねらい	手立て
受			・自信がないと声が小さくな	・「こちらへどうぞ」	・開園前に「こちらへ
付			るが、教師と一緒に様々な	と大きな声で話す。	どうぞ」と話す練習
•		★A	ことに挑戦できるようにな	・先頭になって、お客	をする。
案	1	(女)	ってきた。	さんを次のコーナ	「こちらに並んでく
内	1			ーに連れて行く。	ださい。着いて来て
					ください」と話して
					から案内する練習
					をする。

	2	B (女) △	・言葉がやや不明瞭だが自分の気持ちや要求を相手に伝えようとする。 ・制作活動は、完成品の見本や作り方を見せることで、 やることが分かり一人で取り組む。	・「こちらです」と言っ て、受付からコーナ ーまでお客さんを 連れて行く。	・開園前に「こちらで す」と話す練習をし たり、コーナーまで 実際に歩いて確認 する。
わくわくパークキ	3	★C (女) ○	・どんなことにも意欲的だが 衝動的に発言したり行動し たりすることが多い。・自分の役割が分かると一人 で活動できる。	・自分の役割の順番が来るまで待つ。・お客さんに伝わるようにルールをゆっくり説明する。	・開園前に、正しい姿 内で待って、正しい姿 一学を提って、方でを 一学を提っては 一時では 一時では 一時では 一時では 一時で 一時で 一時で 一時で 一時で 一時で 一時で 一時で
リン輪投げ	4	D (女) △	・やり方が分かると見通しをもって活動する。・友達のまねをしたり、自分で考えて制作したりする。 友達の進み具合が自分より早い場合は、不安定になることがある。	・お客さんの様子を見ながら、一つずつ輪を手渡し、全部投げ終わったら、自分から輪を集める。	・自分から活動できる ように、「輪を拾う」 「輪を渡す」と書かれたイラスト付き れたイラスト付も、 見えるところとところとされている。 さいたし、 は、カードを指差して伝える。
	5	E (男) △	・発声や身振りでやりとりをする。 ・場面や活動の切り替わりを苦手とし、集団に入れなかったり、遅れたりすることがある。 ・繰り返しの活動は、手順が分かり、自分から取り掛かろうとする。	・メダルを両手で持っ て、「どうぞ」と言い お客さんの首に掛 ける。	・開園前に、「どうぞ と言う練習をする。 ・両手でメダルを持っ て相手に掛ける写 真を準備し、見える ところに貼る。
わくわくパーク	6	★F (男) ○	・平仮名を1音ずつ読むことができる。・疲れがたまると気持ちに波が見られるものの、普段は友達によく話し掛けたり意欲的に活動に取り組んだりする。	・ルール説明を覚え て、大きな声でお客 さんを見ながら話 す。	・ルール説明を覚えて 話せるよう、短い文 にし、文の頭文字を 伝える。 ・大きな声で話せるよ う、開園前に声の物 差しカードを使っ て確認する。
ペンギンボウリング	7	G (男) △	・やりたいことがあると、教師の肩をたたいたり、手を引っ張ったりして伝える。 ・見通しがもてなかったり、急な活動の変更があったりすると、すぐに受け入れられず、情緒が乱れる。 ・作業的活動を好み、時間いっぱい活動する。	・自分から倒れたピン を元の場所に戻し、 立てる。	・自分からペンギンの ピンを直しに行け るよう、ペンギンの イラストカードを 示す。 ・ピンを立てる場所が 分かるように、目印 の床に滑り止めを 置く。

	8	H (男) △	・数字が好きで、数字を書いたり、タイマーを見たりすることを好む。・やるべきことや約束は紙に書くことで理解しやすくなる。	・自分から倒れたペン ギンの数を数えて、 お客さんに数字カー ドを見せて話す。	・お客さんに倒れたペ ンギンの数を伝え られるよう、数字カ ードを用意する。
どうぶつカフ	9	★ I (女) ○	・教師の指示を理解して活動できる。制作は丁寧であるが時間がかかる。・困っている友達に自分から声を掛けたり、手伝ったりする。	・お客さんの顔を見て 挨拶をしたり、注文 を取ったりする。	・開演前に「喜んでも らえるように」と励 まし、教師を相手に 挨拶や注文を取る 練習を行う。
土	10	J (男) △	・発音が不明瞭だが、自分の 気持ちをジェスチャーや簡 単な言葉で伝えようとす る。	・お客さんの前に立 ち、「(どう) ぞ」と 話してメニューを 手渡す。	・開演前に、メニュー の手渡し方と「どう ぞ」の話し方の練習 をする。
	11	K (女) △	・発音が不明瞭だが、発声や 身振りで伝えようとする。・やることや手順を覚えて時間いっぱい活動することができる。	・ペアの友達の話をよ く聞き、3種類の中 からジュースを選 んでお盆に乗せる。	・友達の話に注意が向 くように「○○さん が話すよ。よく聞く よ」と言葉を掛け る。
	12	L (男) 〇	・制作活動はやり方が分かると見通しをもって、1人で取り組む。・友達に自分から積極的に話し掛けるものの一方的である。	・両手でジュースを置 いた後、お客さんに 「どうぞ」と話す。	・開演前に、ジュース の置き方と「どう ぞ」の話し方の練習 をする。
	13	M (男) ▲	・興味・関心のある物には自分から手を伸ばして握ったりする。・見通しが持てないときなどに大きな声を出したり、跳んだりして情緒が乱れるときがある。	・自分から手を伸ばし てスタンプを握り、 型枠の中に入れて 押す。	・チケットを置いた時 に目立つように、果 色の書見台とめの かを使用する。・本児の手の大きさに 合った握りやすい 持ち手のスタンプ を用意する。

(3) 学習過程

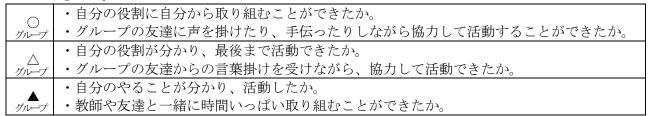
時間 (分)	学習活動		教師の働き掛け、指導上の留意点 囲み部分はねらいに対する手立て
5	*	1 挨拶をする。	・姿勢や T1 に視線が向いているかを確認して挨拶をする。
	導 入	2 本時の活動とめあての確認をする。	「招待する友達に喜んでもらうために頑張る」ことが 意識できるように、めあてを声に出して読む場面を 設定する。・全員で頑張る気持ちを高めるために、掛け声をする。
5	展開	3 グループに分かれて、開園 の準備や自分の役割、頑張 ることなどを確認する。	・「招待する友達に喜んでもらうため」に、個々の頑 張ることを確認したり、実際にやったりする。ま た、その際に個々の頑張ることを「頑張りシート」 を用いて確認し、意識できるようにする。

30		4 「わくわくどうぶつえん」を	
		開園する。	・自信をもって役割を果たすことができるように、 コーナーを担当する教師は、児童の良い点を即時
		○「受付・案内」	評価する。 【受付・案内:T5】【どうぶつカフェ:T2、T6】
		○「どうぶつカフェ」	【わくわくパーク:ペンギンT3、キリンT4】
		○「わくわくパーク」 ペンギンボウリング キリン輪投げ	・児童が自分から動いたり、友達とかかわりながら活動できるように、教師の言葉掛けを少なくしたり、文字や写真で示した教材を見える位置に置いたりする。また、友達との距離間や物の位置などの環境設定を工夫する。 ・本時のまとめや次時の振り返りで活用できるように、活動の様子をiPadで撮影する。また、開園中の全体の様子を見ながら、児童にiPadで画像や動画を見せ
			て活動の即時評価をする。(T1)
5	まと	5 活動の振り返りをする。	・T1 は、iPad で撮影した開園中のお客さんの表情がや 自分たちが頑張っている様子の写真を見せ、めあて を評価する。 ・次時、ビデオや写真を見て、個々や全体の活動の振
	め	6 挨拶をする。	り返りをすることを伝える。 ・姿勢や T1 に視線が向いているかを確認して挨拶をする。

(4) 評価

<児童の評価>

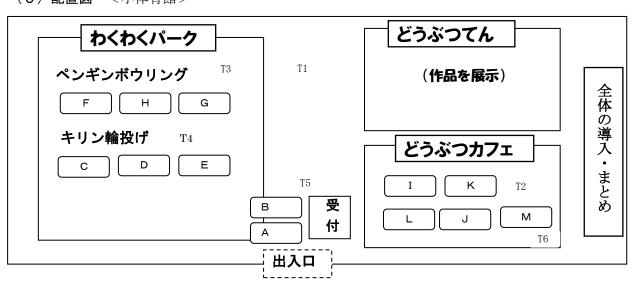
(全体)・お客さんに喜んでもらうために、グループの友達と協力して、自分の役割を果たすことができたか。



<教師の手立ての評価>

・児童同士で協力し合ったり、自分の役割を果たそうとしたりするような、活動内容や環境設定、働き掛けは適切であったか。

(5)配置図 <小体育館>



<中学部 研究テーマ>

生徒1人1人の学びに応じた学習内容や学習活動の工夫 ~教育課程への職業・家庭科の位置づけの検討を通して~

1 学部研究テーマ設定理由

中学部では、昨年度、「自分の学びを振り返ることができる学習活動と手立ての工夫」を研究テーマに、生活単元学習を研究対象授業に設定し取り組んできた。成果として次の3点が挙げられる。1点目は、「目指す姿と各教科等の目標と学習内容の一覧(以下、「目指す姿と学習内容の一覧」と記載)の作成を通して、目指す姿を意識した授業づくりができたことである。2点目は、学習活動や手立ての工夫により、自分の学びを振り返る方法が充実し、生徒の「自分の学びを振り返る力」が育ってきたことである。3点目は、生徒の学ぶ姿に着目した事前授業検討や授業研究会を繰り返すことで、教師の授業づくりに対する意識が高まったことである。一方、課題として、様々な実態の生徒の集団では生徒全員の学びの実感に至らなかったという意見もあり、特定の生徒だけでなく、様々な実態の生徒全員が学びを実感できる授業づくりが必要であることが挙げられた。

また、今年度の中学部の生徒は、知的障害の程度が比較的軽度の生徒で日常生活における身辺自立はできているが「自分はできない」という否定的な自己理解をもち、「やりたくない」など学校生活や将来の生活への見通しや意欲がもてない生徒も増えてきている。その一方で、多くの場面で個別の支援が必要とする生徒もおり、障害の状態が多様化している。

そこで、今年度は生徒一人一人が学びを実感できるように、昨年度の成果を生かした学習活動の 工夫を継続することに加えて、教育的ニーズに応じた学習グループでの活動も考えていくこととし た。そして、学ぶことと将来の生活のつながりを意識し、一人一人の社会的・職業的自立に向けて 必要な力を育むことができるよう、現在、生活単元学習で行っている進路学習を研究対象授業とし、 主に職業・家庭科の指導内容との関連付けを図った生活単元学習の授業を基に、職業・家庭科を教 育課程への位置づけを検討することとした。

2 研究仮説

教育課程への職業・家庭科の位置づけの検討を通して、生徒一人一人の資質・能力の育成に向けた学習内容の精選や学習活動の工夫をすることで、学んだことを活用・発揮できる生徒の育成が図られるだろう。

3 取組の実際

- (1)目指す資質能力の明確化~学ぶ内容を明確にする~
- ①「目指す姿と学習内容の一覧」の作成

昨年度と同様、学年ごとに話合いの場を設け、学校教育目標やキャリア教育の観点から、「目指す姿と学習内容の一覧(写真1)」を作成し、学年で育てたい力を明確化し、その力を育むために、どの教科でどのような学習内容を取り扱うかを検討した。特に2、3年生は、昨年度の評価を基に話し合ったことで、これまでの生徒の学びを共有し、学習内容だけでなく、具体的な学習活動についても話し合いを深めることができた。



写真1 「目指す姿と学習内容の一覧」

②中心単元検討会の実施

昨年度同様、中心単元検討会として年間を通して実施する単元について、学年教師、教育専門監、研究部などをメンバーとして、単元の目標や年間の単元構成を検討した。また、これまで生活単元学習として行ってきた進路学習を研究対象授業として設定し、進路学習についても題材検討会を実施した。学部、学年での話合いだけでなく、進路指導部・研究部との合同での話合い、教育的ニーズに応じた他学年同士で



写真2 話合いの様子

の話合いなど、様々なメンバーでの検討会を重ねた。学習指導要領に記されている職業・家庭科の学習内容と照らし合わせながら、進路学習では何を学ぶべきか、現在の学部、学年で必要な内容は何かを精選した。また、他学年同士での話合いでは、教育的ニーズに応じて学ばせたい内容はたくさんあるものの、限られた授業時数の中でどう進めるか、3学年を見通した学習内容や学習活動の考え方についても検討した。

(2) 単元(題材)の目標と学習内容を明確にした単元(題材)計画~学ぶ内容を関連付ける~

①「単元配列表」の作成

各学年で、生活単元学習や作業学習、各教科等の年間指導計画から学習内容を抜粋し、付箋紙を活用しながら、「単元配列表」を作成した。関連している内容や学習する時期について、付箋紙を動かしながら整理し、検討した。中学部では「目指す姿と学習内容の一覧」を基に「現在の学年で育てたい力」(資料1)も独自に作成し、学年の実態を踏まえ、整理した学習内容をどのように学ぶか、どの時期に学ぶか、各教科等との関連を考えながら進めた。



写真3 付箋紙を活用した検討

②「現在の学年で育てたい力」の評価規準や具体的な評価場面の設定

「現在の学年で育てたい力」の評価規準や、評価場面について、日常生活における具体的な場面や生徒の姿として確認した。長期休業中を利用して、学期ごとの評価や次学期への具体的な取り組みを考える機会として、生かした。

(3) 目標達成するための学習過程の工夫・改善〜学んだことへの気づきや自覚を促す〜

①進路学習についての意見交換

長期休業中に、それぞれの年間指導計画を見合いながら意見交換をした。夏季休業中の意見交換では、各グループの学習の様子や悩んでいることについて、各グループでの意見を学部全体で共有し、2学期以降の進路学習の進め方について検討した。それぞれの学習グループの成果と課題から、教育的ニーズに応じたグループの中で取り組んでいくべき学習内容やグループに応じた学び方についてまとめた(資料2)。



写真4 学部職員での意見交換

冬季休業前の意見交換では、教育課程への職業・家庭科の位置づけの検討を踏まえて、各学年、各グループで成果と課題を話し合った。これまでの取組から、本校の中学部における職業・家庭科の学習内容はどうあるべきか、生活単元学習の中心単元や他教科との関連、必要な時数などについても検討を重ねた。

②自分の学びを振り返る学習活動の充実に向けて

昨年度の研究の成果である「自分の学びを振り返ることができる学習活動の工夫や手立て」を、 今年度も活用していくため、振り返り活動について意識して授業づくりに取り入れていくように した。また、その過程が指導案にも表れるように学習指導案の様式における「指導について」の 項目にも、何を目的とした指導や工夫なのか、見出しを添えて記載した。

③進路学習内容表の作成

職業・家庭科の教育課程への位置づけの検討を考えながら、進路学習についての意見交換を重ねる中で、限られた学習時間の中で多岐にわたる学習内容をどのように選択していくべきかが課題となった。そこで、3年間を見通して、中学部としてどのような学習内容が必要かを一覧にして、年間指導計画に活用できるよう「進路学習内容表」を作成することとした(資料3)。これまでの中学部における進路学習での内容や今年度の授業づくりにおける話合い、学習指導要領、選択している教科書を基にまとめた。

(4) 学ぶ姿に着目した授業研究

①学部内授業研究会

第3学年 単元名「より良い生活を目指して①~今から実践できること~」 7月19日(月)

1) 学部内事前授業検討、授業シミュレーション

本単元では、より良い生活を目指して一日のスケジュールを見直し、継続したいことや改善したいことを友達と話し合いながら考えていくことを主な学習として設定している。本時は、前時で学んだ「バランスの良い食事に関するポイント」を基に、ペアの友達と一緒に一日の食事の献立を考える活動である。

事前授業検討では、以下の点について検討し、共有した。

- ○「バランスの良い食事」の具体的な基準
- →単元計画案では、1食(昼食)での「バランスの良い食事」を考える計画になっていたが、 3食(朝食、昼食、夕食)での「バランスの良い食事」を考えることに変更する。本時で は昼食はカレーライスとし、朝食と夕食のメニューを考える。
- ○ペアの友達との話合いが活発になるような工夫
- →話合いの内容を明記したり、話合いのルールや流れを提示したりする。 授業シミュレーションでは、以下の点について検討し、共有した。
- ○前時までの既習事項を活用できるような手立
- →掲示物やファイルなどを活用する場面を作る。

また、事前授業検討では3年生として次の学部につながるような学習内容の選択の仕方や、1、 2年生でどんな学習を積み重ねていくべきかなどについても、単元構成とともに話題に上がり、 中学部全体で3年間の学習内容を考えていく必要があるということを確認した。

2) 授業提示

前時に学習したサービング(SV:食事提供量の単位)を覚え、学習ファイルや資料を見ながらバランスを考え、メニューリストの中から夕食と朝食の献立を完成させた。対象生徒は、ペアとなった友達の意見を聞きながら、友達の希望するメニューを取り入れようとしたり、「これだと

バランスが悪いなぁ」とつぶやき、軽食を加えたりなど、積極的に学習に取り組んでいた。

3)授業協議と指導助言

【協議の概要】

対象生徒は、プリントや資料を見ながら前時までの既習事項を確認し ながら、バランスを考えたメニューを取り入れようと考えていた。事前 授業検討を経て、生徒同士で話し合う内容を焦点化したことで、相手の 写真5 資料をもとに発表 意見を聞いたり、お互いの意見に納得したりする姿が見られた。今後さらに「理由を付けて話す」

など話し合いのスキルを伸ばしていければ良いという意見が多かった。



【指導助言:諸岡副校長】

学習のルールが定着しており、話し合いに向かう態度に日頃の積み重ねを感じた。プリントや 補助資料、教師の話し合いにおける支援の仕方がポイントになり、話し合いでの生徒同士のやり とりが成立していた。対象生徒の課題である「理由を付けて話す」という部分も、学年や学部職 員で期待する姿を評価していくことで、他の教科等でも活かしていくことができる。また、教科 の見方・考え方を、生単の授業や日常生活の中にどう落とし込んでいくかが、これからのポイン トである。

4) まとめ

今回の授業研究会を経て、3年間を通しての進路学習における学習内容について、教科の見方・ 考え方を学習にどう生かすかということについて、生徒の期待する姿を全員で共有、評価するこ との大切さについて、学部職員で考えることができた。

②全校授業研究会

第2学年 単元名「いろいろな仕事を知ろう」 11月12日(金) (資料4-①②③)

1) 全校縦割りグループによる事前授業検討、授業シミュレーション

本単元は、生徒の身近にある学校や店の中で働く人を調べながら、色々な仕事について知るこ とをねらいとしている。

事前授業検討では、授業者から検討してほしい点として、「将来について働きたいという漠然と した気持ちがあるものの、生活経験が乏しく、将来を具体的に考えるための判断材料が少ない生 徒に、仕事に対して関心をもち、社会には色々な仕事があることを知るためには、どのような学 習活動が良いか」という内容が挙げられその点を中心に検討、共有した。

→特に高等部の教師を中心に、中学部では、広く仕事を知る単元をしっかり学習し、その後、 自分について知ったり、作業学習での体験を経たりして、自分がやってみたい仕事を考える という段階が良いのではないかという意見が出た。授業検討を経て、本単元では、色々な仕 事を知ることを単元のねらいとし、そのための学習活動を考えていくこととした。

学部内シミュレーションでは、分かりやすい話合いの進め方について検討、共有した。

→グループでの話し合いを進める役として、参観する上で具体的な姿があると評価しやすいと いう意見があり、付箋を活用して似たような意見をまとめたり、友達に意見を求めたりする ことを、本時で期待する姿として設定した。また、本時のまとめについても意見を出し合い、 本時のめあてに沿ったまとめの方法について検討した。

2) 授業提示

本時では、スーパーマーケットで働く人たちを、店内図や買い物にいったときの経験などを基に、グループで予測して付箋に書き出す活動であった。前時まで学習した「学校で働く人たち」の経験をもとに、どんな仕事をしている人たちがいるか、そう考えた理由も含めて、積極的に意見を出す生徒が多かった。対象生徒は、意見をもとに付箋を動かしながら、グループの意見をまとめることができた。



写真6 全員で意見を見合う

3)授業協議と指導助言

【協議の概要】

協議では、「前時からの繰り返しの学習活動であることや身近であるスーパーマーケットを取り上げたことで生徒が見通しをもって進めていた。」「付箋を出し合いながら意見を伝えることが、自分の意見を出しやすく、相手の意見も興味をもって聞く態度につながっていた。」という意見が上がった。次時への改善案として、実際に働く場を見て、働いている人の気持ちを知ることでさらに深い学びになるのではないかという案や、この学習を繰り返し、色々な仕事を知ることで自分の興味のある仕事にもつながっていくのではないかという意見が出た。

【指導助言:諸岡副校長】

この単元を通して生徒たちが変わっていく姿が見られた。事前授業検討でも話題となった単元の構成では、中学部2年生としてどこをねらっていくのか、キャリア教育全体計画、「目指す方と学習内容の一覧」を活かして、全校の職員で考え学びの道筋を立てていく。対象生徒は、本時の授業で、まとめの際にいつもよりも積極的な姿が見られた。他の授業では、どんな学び、どんな話合いの姿を見せているのか、情報を共有していくと、授業づくりが高まってくると考える。

4) まとめ

今回の授業研究会を経て、中学部だけでなく、小学部や高等部など、他学部から見た進路学習 の授業づくり、単元を通した生徒の期待する姿の検討をすることができた。

③学部内授業研究会

第1学年 単元名「見つけよう!私ができる家の仕事」 12月23日(木)

1) 事前授業検討、授業シミュレーション

本単元は、職業・家庭科の家庭科の学習内容を基に、家でできる仕事(掃除、食器洗い、洗濯、整理整頓など)を体験しながら、友達同士で良かったところを出し合い、より良い方法を学んでいく学習である。

事前授業検討では、「良いポイント」を評価する際の基準について検討、共有した。

→それぞれの家庭での家事の方法がある中で、友達の様子を見て良いポイントを出し合うため の基準の示し方として、家庭科の教科書を参考にする。友達を評価する際のポイントを提示 する。

授業シミュレーションでは、導入でどのように手順やポイントをどう提示するかを検討し、電子黒板を活用した提示の仕方や、話す際の言葉の選択について、学部内で共有した。

2) 授業提示

本時では、教科書を基に作成した衣服の畳み方の手順表や気を付けるポイントを活用し、実際に畳む体験をしたり、友達の様子を見て良い所を伝えたりした。教師の見本をよく見てポイントに気を付けながら、Tシャツを畳んだり、友達の良い所を付箋に書いたりする姿が見られた。



3)授業協議と指導助言

【協議の概要】

写真7 友達の様子を見合う

協議では、ICT機器の使い方が効果的だったことや、ポイントを示したことで友達の様子をよく見ていたことが意見として挙がった。対象生徒について、友達の様子をよく見て、よいところをたくさん書くことができていたが、それを相手に伝えるということを考えると、友達により伝わりやすくするような工夫(共有できるチェックリストや教師の言葉の添え方など)があればよいという改善案も出た。

【指導助言: 菅原教諭(兼)教育専門監】

やり方を見せるだけの映像ではなく、子どもの意見を聞きながら手本を示していて、ICT機器を効果的に使っていた。机の配置や手順表の準備など、友達と伝え合うことができるような工夫がされていた。この学びを家庭などにつなげることで、様々な場で生徒が評価されたり、感謝されたりする。学びを実感する場を増やしていけたらよい。

【指導助言:諸岡副校長】

生徒がどこまでできるようになったか、複数で話し合って共有してきたことが、生徒の成長につながっている。研究会を通してどこまで学んだかを共有することで、今後どこまで学べるか、学ばせていくかを、次の学部に引き継いでいける。年間指導計画や個別指導計画にそれが表れていくと良い。

4) まとめ

今回の授業研究会を経て、中学部1年生の段階での、職業・家庭科の学習内容や学習活動について、次の学年へ、学んだことをどう引き継いでいくかを学部内で検討することができた。

4 まとめ

(1) 学んだことを活用・発揮しようとする生徒の姿

生徒一人一人の学びに向けて、各学年の対象生徒について、学部研究日や授業研究会を通して情報を共有し期待する姿を評価することで、研究対象授業で学んだことを他の場面で活用・発揮する姿が見られた。具体的なエピソードとして以下に記載する。

- ・食事のバランスについて学習した生徒は、給食の献立が主菜や副菜のどれにあたるかを確認しながら食べ、嫌いな食材が入っていたメニューでは「俺だけバランスが悪くなるなぁ」との残さず食べようとした。
- ・友達と話合いを重ねながら仕事について学習した生徒は、将来の夢ややってみたい仕事についてのアンケートで、年度初めは「働きたい」とだけ書いていたが、年末のアンケートでは「パソコンの仕事や事務の仕事に関心がある」と具体的な答えを書くようになった。また、友達との話合いの中で、友達の話に同意するだけでなく、自分の考えを伝えたりすることが増え、3学期の目標では、「自分から発表することを頑張りたい」と書いた。
- ・家の仕事について友達と洗濯や掃除などを体験しながら、よりよい方法を学習した生徒については、長期休業中に学習した洗濯や掃除などを進んで手伝うようになった。

(2) 何を学ぶかを明確にした授業づくり

①進路学習内容表の作成

「目指す姿と学習内容の一覧」、「単元配列表」の作成を通して、現在の学年や学習グループで何を目指して何を学ぶのかが明確になった。また、進路学習として取り組んでいる生活単元学習の学習内容を、職業・家庭科の教科を参考にして捉えなおしていく過程の中で、学部や学年、教育的ニーズに応じたグループ同士で検討を繰り返したことで、3学年を見通した学習内容の共有・整理ができ、進路学習内容表(資料3)の作成につながった。

②学部全体で授業づくりを共有する機会

授業研究会に向けた事前授業検討や授業シミュレーション、学部研究日における学部、学年、各学習グループでの話合いなど、各学年や学習グループでの授業づくりを学部の教師全員で共有する機会を繰り返しもつことができた。何について話し合うかを明確にし、付箋紙を活用して情報を共有したり、意見交換をしたりする話合いの中で、教師同士が活発に意見を出し合えるようになり、学習活動の工夫や授業における手立ての工夫につながった。

(3) 今後に向けて

①進路学習内容表の活用

職業・家庭科の教育課程への位置づけに関して、学部での話合いの中で、教育課程へ位置づけた方が良いという意見が半数以上出た。しかし、「今年度作成した学習内容表をもとに3年間を見通した学習をしっかりと積み重ねてから検討するべきだ」、「入学間もない1年生の実態、卒業や進学を控えた3年生の実態など、各学年や学習グループの実態の違いを考えると、生活単元学習の時間の中で進路学習として取り組み、必要な時数を各学年で考えていく方が良い」という意見も多くあった。そこで、来年度は3学年を見通した学習の積み重ねを意識し、各学年で中心的に取り組んでいる生活単元学習や他教科等との関連を考えながら、「進路学習内容表」をどう活用していくかを検討していきたい。また、小学校や小学部から進学したばかりの1年生、卒業後を意識した3年生まで、それぞれの学年で重ねてきた進路学習を次の学年、次の学部にどう引き継いでいくか、教師だけでなく生徒自身も、1年ごとの学習の積み重ねを感じられる方法を検討していきたい。

②学部や学年、各学習グループでの話し合いを継続していくシステムづくり

成果とも重なるが、生徒一人一人の学びに向けて、授業づくりに向けた話合いを学部、学年、学習グループで繰り返し積み重ねてきたことで、授業づくりにおける学習活動の工夫や学習内容の検討を学部内で十分共有することができた。また、年度初めや長期休業中、年度末など、時期を定めて「学年で育てたい資質・能力」の評価を行っているが、生徒の具体的な姿の評価としては、まだ十分でない部分もある。話合いを重ねることで、授業づくりやその評価に十分に生かすことができているが、それを継続していくシステムやより効率的な話合いの進め方などについても検討を続けていきたい。

	ı	
C	,	
C	3	i
	ı	

学部目標	学年です	育てた	いナ	J			1学期の評価と2学期の目標
身辺処理能力を高め、健康・安全に生活する力	年 間・体調管理(衣服調整、食事、ケガ)・ルールやマナーを守る	1 学体調管理が		うにな	標る	評価	○身だしなみ、スケジュール管理、食事など、関連する知識を得ることができた。○良い例と悪い例を比較することで具体的なアドバイスを考えられた。△知識は得たが、実際に自分のこととして捉えているか。
						2 学期の目標	・学習したことを日常生活に生かす
お互いの良さを認め合い、協力して活動する力	・相手の話を最後まで聞く・相手の気持ちを考えた関わり方・その場に関係ない話や行動をしない・具体的な説明や依頼の仕	人の話を最	後まで臂	1<		評価	○4月と比べて聞けるようになってきた。○最後まで聞く→反応する、発言するのルールが定着してきた。○導入時のトーキングゲームに最後まで聞くルールを設けた。○国語の時間にも同様のルールを設けることで、聞けるようになってきた→今後も横断的な指導を。
	方					2 学期の目標	・(実態に応じて) 自分の考えを伝える力を高める
目標の達成に向けて主体的に人や物と関わり、最後までやり遂げる力	・集中力、持続力・最後までやりとげる・学校外の人との関わり(敬語、マナー含む)	自分の役割る	を最後す	までやり)遂げ	評価	○課題に向かう気持ちが高まってきた。課題を拒否しない、ペアでの活動を繰り返した。△最後まで向かう力に課題あり。授業の後半、他のことを考える、他人にちょっかい、寝るなど・・・
						2学期の目標	・持続力をつける ・言葉遣いを身につける→知識がない、表現が分からない生徒が多い。

令和3年 中学部1学期 進路学習(グループ別)成果と課題 7/28学部研

3 段階		2 [设階	1 段階		
2 年生	3 年生	2 年生	3 年生	2 年生	3 年生	
 ○楽しんで学習できるように計画されていてすばらしい ○例え話などのネタを元に考えると取り組みやすい。 【ロールプレイ】 ○自分を深掘らずロールプレイで役割を演じる good! ○自分で考える経験を積ませたい⇒みんな(集団)で楽しんでできる、大変だったこと、気付いたことのシェアが良い ○集団で楽しんでできる ○「人生すごろく」のようにゲーム感覚だと活動にのれそう 	食事など関連する知識を得られた ○良い例、悪い例を比較する活動繰り返す⇒具体的なアドバイスを考える ○導入時のトーキングゲーム⇒①最後まで話を聞くルールの定着②発言、反応するルールの定着 ○課題に向かう気持ち高まる活動	○「家庭」分野の要素の学習が分か り安いと思うので後期はぜひ!	 ○挨拶、話の聞き方継続→学級でも抜き打ちチェック! ○挨拶、継続するのが大事 ○自分で自分を評価する機会、タブレットで録画したものを見る ○電子黒板を活用・・・声の大きさ、あいさつの仕方 ○タブレット活用→自己理解・・・できるといっていたが、実際は・・・ ○高等部の先輩身近な人から話を聞く機会 	○気持ちの安定⇒見通しがもてる ○余暇⇒将来の生活、実生活が豊か になりそう ○まずは対大人⇒ステップを経て対 友達実態に合っている	○ジャム作りしてみては?ジャムを 使りしてみては?ジャムを 使しようろ(道具)実態に応じたじょうろを準備した ○主体的に活動できる時間、メンバー ○カンパニーとして呼名→仕事の流れがい! ○育ている活動にいろいろ要素が含まれている ○食→みんなが興味あるものをやっている ○「カンパニー」で単元化、まねさせてもらいたい	
● 報要 を	●学んだことを自分のこととして捉えていけるように●課題に向かう気持ちが持続できるように	● パイン では、	意識がもてるかも ●役割分担、工程の分担で周りを意識 ●仕事体験→必要感もてるもの、みんなで分担してやり遂げる ●身近な人から話を聞く機会→校内でインタビューを繰り返してより深く知識を得る ●一つのテーマにしぼって、体験的な活動をし、その中で覚えていく	○一人一人興味が重なるところを見つけるといいいね○リラクゼーション、マッサージグッズ、電動式で	→調理室への移動手段、ヘンゼル とグレーテルのように道具や材料 を拾いながらたどり着く	
 [学習内容] ○将来のイメージをもつために、様々力を知る ○家庭分野の内容について、広く知言[有効な活動] ○ロールプレイ、例え話[話し合い] ○グループでの話し合い⇒ペア、4人の話し方、聞き方のルールの定着[その他] ○活動の中で新しい言葉や表現方法である。 	人など実態に応じて	[学習内容]	動 な力、押さえるべき要素を身に付ける	[学習内容] ○ゆっくり、じっくり、実態のペース ○繰り返し、見通しのもてる内容 [有効な活動] ○主体的に活動できる、学年生単で ○実態に応じて対教師から友達を意計 ○活動の中で自分なりの表現方法を見	できない活動 識する活動 へ	

開隆堂出版「たのしい職業科 わたしの夢につながる」 「たのしい家庭科 わたしのくらしに生かす」参考

1年生 → 2年生 → 3年生

「〇〇生になって」

例)・進路学習オリエンテーション ・目標設定

「自分を知ろう」

例)・自分と友達の良さを知る ・自分の得意なことや苦手なことを知る ・自分の楽しみ(余暇)「将来に向けて」

- 例)・高等部の先輩や先生と語る会 ・キャリアマップ (将来の夢や目標) の作成
 - ・個別面談 ・進路希望アンケート

「高等部について知ろう」

例)・中学部と高等部の違い ・高等部の学習や生活について

・受験について・進路選択

高等部体験

「いろいろな店舗」「いろいろな仕事」

例)・店舗調べ ・働いている人にインタビュー

(働いている時間、内容、気をつけていること、店舗のおすすめなど・・・)

・仕事について知ろう

(仕事の種類→カテゴリー分け 仕事に必要なこと→技術、態度、健康管理など)

・自分の興味のある仕事や、やってみたい仕事

「仕事を体験しよう」

例)・様々な道具の使い方や体験

(ものづくり、栽培体験、清掃(ごみ分別など)、事務(コピー機や電話対応、資料まとめなど))

・パソコンやタブレットなどの操作、活用方法

「様々な人との関わり」

例)・他学年、他学部との関わり ・高齢者との関わり ・小さい子どもとの関わり

「買い物の学習」

- 例)・店舗での買い物の経験・予算に応じた買い物・必要な物の取捨選択
 - ・ 通信販売について

「家の中での仕事」 「家庭での自分の役割」 「自立した生活にむけて」

- 例)・1日の過ごし方・生活リズム・家庭の中での仕事
 - ・衣服の手入れ(洗濯、アイロン、裁縫、収納) ・清掃(整理整頓、浴槽やトイレ清掃など)
 - ・身だしなみ ・バランスの良い食事(栄養、保存方法、調理)

中学部2学年 生活単元学習(進路学習Cグループ) 単元計画

1 単元名 いろいろな仕事を知ろう

2 生徒と単元

(1) 生徒について

- ・8名 (男子6名、女子2名) のグループである。中学部卒業後は本校高等部進学を希望して おり、総合サービス科受験を考えている生徒もいる。
- ・将来就きたい職種や職業について具体的なイメージをまだもっていないが、全員が働きたい という希望をもっている。知っている仕事ついて尋ねると、家族の仕事や、スーパーや病院 で目にしたことのある仕事が挙げられた。
- ・自己肯定感が低く、自信がもてないことから、学習に対する意欲が低かったり、自分の考え を発言することに苦手意識をもっていたりする生徒が多い。苦手な面や失敗を周囲に知られ たくないために活動に消極的になりがちな生徒もいる。
- ・これまでの様子から、一人での活動よりもグループ活動にした方が考えたり、発言したりし やすくなる傾向にある。また、ロールプレイやクイズ形式など体験的な活動を取り入れるこ とで、活動への意欲が高まり、他者に目を向ける場面が増えてきた。

◎対象生徒について(F)

- ・学習に向かう姿勢が身に付いており、教師の話を聞いて理解したり、板書を写したりしな がら授業に参加している。
- ・知っている仕事は少ないが、将来は働きたいと考えている。バスケットボールが好きで、 年度初めのアンケートにはバスケットボール選手になりたいと書いている。
- ・自分の考えや感想をもっているが、積極的に発言することは少ない。学級の話し合い活動では、自分の意見を述べることはなく、発言力のある友達の意見に賛同して動くことが多い。自信がなかったり、「分からない」と言えなかったりすることもある。
- ・困ったことや不満を口にすることがなかったが、二学期になってから日誌に表現できる ことが増えてきた。

(2) 単元設定理由

- ・前単元までは、自己理解につながるように、自分の好きなことや長所、将来の夢を考えて伝える学習を行った。また、前期作業学習週間と関連づけながら、働くために大切なことや今後の生活で必要なことについて考えを出し合う学習も行った。
- ・これまでの学習を通して、将来は働きたい、一人暮らしをしたいなどの希望をもち、どのような仕事があるのか、どのような暮らし方があるのか知りたいと話す生徒が複数いた。
- ・本校卒業生の進路先を具体的に知る学習の前に、世の中には多くの職種や業種があることを 知り、様々な職種への興味をもったり、将来の生活を考えたりするきっかけにしたい。
- ・グループでの活動を設定することで、友達と調べたり、答えを見付け出したりするなど自分 の思いや考えを伝え合い、自信をもって発表する姿につながるのではないかと考える。

(3) 指導について

- ・見通しをもち、自信をもって活動するために、単元を通して①予測する、②確かめる、③ま とめる、の展開を繰り返し行う。
- ・学習したことが視覚的に残り、知識の獲得につながるように、要点を穴埋めや単語で書き込めるワークシートを準備する。
- ・学んだことを活用できるように、既習事項を振り返りながら、表にまとめる学習の機会を設 定する。
- ・自分の考えを伝えることに慣れ、自信をもって発表できるように、一人で考える活動の後に グループで意見交換をし、考えを整理して発表する展開にする。
- ・他者評価の一助となるように、お互いのグループの考えを伝え合う機会を設定する。
- ・職種について気付いたり、調べたことをイメージしたりして全員で共有することができるように、映像の提示や体験する機会設定を行い、イメージの確認をする。

3 単元の目標

- (1)様々な職種があることや多くの人の仕事によって生活が成り立っていることを知る。知
- (2) 仕事について予測したり、調べたりする活動を通して、グループの友達とやりとりしながら 気付いたことや考えたことを言葉にしたり、書いたりして伝える。 圏
- (3)様々な職種に興味をもったり、将来やってみたい仕事に気付いたりして、将来の生活への希望や夢をもつ。学

4 単元計画 (総時間数 15 時間/本時9・10 時)

単プ	_ 単元計画(総時間数 15 時間/本時 9・10 時)					
時	学習内容	学習活動	育成を目指す資質・能力 (知 思 学)			
	・様々な職種の理解	給食のカレーライスがど	・一つのものは多くの人の仕事によっ			
	職・家(職)Cア、	んな食材や物からできて	てできていることを知る。知			
1	イ	おり、どのような職種が				
	職種についての話	関わっているのかを考え				
2	し合い	たり、映像を見たりす				
	国A聞くこと・話す	し る。				
	ことエ、オ	グループで話し合って予				
		測した職種を出し合う。				
	職種のカテゴリー	・前時で知った職種を「運	・職種を分類できることを知る。知			
	分け	ぶ仕事」「販売の仕事」な	・自分の考えを友達に話したり、友達			
3	職・家(職)Cア、	どのカテゴリーに分け、	の考えを聞いたりしながら、グルー			
	1	まとめる。	プで考えたカテゴリー分けを資料			
4	カテゴリー分けに	・グループで話し合って職	にまとめる。圏			
	ついての話し合い	種をカテゴリー分けを				
	国A聞くこと・話す	し、発表する。				
	ことエ、オ					
	・本校における職種	・本校ではどのような職種	・自分の考えを友達に伝えたり、友達			
5	についての予測	の人たちが働いていいる	の考えを聞いたりしながら、グルー			
	職・家(職)Cア、	のかを考える。	プで予測した職種を資料にまとめ			
6	1	グループで話し合って予	る。思			
	職種についての話	測した職種を発表する。	- 0 [5]			
	し合い					
	国A聞くこと・話す					
	ことエ、オ					
	・本校における職種	・校内で働く人たちを見た	・学校における職種を知ったり、多く			
	の確かめとカテゴ	り、聞いたりして、様々	の人の仕事で学校が成り立ってい			
7	リー分け	な職種を知る。	ることに気付いたりする。知			
•	職・家(職)Cア、	・知った職種を「人と関わ	・自分の考えを友達に話したり、友達			
8	イ	る仕事」「作る仕事」な	の考えを聞いたりしながら、グルー			
	カテゴリー分けに	どのカテゴリーに分け、	プで考えたカテゴリー分けを資料			
	ついての話し合い	まとめる。	にまとめる。思			
	国A聞くこと・話す	グループで話し合って職	・具体的な仕事内容を知り、様々な職			
	ことエ、オ	種をカテゴリー分けを	種に興味をもつ。学			
		し、発表する。				
	・スーパーマーケッ	・スーパーマーケットでは	・自分の考えを友達に伝えたり、友達			
	トにおける職種に	どのような職種の人たち	の考えを聞いたりしながら、グルー			
9	ついての予測	が働いているのかを考え	プで <u>予</u> 測した職種を資料にまとめ			
•	職・家(職)Cア、	る。	る。思			
10	1	・グループで話し合って予				
	・職種についての話	測した職種を発表する。				
	し合い					
	国A聞くこと・話す					
	ことエ、オ					

	・スーパーマーケッ	・スーパーマーケットで働	スーパーマーケットにおける職種を
	トにおける職種の	く人たちを見たり、聞い	知ったり、多くの人の仕事でスーパ
11	確かめ	たりして、様々な職種を	ーマーケットが成り立っているこ
•	職・家(職)Cア、	知る。	とに気付いたりする。知
12	イ		・様々な職種に興味をもったり、やっ
			てみたい仕事に気付いたりする。学
	・スーパーマーケッ	・前時で知った職種を「人	・自分の考えを友達に話したり、友達
13	トにおける職種の	と関わる仕事」「作る仕	の考えを聞いたりしながら、グルー
•	カテゴリー分け	事」などのカテゴリーに	プで考えたカテゴリー分けを資料
14	職・家(職)Cア、	分け、まとめる。	にまとめる。思
	イ	・グループで話し合って職	様々な職種に興味をもったり、やっ
	・カテゴリー分けに	種をカテゴリー分けを	てみたい仕事に気付いたりする。学
	ついての話し合い	し、発表する。	
	国A聞くこと・話す		
	ことエ、オ		
15	・既習事項を基にし	これまでの学習のまとめ	・学習した様々な職種をイメージし、
	た振り返り	や振り返りをし、分かっ	将来の自分と結び付けながら感想
	職・家(職)Cア、	たことや感想を書いた	を書いたり、発表したりする。思
	イ	り、発表したりする。	・様々な職種に興味をもったり、将来
	国A聞くこと・話す		やってみたい仕事に気付いたりし
	ことエ、オ、B書く		て、将来の生活への希望や夢をも
	ことア		つ。学

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・身近な学校やスーパーマー	・グループの友達に自分の	・様々な職種に興味をもち、
ケットで、様々な職種の人た	考えや気付いたことを言	職種の名前や仕事内容をイ
ちが働いていることを理解	葉で伝えている。	メージしようとしたり、調
している。	友達の考えを聞きながら、	べようとしたりしている。
・自分たちの生活が多くの人	グループとしての意見を	・以前よりも具体的に将来の
の仕事でつながり、成り立っ	考え、まとめている。	生活への希望や夢をもとう
ていることに気付いている。		としている。

6 本時の計画(総時間数 15時間/本時9・10時)

- (1) 本時のねらい
 - ①スーパーマーケットをイメージしながら、どのような職種の人たちが働いているのかを予測 する。 思
 - ②友達と考えを伝え合いながら、グループで予測した職種を資料にまとめる。思
- (2) 本時の主な学習活動
 - ・アイスブレイク・スーパーマーケットにおける職種を自分で予測する。
 - ・2グループに分かれ、一人一人の考えを伝え合い、グループで職種を導き出す。・予測した職種を発表する。
 - ・自分のグループの話し合いや他のグループの発表を振り返り、考えたことや感じたことを書く。

(3) 対象生徒に期待する姿

- ・これまでの学習を手掛かりにしながら、<u>スーパーマーケットにおける職種を予測し、自信をもってワーク</u> <u>シートに書いている。</u> 思考力・判断力・表現力
- ・グループの話し合いで、<u>ワークシートに書いた職種を伝えたり、友達の意見を聞いたりして、理由を含め</u>ながらグル<u>ープとしての考えをまとめようとしている。</u> 思考力・判断力・表現力

令和3年度 全校授業研究会(中学部)授業概要シート

学年· 学級	指導の形態 単元・題材名	場所	指導者
中学部	生活単元学習	中学部2年3組	熊 谷 理香子(T1)
2年	いろいろな仕事を知ろう	中子前 2 年 3 祖	藤 井 優 香(T2)

<本時の授業について>

本時は、「スーパーマーケットで働いている人たちの仕事を考えよう」の1・2時間目である。スーパーマーケットではどのような仕事があるのか自分で予想し、グループで考えを伝え合う。

始めは、一人で考える活動にし、スーパーマーケットの店内図を見ながら、どのような仕事があるのか予想したことと理由を付箋に書いていく。その後、4人グループになり、自分の考えを伝え合い、拡大版の店内図に付箋を貼ってまとめていく。最後は各グループで予想した仕事を発表する。

ねらいは「スーパーマーケットをイメージしながら、どのような仕事があるのかを予想する。」「グループの友達と予想した仕事を伝え合い、グループの意見として発表する。」である。スーパーマーケットで仕事をする人を想起できるように、「精肉」「鮮魚」などのキーワードとなる言葉が入った店内図を準備したり、既習プリントの活用の促しをしたりする。また、グループでの活動がスムーズに進むように、「一人一回は発言する」「理由をつけて話す」を話合いのルールとして提示したり、進行役や発表役を明確にして話合いの手順を示したりする。

<対象児童生徒について>

(1) 対象児童生徒の実態

- ・板書の視写など書くことへの抵抗感はあまりなく、手元にワークシートがあると自分から板書を 写しながら授業に参加する。
- ・将来は働きたいと考えている。知っている仕事は少ないが、自分が行ったことのある場所での仕事(病院、コンビニ)は何となく知っている。
- ・周囲の友達の影響を受けやすく、行動面や態度面で流されやすい傾向にある。自分の考えをもっていても自分から述べることは少なく、発言力のある友達の意見に賛同して動くことが多い。
- ・自分の気持ちを面に出すことが少ない。自信がもてなかったり、「分からない」とすぐに言えず にいたりすることがあるが、具体的に例を示すと理解して活動する。困ったことや不満を口にす ることがないが、二学期になってから日誌に少しずつ表現できることが増えてきた。

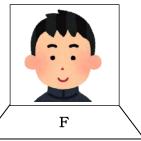
(2) 本単元における育みたい資質能力

学びに向かう力・人間性等

- ・様々な職種について調べたり、友達と考えを伝え合ったりして学ぼうとする。
- ・様々な職種を知り、現在の生活や将来の生活と結び付けて考えたり、将来への希望をもったりする。

知識及び技能

- ・様々な職種の名前や仕事の大まかな内容を知る。
- ・友達に伝わるような話し方、時間 内でグループの意見がまとまるよ うな話合いをする。



思考力・判断力・表現力等

- ・自分で予想したり、考えたりしたことを自信をもってワークシートに書く。
- ・自分の考えを理由を添えて伝える。
- ・友達の考えを聞き、時間内でグループの意見をまとめる。

(3) 対象生徒のこれまでの学習の様子と本時の期待する姿(本時のねらいを達成した姿)

これまでの学習の様子

・自分の考えを書く活動では、時間をかけて考える ことが多い。具体的に尋ねて整理したり、肯定的 な言葉掛けをしたりすると書き進められることが ある。

・話合いでは消極的だが、手元に書いたものがあれば読んで伝える。本単元の3・4時では友達に「なんでそう思ったの?」と尋ねることがあった。

期待する姿

- ・これまでの学習を手掛かりにしながら、仕事を 予想し、自信をもって付箋に書いている。
- ・グループの話し合いで、付箋に書いた仕事を理由を添えて伝えたり、友達の考えを聞いたりして、付箋を貼りながら似たような意見をまとめようとしている。

中学部第2学年 生活単元学習(進路学習)学習指導案

日 時: 令和3年11月12日(金) 10:35~11:50

場 所:中学部2年3組教室

生 徒:男子6名、女子2名、計8名

指導者:熊谷理香子(T1)、藤井優香(T2)

1 単元名

いろいろな仕事を知ろう

2 生徒と単元

(1) 生徒について

8名 (男子6名、女子2名) のグループである。中学部卒業後は本校高等部進学を希望しており、総合サービス科受検を考えている生徒もいる。将来就きたい仕事について具体的なイメージをまだもっていないが、全員が働きたいという希望をもっている。知っている仕事について尋ねると、自分の家族が従事している仕事、スーパーや病院等見たことのある仕事が挙げられた。

生徒の多くは、自己肯定感が低く、自信がもてないことから、学習に対する意欲が低かったり、自分の考えを発言することに苦手意識をもっていたりする。また、苦手な面や失敗を周囲に知られたくないために活動に消極的になりがちな生徒もいる。これまでの学習の様子から、グループなど集団での活動を取り入れることで、考えたり、発言したりしやすくなる傾向にある。また、ロールプレイやクイズ形式など体験的な活動を取り入れることで、活動への意欲が高まり、他者に目を向ける場面が増えてきている。

(2) 単元設定理由

前単元までは、自己理解につながるように、自分の好きなことや長所、将来の夢を考えて伝える 学習を行った。また、前期作業学習週間と関連付けながら、働くために大切なことや今後の生活で 必要なことについて考えを出し合う学習も行った。これまでの学習を通して、将来は働きたい、一 人暮らしをしたいなどの希望をもち、どのような仕事があるのか、どのような暮らし方があるのか 知りたいと話す生徒が複数いた。

本単元では、今後の本校高等部卒業生の進路先を具体的に知る学習の前に、世の中には多くの仕事があることを知り、様々な仕事に興味をもったり、将来の生活を考えたりするきっかけにしたいと考えた。その際、社会の中で実際に働いている人を見たり、働いている様子を聞いたりする体験的な活動を取り入れることで、仕事に対するイメージがより具体的になり、心に残りやすく、気付きや問いを発しやすくなるのではないかと考える。さらに、友達と調べたり、答えを見付け出したりするグループ活動を設定することで、自分の考えを伝える、自分と友達の考えを比較する、折り合いを付けて一つの答えを導き出すなど人とやりとりする経験が積み重なり、人間関係の構築やコミュニケーション能力の向上につながるのではないかと考える。

(3) 指導について

<学んだことを次の学びにつなげる力を育むために>

- 単元の構成を①予想する、②確かめる、③まとめる、の流れを繰り返す。
- ・基本的に一単位時間の学習活動の流れを①自分で考える、②グループで意見交換する、③グループの意見をまとめ発表する、の流れにする。
- ・振り返りの内容を充実させることが出来るよう友達の意見を聞いたり、互いのグループを伝え合ったりする機会を設定する。

<学んだことの定着・活用を図るために>

- ・学んだことを活用できるように、既習事項を確認する活動やこれまで学習したことをシートや表にまとめる機会を設定し、教室に掲示したり個別にファイリングをしたりする。
- ・自分の考えを整理しながら学習を進められるように、なぜそう考えたか理由を具体的に尋ね、文章化での表現を促す。また、考えを深めることが出来るよう、生徒のつぶやきを周囲に伝えたり、 つないだりする。

< 「仕事」に対する具体的なイメージをもち、全員で共有できるように>

・仕事について気付いたり調べたりしたことを全員で共有することができるように、働いている人

にインタビューをしたり、働いている場を実際に見たりする機会を設定する。

- 3 単元目標 知:知識及び技能 思:思考力・判断力・表現力等 学:学びに向かう力・人間性等
- (1)映像を見たり、調べたりする活動や体験活動を通して、様々な仕事があることを知る。知
- (2) 仕事について予想したり、調べたりする活動を通して、グループの友達とやりとりしながら気付いたことや考えたことを言葉にしたり、書いたりして伝える。 思__
- (3)様々な仕事への興味や仕事について知りたいという気持ちをもつ。学

4 単元計画(総時間数22時間/本時13・14時)

4	単元計画(総時間数 22 時間/本時 13・14 時)							
時	学習内容 (関連のある教科等の学習内容)	学習活動	育成を目指す資質・能力 (知 圏 学)					
1 • 2	・様々な仕事があることの 理解 職・家(職) Cア、イ 社エ(ア) 国A聞くこと・話すこと エ、オ	給食のカレーライスはどのようにできているのかを考えよう ・給食のカレーライスがどのような食材や物からできており、どのような仕事をしている人たちが関わっているのかを考えたり、映像を見て知ったりする。・グループで話し合って予想した仕事を出し合う。	・一つのものは多くの人の仕事 によってできていることを 知る。知					
3 . 4	・自分の意見の伝え方 職・家(職) Cア、イ 社エ(ア)(イ) 国A聞くこと・話すこと エ、オ	仕事を3つの種類に分けてみよう ・前時で知った仕事を「つくる仕事」「人と関わる仕事」「運ぶ仕事」などのカテゴリーに分け、 まとめる。 ・グループで話し合って仕事をカ テゴリー分けし、発表する。	・仕事を大まかに分類できることを知る。 ・自分の考えを友達に話したり、友達の考えを聞いたりしながら、グループで考えたカテゴリー分けをし、資料にまとめる。					
5 • 6	・予想の立て方と文章化・話合いの仕方職・家(職) Cア、イ社エ(ア)国A聞くこと・話すことエ、オ	学校ではどのような仕事をしている人がいるのか予想しよう ・本校でどのような仕事をしている人がいるのか予想する。 ・グループで話し合って予想した仕事を発表する。	・自分の考えを友達に伝えたり、友達の考えを聞いたりしながら、グループで予想した仕事を資料にまとめる。 思					
7 • 8	・予想したことの確かめ方 ・相手との適切な関わり方 職・家(職) Cア、イ 国A聞くこと・話すこと エ、オ	学校ではどのような仕事をしている人がいるのか予想しよう ・グループごとに、確かめたいことや質問する際に気を付けることなどを整理する。	・自分の考えを友達に伝えたり、友達の考えを聞いたりしながら、次時で確かめたい内容や気を付ける点をグループで考える。 思					
9 • 10	・校内の仕事について実践的な知識の獲得職・家(職) Cア、イ社エ(ア)(イ)	学校ではどのような仕事をしている人がいるのか知ろう ・校内で仕事している人たちを見たり、質問したりして、様々な仕事を知る。	・学校で仕事をしている人の職名や仕事内容を知る。知 ・校内の仕事に興味をもつ。学					
11 • 12	・仕事について分かったことの文章化・意見のまとめ方職・家(職) Cイ国A聞くこと・話すことエ、オ	学校ではどのような仕事をしている人がいるのか知ろう ・知った職名や仕事内容を整理してまとめる。	・自分の考えを友達に話した り、友達の考えを聞いたりし ながら、分かったことを資料 にまとめる。 思					

13 • 14	・予想の立て方と文章化 ・話合いの仕方 職・家(職)Cア、イ 社エ(ア)(イ) 国A聞くこと・話すこと エ、オ	スーパーマーケットではどのよう な仕事をしている人がいるのか予 想しよう ・スーパーマーケットではどのよ うな仕事をしている人がいるか 予想する。 ・グループで、予想した仕事を発 表し合う。	・自分の考えを友達に伝えたり、友達の考えを聞いたりしながら、グループで予想した仕事を資料にまとめる。 思
15 • 16	・スーパーマーケットの仕事について実践的な知識の獲得① 職・家(職) Cア、イ社エ(ア)(イ)	スーパーマーケットではどのよう な仕事をしている人がいるのか知 ろう ・スーパーマーケットで仕事して いる人たちを見て、様々な仕事 を知る。	・スーパーマーケットで仕事をしている人の職名や仕事内容を知る。知・スーパーマーケットの仕事に興味をもつ。学
17 • 18	・分かったことやさらに知りたいことの文章化 ・意見のまとめ方 職・家(職) Cア、イ 国A聞くこと・話すこと エ、オ	スーパーマーケットではどのよう な仕事をしている人がいるのか知 ろう ・知った職名や仕事内容を整理し てまとめる。 ・グループごとに、さらに知りた いことを整理する。	 自分の考えを友達に伝えたり、友達の考えを聞いたりしながら、グループで資料にまとめたり、知りたいことを考えたりする。 スーパーマーケットの仕事について知りたいという気持ちをもつ。
19 • 20	・スーパーマーケットの仕 事について実践的な知 識の獲得② 職・家(職) Cア、イ 社エ(ア)(イ)	スーパーマーケットではどのよう な仕事をしている人がいるのか知 ろう ・スーパーマーケットで仕事して いる人に質問し、仕事について さらに詳しく知る。	・スーパーマーケットの仕事に ついて、疑問点を明らかに し、さらに詳しく知る。知 ・スーパーマーケットの仕事に ついてイメージしようとす る。学
21 • 22	・既習事項を基にした自分 の考えの文章化と発表 の仕方 職・家(職) Cア、イ 社エ(ア)(イ) 国A聞くこと・話すこと エ、オ、B書くことア	いろいろな仕事を知って、感じたことや考えたことを伝えよう ・これまでの学習を振り返り、学校やスーパーマーケットの仕事の中から興味のある仕事について発表する。 ・今後、仕事についてもっと知りたいと思ったことを書く。	・学習した様々な仕事をイメージし、将来の自分や今後の生活と結び付けながら感想を書いたり、発表したりする。 思・様々な仕事に興味をもったり、興味のある仕事に気付いたりする。学

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・身近な学校やスーパー	・グループの友達に自分の考えや	・様々な仕事に興味をもち、仕事して
マーケットでは、多く	気付いたことを言葉で伝えてい	いる人や仕事内容をイメージしよ
の人たちが仕事をして	る。	うとしたり、調べようとしたりして
おり、様々な仕事内容	友達の考えを聞きながら、グル	いる。
があることを理解して	ープとしての意見をまとめて資	・どのような仕事に興味があるのか気
いる。	料に表現している。	付き、将来の生活について前向きに
		考えようとしている。

6 本時の計画(21時中の13・14時)

(1) 本時のねらい

①スーパーマーケットの店内をイメージしながら、仕事をしている人を予想する。 ②グループの友達と予想した仕事を伝え合い、グループの資料に意見をまとめる。 思



(2) 生徒のねらいと手立て(対象生徒部分は太枠で囲む)

No.	氏名・性別	チム C (対象生促部分は人) 実態	個別のねらい	手立て
1	A	・外出の経験が少ない。	・店内配置図の「鮮魚」	<u>・</u> 予想できるように、店
1	(男)	・自分の間違いや失敗を	「精肉」の言葉から、	内配置図を基に「この
		受け入れるのが苦手で	魚や肉に関する仕事を	辺に仕事している人は
		ある。内容が分からな	している人をイメージ	いると思う?」など言
		くなるとうつむく、寝	し、予想したことを書	葉を掛ける。
		るなどの行動をとる	く。	・自信をもって書けるよ
		・話合いの内容によって	` o	うに、特に書き始めは
		は、進行役に意欲的で		称賛し、肯定的な言葉
		ある。		を掛ける。
2	В	・インターネットによる	話合いのルールを意識	・話し方のルールを提示
	(男)	知識はある。	し、自分の書いた付箋	したり、話合いの約束
	(53)	・学習態度など、その場	について、詳しく説明	を伝えたりする。
		にふさわしくない態度	しながら友達に伝え	
		をとることがある。	る。	
		考えることが苦手だが、	9 0	
		体を動かしたり、友達		
		と話し合ったりする活		
		動は意欲的である。		
3	С	様々な仕事があること	・店内配置図を参考に実	・抵抗なく書き始められ
	(男)	が何となく分かってお	際に見たことのある仕	るように、あらかじめ
		り、仕事の学習に関心	事をしている人を想起	付箋に「人」を書
		をもっている。小学校	し、付箋の「人」	いておく。
		で学習したことと結び	の欄に予想して書く。	・自分の考えを整理でき
		付けるときがある。		るように、予想したこ
		・控えめで、自分から話		とや気付いたことを称
		すことは少ないが、ポ		賛し、さらになぜそう
		イントをしぼって発問		思ったのか発問する。
		すると、自分の考えを		
		話す。		
4	D	・経験したことや知って	「鮮魚」や「青果」など	行ったことのあるスー
	(女)	いることについて伝え	の売り場のキーワード	パーマーケットについ
		ることができる。	やイラストから、どの	て質問する。
		・理由を添えて話すこと	ような仕事をしている	・スーパーマーケットの
		や経験をまとめること	人がいるのかイメージ	店内配置図の漢字を参
		が苦手である。	する。	考に考えるよう促す。
		・言葉の意味や学習内容		
		の理解が不十分なこと		
		があるため、個別に確		
		認する必要がある。		

5	E (男)	・身に付いている知識の中から答えを導き出そうとするが、経験不足により知識に偏りがある。・伝え方が分かると、自分の考えを積極的に伝えようとする。	・グループの話合いで、 全員の付箋を似ている 意見ごとにまとめる。	・進め方の見通しをもてるように進行表を提示する。
6	F (男)	・経験不というないは を書くを書くを書いる。 を書きるが時間。 を書きるが考えを書きるが考えを書きが考えるがのである。 ・自分かない、自大はするがある。 はするがあるがある。 はするがあるがある。 はするといる。 を書きながある。 はするがある。 はするにないる。 はずるにないる。 はずるにないる。	・話合いの進行表を手掛かりに、付箋に書いた 仕事について理由を添えて伝えたり、友達の 考えを聞いたりして、 付箋を貼りながら似て いる意見をまとめる。	・話合いを進められるように、進行役とし、進行役とし、進行表を準備する。・付箋を集めたり、資料にまとめたりしやすい配置にする。
7	G (女)	・将来は清掃や介護の仕事がしたいとはで、知路の生活を知る。 事や将と意欲的である。 事や将きである。 も信がなく、自分かい。 も信がなとは少ない。 を 話すことはあい。 を で だっていることが多い	・店内配置図の場所を手掛かりに自分で予想したことを、すぐにメモし、メモを活用して言葉や文で表す。	・予想したことを記憶に とを記した、自信をもるより とにというでもないでいる。 というないででです。 を記して変になりできる。 を設けたりできる。 を設けたりする。
8	H (男)	・学習内容を概ね理解し、 仕事に関する学習には 関心をもっている。 ・発言力があり、自分の 考えを積極的に述べ る。話合いでは効率よ く話合いを進めたい思 いが強く、一人でどん どん進めてしまう傾向 がある。	・スーパーマーケットの 店内配置図を見て部門 ごとにどのような仕事 をしている人がいるの か考え、付箋に書く。	・店内配置図を提示し、 予想していない部門に ついてどのような人が いるか想像する時間を 設ける。

(3) 学習過程

時間	学習活動		教師の働き掛け、指導上の留意点	
(分)			囲み部分はねらいに対する手立て	
12		1 アイスブレイクを行 う。	・緊張感を和らげ、コミュニケーションをとりやすくする ために、友達同士で関わり合える活動を設定する。	
	導	2 本時の学習を知る。	・今日の学習活動に見通しがもてるように、一単位時間の 流れやめあてを提示する。	
	入	めめく:スーハーマーク ットでは、どんな仕事を	・「スーパーマーケット」をイメージし、全員でイメージを	
		している人がいるのか	共有できるように、知っているスーパーマーケットにつ	
		予想しよう。	いて尋ねたり、店内にはどのような部門があるのかを確	
15		3 スーパーマーケット	認したりする。 ・予想した仕事や理由を覚えておけるように、付箋に書き、	
		で仕事をしている人に	ワーク一シートに貼るよう説明する。	
		ついて自分で予想する。	・スーパーマーケットで仕事をする人を想起できるよう に、「青果」「鮮魚」などのキーワードとなる言葉やイ	
			ラストが入った店内配置図を準備する。	
			・既習事項を思い出したり、活用したりすることができ	
			│ るように、これまでの資料を掲示しておく。また、予	
			がけをする。	
			・理由を考えて書くことができるように、適宜理由を尋	
			ねたり、生徒が答えたことやつぶやきを肯定的に捉え てそれを書くよう促したりする。	
			ててれを育くよう使したりする。	
			・書き進めることが難しい生徒がいた場合には、どこで	
			仕事をしているかなど場所に注目できるような質問を	
			う?」などの発問をしたりして気付きを促す。	
	展開		・自分で予想したことに自信をもてるように、気付いたこ	
	נזכן		とへの称賛や共感の言葉を掛ける。	
			・T2はDに対して、個別に学習活動の理解の確認や必要 に応じて具体的な説明をする。	
30		4 グループで考えを伝	・T1はA、C、F、Gのグループ、T2はB、D、E、	
		え合い、意見をまとめ	Hのグループを中心に見届ける。	
		る。	・グループでの活動がスムーズに進むように、進行役を	
			決め、進行表を準備する。また、話合いのルールとし て「一人一回は発言する」「理由をつけて話す」を提示	
			する。	
			・グループの実態に応じて、付箋を出し合う進め方、ま	
			たは教師がメモをとってまとめていく進め方にする。	
			・生徒同士のやりとりの状況に応じて、肯定的な言葉を	
			掛けて称賛する。また、適宜、理由を尋ねて考えを深し	
			めたり、グループ全員が共有できているか確認したり する。	

10		5 互いのグループの意	・互いのグループの考えを比較したり、予想した仕事を全
		見を見合う。	員で共有したりすることができるように、グループでま
	ま		とめた資料を掲示し、同じ意見・異なる意見があるかど
	ムレ		うか気付けるような言葉がけをする。
8	ょか	6 振り返りをする。	・今日のめあてを振り返り、確かめたいという気持ちを高
	W		めることができるよう、予想できたか問い掛けたり、感
			じたことや次の授業に向けて考えたことなどを書いたり
			する時間を設ける。

(4) 評価

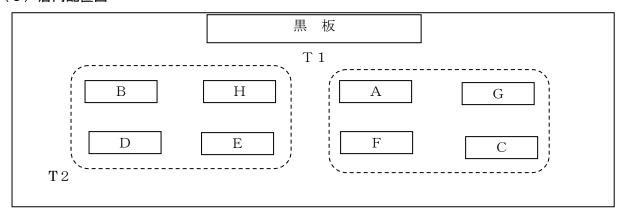
<生徒の評価>

- ・スーパーマーケットで仕事をしている人を予想し、「○○している人」や理由を付箋に書いていたか。
- ・予想した仕事や理由を友達と伝え合い、グループの店内配置図に付箋を貼ったり、まとめたりして いたか。

<教師の手立ての評価>

- ・スーパーマーケットを想起できるような教材の準備や提示、言葉掛けができていたか。
- ・話合いを進めやすい状況づくりや自分の考えを表現できるような発問や支援ができていたか。

(5) 店内配置図



- ・T2は、主にDの側に配置し、適宜学習の理解の確認をする。
- ・学習活動4では、[______]のグループに分かれる。

<高等部普通科 研究テーマ>

学びや経験を生かして考えたり、行動したりする姿を育む教育課程の工夫・改善

1 学科研究テーマ設定理由

高等部普通科では、昨年度(令和2年度)まで、「生徒が自分で考え、判断し、活動する姿を目指した授業づくり~『分かった』『できた』が感じられる手立ての充実~」をテーマに、学科研究を行った。研究は、令和元年度から2年間の計画で行い、1年目は作業学習、2年目は職業科を研究対象授業とし、「根拠のある授業づくり」について計画、実施、改善が進められた。成果として、自分を肯定的に捉え、自らの課題に向き合う姿勢の育成と、生徒の教育的ニーズに沿った授業づくりへの教師の意識の高まりが挙げられた。一方で課題として、学んだことを学習活動全般で生かしていく仕組みの検討と、「職業科/家庭科」の学習内容表の整理と活用が挙げられた。

以上のことから、今年度は、生徒個々の進路実現に向け、学んだことや経験を生かして考えたり、行動したりする姿を育むための教育課程の改善、つまり、生徒が学んだことや経験したことを学習活動全般で生かしていくための仕組みを検討、実施、改善していくこととし、本研究テーマを設定した。また、前年度に引き続き、職業科を研究対象とし、授業づくりを通して教育課程を見直す場面の一つとすることとした。なお、本校高等部普通科は高等部 2年生から選択制コース学習を取り入れている。各コース学習については、表1のような配当時数で進めている。

主 1	古华动並洛钊强担纠一。	_ フ ― 羽 の 町 业 味 粉	(注目 业 +_ (1)	ニ ヘハア
न⊽ ।	高等部普通科選択制コ・	一人千百少凯马时数	しゅヨにりん	しっしいし

学年	グループ又はコース	職業科時数	家庭科時数	美術科時数
1年	(課題に応じて) A、B、Cの3グループ	1	1	0
	生活自立コース	0	1	1
2年、3年	福祉就労コース	1	1	0
	職業自立コース	2	0	0

2 研究仮説

育成を目指す資質・能力を基に、教科等横断的な視点で、各教科等の目標、指導内容を検討、実施、改善することと、「わかる」「考える」「生かす」にポイントをおいた授業づくりを工夫することで、学びや経験を生かして考えたり、行動したりする生徒の姿を育むための仕組みを整えることができるだろう。

3 取組の実際

- (1) 目指す資質・能力の明確化~学ぶ内容を明確にする~
- ①育成を目指す資質・能力の検討と学習内容の確認

育成を目指す資質・能力を明確にするために、各学年の目指す生徒の姿を、学部目標に沿って 出し合い(表2)、この目指す姿に向け、各学習を通しておさえていきたいことを確認した(表 3)。目指す生徒の姿を確認した上で、学習指導要領と照らし合わせながら、各教科等の学習内 容を学年ごとに整理し、学ぶ内容やバランスの確認を行った。

表2 学年で目指す生徒の姿(各学年で出された主な内容)

学部目標	1 年生	2 年生	3年生
	・休まずに登校しようとする	・生活リズムを整える	・望ましい生活習慣を実践する
働く	・9時~15時の学習に向かう	・健康管理をする	・健康管理をする
立	・ボディイメージをもつ	・立ち仕事や力仕事を行う体力を	・やり遂げる体力を積み重ねる
	・様々な活動を経験する	積み重ねる	・根気強く取り組む経験を積む
互い		・自己理解を積み重ねる	・自己理解を深める、生かす
協 の	晒 おも 伊辛 サエカ畑	・人の話をよく聞き、理解する	・適切な人との関わり方を身に
力よ	る)	・相手の気持ちや立場になって考	付け、実行する
する態度	・自己肯定感、自己有用感を	え、思いやる経験を積む	・互いのよさを認め合い、思い
態 認	高める	・友達のよさを認める	やる
度め合う	· 互いの頑張っているところ	・友達との適切な関わり方を身に	・協働、協力する経験を積む
วั	を認める	付ける	
行 🛊	・自分で考えてみる経験を積	・自己選択、決定する経験を積み	・相手や状況に応じて判断し、
行動する力	む	重ねる	行動する
りるかに		・自分からやってみる	・自分の考えや気持ちを周囲に
刀考に	・自分たちで企画、調整する	・場や状況に合わせて判断する	伝える
伝判	経験を積む	・気持ちを切り替えて次のことに	
伝える力	.	向かう	
ا بِرِّ ا ا	'	・困ったことを自分から相談する	

表3 目指す姿に向け、各学習を通しておさえたいこと

1 年生	2 年生	3 年生
・試行錯誤してやり遂げる経験	これまでの学びや経験を使ってでき	これまでの学びや経験を使ってで
・できたこと、難しかったこ	たこと、難しかったことを知る経験	きたこと、難しかったことから、
と、自分に必要なことを知る	・次にどうするとよいかを考える経験	次にどうするとよいかを考え、実
経験		行する経験

②職業科と家庭科の学習内容表(令和2年度作成:資料1参照)についての意見交換

職業科と家庭科の学習内容表の活用に向け、各学習グループ又は各コース担当教師を中心とした学年縦割りのグループを設定し、意見交換を行った。主に次のような意見があった。

- ・内容をより具体的にした方がよいという意見があった一方、具体的にすることで、生徒の 実態に合わせづらくなることを危惧する意見もあった。
- ・学習内容表の内容を全ておさえることは、生徒の実態や時数から難しいという意見に対して、生徒の実態を踏まえて学ぶ内容のバランスを配慮しながら、学習内容を選択する捉えで進められるとよいのではないかとの意見があった。

(2) 単元(題材)の目標と学習内容を明確にした単元(題材)計画~学ぶ内容を関連付ける~

(1)で確認した各教科等の学習内容を記入した付箋紙を、横軸に4月から3月の暦、縦軸に各教科又は合わせた指導を示した表に配置し、単元配列表を学年ごとに作成した。作成した単元配列表は、職員室の壁に掲示し、随時追加や修正を図れるようにした。6月に作成した後は、8月と12月に生徒の様子やワークシートへの記入内容を基に、計画している各教科等の単元の内容や配列を見直し、改善を図った。

- (3)「わかる」「考える」「生かす」にポイントをおいた授業づくりと学ぶ姿に着目した授業研究会
- ①学部内授業研究会 第2学年福祉就労コース 職業科
 - 1) 事前授業検討(題材検討)

単元名を「前期校内現場実習に挑戦しよう①~事後学習~」とし、(1)現場実習や作業体験の振り返りから、自分の生活習慣や作業態度面での課題を知り、生活面や作業学習での目標をもつこと、(2)事業所でのいろいろな作業種を知り、体験を通して自分が得意とする作業を見付けることを目標とした単元計画が提案された。

- ○協議で出された主な意見
 - ・大きな目標が2つある。目標を絞り、単元を分けて設定するとどうか。
 - ・作業種の体験を通して、「日常の中で行っていることや作業学習で行っていること (例えばタオルたたみ、体育着を袋に入れる、端を合わせて折るなど) が働く力につながっている」ということに気付くことで、日々の実践によりつながっていくのではないか。

2) 授業提示

- ○単元名「いろいろな仕事に挑戦しよう」(本時:シール貼りの仕事)
- ○単元目標
 - (1)様々な事業所の仕事内容に関心をもち、各仕事の特徴や必要な力を知る。(知)
 - (2)各仕事の特徴が日常生活にある活動や作業学習に関連していることに気付き、今後の学校生活で頑張りたいことを考えたり決めたりする。(思)(学)
- ○指導にあたって

必要な知識技能が	・各仕事に関心をもてるよう、友達の現場実習先の動画を見る場を設ける。
「わかる」に向けて	・各仕事の特徴や必要な力を簡潔なキーワードで示す。
体験活動を通して	・各仕事の特徴に気付くことができるよう、体験する場を設ける。
「考える」に向けて	・各仕事の特徴が日常生活にある活動や作業学習に関連していることに気付
	くことができるよう、似ている特徴の活動を日常生活の活動や作業学習か
	ら探したり選んだりする機会を設ける。
次に又は他の場面で	・今後頑張りたいことにつなげられるよう、気付いたことや考えたことをま
「生かす」に向けて	とめるワークシートを個々に合わせて準備する。

○授業の概略:シール貼りの仕事を取り上げ、特徴を「正確に(貼る)」とし、体験を通して、 生徒が気付いたり実践したりすることを主なねらいとした。



写真1 本時のめあての確認



写真2 シール貼りの体験

3) 授業協議と指導助言

○授業の中で見られた対象生徒の様子について (事実)

シール貼りの活動を一連の流れに沿って行っていた。シールを正確に貼れていることもあれば、曲がった状態で貼っている場面もあった。

- ○対象生徒の様子から考えられる解釈について
 - どのようにシールを貼ることが正確なのかの理解まではできていなかったか。
- ○授業の改善策について/指導助言より
 - ・具体的な評価規準となるよう、「正確に」を生徒が分かる言葉で確認、提示できるとよい。
 - 生徒自身が「正確さ」を実感できるような場面設定があるとよい。
 - ・シールを正確に貼る必要性が明確になると、生活に生かそうと意識できるのではないか。
 - ・授業で使う言葉(例えば「正確さ」)を、教科等横断的な視点でおさえていくことで、生 徒自身が理解して使ったり生かしたりする言葉になっていくのではないか。単元配列表を 活用して他教科ともつながりながら学んでいけるとよい。

②全校授業研究会 第3学年職業自立コース 職業科(資料2-1)23)

1) 事前授業検討(題材検討)

単元名を「自分のトリセツを作って相手に伝えよう」とし、(1)日本国憲法における義務と権利や障害者の権利条約、合理的配慮について知ること、(2)自分の苦手なことや困っていることについて、解決のために自分でできることや周囲にお願いしたいことについて考え、自分の「トリセツ」を作成すること、(3)「トリセツ」の良さを感じ、それを活用して、自分のことを他者に伝えることを目標とした単元計画が提案された。

- ○協議で出された主な意見
 - 「知識を得る→『トリセツ』を作成する→活用」の流れで、目標が明確に立てられている。
 - ・「トリセツ」の作成を通して、自己理解を深め、自分を他者に伝えることを学ぶ内容になっているところがよい。
 - ・合理的配慮を理解し、他者に伝えることは難しいと感じる。本人が取り上げた内容が障害によるものなのか、性格によるものなのかの判断が難しいため。苦手なことや困っていることを自覚し、その解決策を考える、又は他者に相談することを、「トリセツ」の作成と活用で目指していけるとよいのではないか。

2) 授業提示

- ○単元名「トリセツを作って伝えよう」
- ○単元目標
 - (1)自分についての理解を深めるとともに、日本国憲法における義務と権利や障害者権利条約などの社会の仕組みについて知る。(知)
 - (2) 自分の苦手なことや困っていることについて、解決のために自分でできることや周囲に 相談したいことについて考えた「トリセツ」を作成し、それを活用して、自分のことを 他者に伝える。(思)
 - (3)「トリセツ」の作成、活用を通して、よりよい人間関係を築こうとする。(学)

○指導にあたって

必要な又は身に付い	・自己を肯定的に捉えることができるよう、障害者雇用されている先輩の頑
た知識技能が	張っている様子や特別支援学校生徒と一般の高校生の一人あたりに掛かる
「わかる」に向けて	税金の違いなどについて知る機会を設ける。
自分で又は仲間と	・自分でできる解決策を具体的に考えることができるよう、必要に応じて教
「考える」に向けて	師が問い掛けたり、例示したりする。
	・他者に相談する内容を考えることが難しい場合には、友達の意見を参考に
	する機会を設ける。

他の場面で 「生かす」に向けて

- ・現場実習への意欲喚起や本単元の深まりにつなげられるよう、現場実習の 事前事後学習の前後に本単元を設定する。
- ・学んだことへの気付きや自分の成長を感じられるよう、既習のプリントを 振り返る機会を設ける。
- ○授業の概略:これまでの現場実習での経験から困ったことを挙げ、解決策や周囲の人に相 談したいことを考え、トリセツのシートに整理することを主なねらいとした。

3)授業協議・指導助言

○授業の中で見られた対象生徒の様子について(事実)

困ったことや苦手なことをシートに書く活動で、なかなか書き始められずにいた。教師からの具体的な場面を想定した問い掛けを受け、最近あった困った場面のことを書き始めた。 困った場面に対しての解決策については、自分で考え、シートに記入していた。

- ○対象生徒の様子(事実)から考えられる解釈について 困り感自体を感じていることがなかったか。苦手なことと苦手な状況との混乱があるか。
- ○授業の改善策について/指導助言より
 - ・今回の授業は、自力思考の時間を多く設けていた。数名のグループで、自分の困ったこと や考えた解決策について意見交換する場を設けることで、困った場面や状況、解決策につ いての考えを深めることができるのではないか。
 - ・自己理解は一人ではできない。人との関わりの中で、他者からの評価があって自己理解 は深まる。「トリセツ」を使う場を、身近な教師から、かかわりの少ない教師、慣れない 環境など広げて試していけるとよい。





写真3、4 授業研究会後の授業の様子(自分で考えた解決策について意見交換)

4 まとめ

(1) 教科等横断的な視点での授業づくりへの教師の意識の高揚

「単元配列表」を作成し、生徒の様子を基に改善しながら学習活動を進めてきたことで、「常に教科等横断的な視点を意識して授業を組み立てたり、生徒に発問したりすることが多かった」などの成果が挙げられ、教科等横断的な視点での授業づくりへの教師の意識の高揚が図られたことが確認できた。また、「学習場面が異なっても、同じ視点で生徒を見たり、学習内容を検討したりできた」、「学年経営につながった」など、教師間の共通理解が深まったという成果も挙げられた。一方で、生徒の実態や変容を基に教科等横断的な視点で指導計画を見直すことで、年度途中で単元・題材の変更や追加をしたため、計画のずれが生じた。そのずれへの対応については、工夫が必要となることが確認された。

(2) 学んだことや経験を他の場面につなげる生徒の姿

教科等横断的な視点で配列した単元・題材の中で、「わかる」「考える」「生かす」にポイントをおいた授業づくりを行うことによって、自分に必要なことを知ったり、次にどうするとよいかを考えたりしながら、学んだことや経験を他の場面につなげる姿が見られた。

- ・校内実習を通して、食事を含めた健康管理を課題として挙げた生徒たちがいた。校内実習後の家庭科の授業で、三色食品群の表作りを通して、食事の栄養について学ぶ場を設けた。 →学習後、自宅で調理をしたメニューや給食の献立の栄養を三色食品群の表から探してみたり、自分に不足している栄養を確認したりしていた。
- ・校内実習を通して、気持ちの切り替えを課題として挙げた生徒たちがいた。校内実習後の 職業科の授業で、気持ちの切り替えについて意見交換をして考える学習を行った。
 - →「イライラしても悪化するので、自分のやることに集中する」「深呼吸をする」「音楽を 聴く」などの意見を出し合い、互いの意見に納得して、取り入れようとする発言があった。
- ・現場実習事後学習で、自己評価と実習先からの評価を比較しながら振り返りを行った。
 - →評価が一致していることについては、次への意欲につなげていた。評価が一致していない こと(自分はできたと評価、実習先は課題との評価)については、実際に働く上で求めら れる力がより高いレベルであることに気付き、今後の自分の頑張ることとして捉えていた。
- ・職業科で、自分の困った場面や苦手な場面で、どのような解決策があるか、周りの人に何を どのように相談すると良いのかを考え、トリセツシートに整理する学習を行った。
- →求職登録の就業上の配慮事項欄に、生徒全員が「〜だから〜してほしい」と記入できた。 これらの生徒の様子が見られた中で、学習の成果物の掲示や、現場実習先の評価と学校での学 習をつなげるワークシートの工夫など、学習を教科等横断的につなげる教材の活用の大切さを再 確認した。あわせて、授業の中で取り扱う言葉を生徒が理解して活用できるよう、一つの授業の 中だけでなく、教科等横断的な視点で押さえていくことの必要性についても、確認した。

(3) 今後に向けて

①目指す資質・能力を基に教科等横断的な視点で学習内容を計画、実施、見直しする取組の継続

5月	学年で目指したい生徒の姿を出し合い、目指す資質・能力を確認
年間指導	目指す資質・能力を基に、学習指導要領と照らし合わせながら、各教科等の学習内容
計画立案	を付箋紙に記入して整理
前	単元配列表の作成(整理した学習内容(付箋紙)を単元配列表に配置)
8月	生徒の様子(言動、ワークシートへの記入内容)を基に、単元配列表を見直し、改善
12 月	生徒の様子(言動、ワークシートへの記入内容)を基に、単元配列表を見直し、改善

②職業科と家庭科の「学習内容表」の活用

学習内容表の内容については、教師間の意見交換に止まり、活用までには至らなかった。意見 交換をしたことで、「学習内容表を3学年で見合い、内容等の確認をすることができ、3年間を 通した学習内容の組み立て方について考える機会になった」などの感想があった。今後は、「学 習内容表」を年間指導計画立案時や引き継ぎ時の参考にすることを周知し、活用を図っていく。

③学習に向かうことが困難な生徒への授業づくりや教育課程の在り方についての検討

生徒の中には、中学生段階まで不登校傾向にあり、学習に向かうまでのところで課題のある生徒たちがいる。学習に向かうことが困難な生徒への授業づくりや教育課程の在り方については検討を必要とする声が挙げられた。生徒の学び方に応じた授業づくりや、自立活動の視点を授業に意図的に取り入れていく工夫について、検討する機会を設けていきたい。

教科 • 領域	教科·領域		
	・職業に関する事柄について理解	解を深めるとともに、職業生活に係る技能を身に付けるように	する。 (知)
目標	・将来の職業生活を見据え、必要	要な事柄を見いだして課題を設定し、解決策を考え、実践を評	価・改善し、表現する力を養う。(思)
		見や地域社会への貢献に向けて、生活を改善しようとする実践	
	よりよく特別ペク概米工品ペクスク		
		主な学習内容	
	1 学年	2学年	3 学年
職業生活について	一般的な考え方を広く学ぶ	実習等の経験を通して「職業生活」について、自分事	卒業後の生活を見据え、具体的に考え、「豊かな生活
		として考えて学ぶ	について学ぶ
		職業自立	職業自立
■白ハナケロフ		■働くことの意義	●働くことの意義
■自分を知る		・卒業後の生活への関心	■ ■ 関くことの息我 - ・卒業後の生活への自覚
・自己紹介		・働くことの喜びと大切さ	・卒業後の生活への自見・卒業後の目標
・自分のよさ		・労働と報酬の関係	・自己理解(自分の能力や適性)
・将来の希望 (暮	いい (は事)	・職種や仕事内容の理解	
		・卒業生の進路先、将来設計	■職業に関連する事項
■働くことへの意	欲	・ 自己理解 (自分の能力や適性)	・進路や実習に関わる卒業までの予定
・家庭での役割			・具体的な進路先の選択と決定
• 0 = •		■職業に関連する事項	・社会人としての心構え
身近な仕事	an+ 1, 88 2	・進路や実習に関わる卒業までの予定	・職場の人間関係
・物づくりへの興		・卒業後の生活、進路希望、相談先	・ハローワークや相談支援事業所、市役所福祉課など
働くことの喜び	N.	・働く場所と職種	の支援機関の役割と手続き
• 将来設計		・TPOに合った挨拶や言動	・法制度や福祉サービスの活用の仕方や手続き
・卒業生の進路先	<u>:</u>	・同僚や先輩との関わり方	・年金・保険制度と手続き
・職業に関する基	礎的な知識	・職業講話、職業ガイダンス・ハローワークや相談支援事業所、市役所福祉課など	・履歴書の書き方、労働条件(求人票の見方)
・自己理解(自分	かりを所や短所)	の支援機関の役割	■健康管理・余暇
1 2 1 (1 / 1 / 1 / 1 / 1 / 1 / 1 / 1 / 1 /	(7) (/::::::///	00人1友(成)为00亿百!	・休日の計画的な過ごし方(睡眠、食事、余暇の大切さ
■映業に関すせて	कर्त	 ■健康管理・余暇	・外出の計画の立て方
■職業に関連する	• • •	・生活の場	・計画的な生活費の使い方
	わる卒業までの予定	・休日の計画的な過ごし方 (睡眠、食事、余暇の大切さ)	・自立した生活(調理、洗濯、掃除など)
・職場見学		・外出の計画の立て方	・病気の予防、健康的な食生活
・卒業後の生活		・病気の予防、健康的な食生活	・トラブルの予防と相談機関
• 進路希望		・卒業後の生活(調理、洗濯、掃除など)	・キャッシュレス決済
		・生活費と給料	
■健康管理・余暇	7		
・規則正しい生活		■情報機器の活用	■情報機器の活用 ・
	交通機関の利用とマナー	・情報モラル、情報機器などの簡単な操作 ・進路に関する情報の調査と収集	・情報モラル、情報機器などの簡単な操作 ・進路に関する情報の調査と収集
	関わり方、身だしなみ	・「世路に対する情報の調査と収集	世山(C) 対 り の 同 中以 ク 内 且 C 大 来
	(調理、洗濯、掃除など)	福祉就労	福祉就労
		■働くことの意義	■働くことの意義
・生活に必要なお		・卒業後の生活への関心、将来設計	・卒業後の生活への自覚、将来設計
	祉乗車証について	・働くことの喜びと大切さ※「会社や施設で働く」とは	
(利用体験)		・職種や仕事内容の理解	
		・卒業生の進路先	■職業に関連する事項
■情報機器の活用	1	・労働と報酬の関係	・進路や実習に関わる卒業までの予定
情報モラル		・自己理解(自分の能力や適性)	・具体的な進路先の選択と決定
情報機器などの	簡単な操作		・社会人としての心構え
・進路に関する情		■職業に関連する事項	・卒業後の生活
・進路に関する間	対	・進路や実習に関わる卒業までの予定	・ハローワークや相談支援事業所、市役所福祉課などの大塚が関の犯別し、近代さ
		・卒業後の生活 ・働く場所と職種	の支援機関の役割と手続き ・法制度や福祉サービスの活用の仕方や手続き
1~3学年		・自己紹介、家族について	・年金制度と手続き
〇校内・現場実	習(事前事後学習含む)	・職場のマナー、同僚や先輩との関わり方	・労働条件(求人票の見方)
・実習の意味		・進路希望	/
・実習中の健康	: レ <u>生</u> , 今		■健康管理・余暇
		■健康管理・余暇	・休日の計画的な過ごし方(睡眠、食事、余暇の大切。
・実習先、期間、仕事内容の理解		・休日の計画的な過ごし方(睡眠、食事、余暇の大切さ)	・公共施設、交通機関利用のマナー
・実習の目標設定と振り返り		・公共施設、交通機関利用のマナー	・友達や異性との関わり方、社会人としての身だしな
・公共交通機関の利用への関心		・友達や異性との関わり方、身だしなみ	・自立した生活(調理、洗濯、掃除など)
・社会人として	のマナー (身だしなみや話し方)	・病気の予防	・病気の予防、健康的な食生活
・休憩時間や休日の過ごし方		・卒業後の生活(調理、洗濯、掃除など)	・計画的なお金の使い方
・電話対応・実習後の振り返り		・計画的なお金の使い方	・トラブルの予防と相談機関
・自分の能力や		■は投機のつば四	■特担機界の活用
ロフォック目ピノチ、「	<u>№ (</u>	■情報機器の活用 ・情報モラル	■情報機器の活用・情報モラル
		・情報機器などの簡単な操作	・情報機器などの簡単な操作
		1月 †以及中でよ (マン国) 中でお	

高等部普通科第3学年職業自立コース 職業科 単元計画案

1 単元名 自分の(仮称)トリセツを作って相手に伝えよう

2 児童生徒と単元

(1) 生徒について

- ・本学習集団は、一般企業就労を目指した職業自立コースを選択している男子7名、女子2名の生 徒で構成する学習グループである。
- ・本校中学部からの入学者5名、他校中学校からの入学者4名で、特に他校中学校から入学してきた生徒は、不登校傾向にあったり、自分からの発信が少なくコミュニケーション能力に課題はあったりするが、自分の考えはしっかりもっている。
- ・1年次から、友達から評価を受ける機会を多く設けたことで、少しずつ自分の良さを感じることができるようになってきているが、自分から他者に助けを求めることには抵抗を感じている。
- ・2年次の3学期には、自分のトリセツについて作成し、自分の苦手なことを改善するための方法や他者に依頼したいことを考え、自己理解を深めたり、課題解決能力を高めたりした。
- ・本単元は、日本国憲法における義務と権利や障害者の権利条約について学び、合理的配慮について知り、苦手なことは他者に助けを求めながら、自分の持てる力を最大限に発揮し、社会でいきいきと働こうとする姿を目指したい。

<対象生徒Eについて>

- ・他校中学校からの入学で、主たる障害名は広汎性発達障害である。
- ・自分に自信がなく、声は小さくなりがちだが、太鼓練習の際の全体での挨拶等は体育館中に響きわたるような声掛けができ、今回の現場実習先では声の小ささは課題とならなかった。
- ・入学当時は受け身がちな様子だったが、徐々に自分から気付いて仕事を担ったり、不安 なことを相談したりするなど、率先して活動する姿が見られるようになってきた。

(2) 単元設定理由

- ・前単元までは、自己理解を深めるために、自分の長所や短所や苦手なことに対する対処法などに ついて考えた。また、特に生徒の課題として多かった怒りへのコントロールや落ち込んだときの 対処法についても学び、自己管理能力の育成を図った。
- ・本単元では、将来の職業生活に必要な課題解決能力の育成を目指し、自己の課題を見付け、解決 策を考え、実践、評価、改善しようとする実践的な態度を育成したい。
- ・ほとんどの生徒が、自己肯定感が低く、自分から他者に助けを求めることに抵抗を感じているため、今後の自分自身の可能性を含めた肯定的な理解に基づき、他者に助けを求める実践的な態度を育む中で、その有用性を感じ、主体的にキャリアを形成していく力を身に付けさせたい。
- ・卒業後、職場において自ら合理的配慮を求めることができるようになれば、良好な人間関係を構築したり、いきいきと社会で生活したりすることができるのではないかと考える。

(3)指導について

- ・自己を肯定的に捉えることができるよう、障害者雇用されている先輩の成功例や特別支援学校生徒 と普通高校生徒一人あたりに掛かる税金の違いなどについて知る機会を設ける。
- ・自分でできる解決策を具体的に考えることができるよう、必要に応じて、教師が問い掛けたり、例 示したりする。
- ・他者に依頼することを考えることが難しい場合には、友達の意見を参考にする機会を設ける。
- ・多様な他者の考えに触れ、自分の考えを広げたり深めたりすることができるよう、生徒同士で話し 合う機会を設ける。
- ・学んだことがわかりやすいよう、要点がまとめられた学習プリントを作成する。
- ・学んだことへの気付きや自分の成長を感じられるよう、既習のプリントを振り返って見る機会を 設ける。
- ・単元配列については、校内現場実習の事前事後学習の前後に配列することで、現場実習への意欲喚起や本単元の深まりにつなげる。
- ・個人情報に関する事なので、校内での活用においても、事前に保護者の了承を得て進め、作成した トリセツは保護者にも提示する。

3 単元の目標

- (1) 日本国憲法における義務と権利や障害者の権利条約について学び、合理的配慮について知る。 知
- (3) トリセツの良さを感じ、それを活用して、自分のことを他者に伝える。学

4 単元計画 (総時間数 18 時間/本時 11・12 時)

時	学習内容	学習活動	育成を目指す資質・能力 (知 圏 圏)
1 5 6	○法制度の理解 ○人間関係形成、社会 形成能力 ・日本国憲法の義務と 権利 ・障害者に関する条約 や法律 ・障害者雇用と一般雇 用の違いと利点	・日本国憲法における三大義務と主な権利について知り、なぜ義務があるのか考える。 ・障害者に関する法律について知り、合理的配慮の良さについて考える。 ・タブレット端末を活用し、障害者雇用と一般雇用の違いについて分かり、企業が雇用したい人材について知る。	・日本国憲法における三大義務と主な権利について知る。知 ・勤労の意義について理解を深める。 思学 ・障害者に関する様々な法律やその内容について知る。知 ・合理的配慮について考え、その良さに気付く。思 ・障害者雇用について知る。知 ・様々な法律の助け合って生きていく考え方について触れ、卒業後、義務を果たそうとする気持ちをもつ。学
7 \$ 10	○卒業後の生活への自 覚・働いている先輩の姿	・障害者雇用されている先輩 の話を聞き、採用されるためには何が大切か考える。 ・卒業生の話を聞き、働き続けていく中で、大切なことを考える。	 ・採用されたり、働き続けたりするために大切なことについて知り、現場実習で頑張ることについて具体的に考える。 ・働いていくために大切なことを知り、今後の自分の行動に生かそうとする。
11 • 12	○自己理解 ○課題対応能力の育成 ・トリセツの作成①	・現場実習や作業学習などで 感じた困ったことについて の対応策を考え、トリセツ を作成する。	・これまでの経験を踏まえ、困った場面で自分が講じる解決策や他者にお願いする事について考え、自分のトリセツを作る。
13 • 14	○課題対応能力の育成・トリセツの活用	・トリセツを活用し、作業担当教師に、自分が困る場面についての対応をお願いする。	・トリセツを活用し、自分のことを他 者に伝える。 学
15 • 16	○キャリアプランニン が能力の育成・活用後の感想	・トリセツを伝えた時やその 後の作業学習での様子など を振り返る。・トリセツで説明を受けた教 師の感想を聞く。	・トリセツ活用後の自分や友達の感想、説明を受けた教師の話などを聞き、他者に伝えることの有用性に気付く。 思
17 • 18	○自己理解 ○課題対応能力の育成 ・トリセツの作成②	・これまでの経験を振り返り、職場にお願いしたい合理的配慮について考え、トリセツを作成する。	・これまでの経験を踏まえ、困った場面で自分が講じる解決策や他者にお願いする事について、前回よりも更に具体的に考え、自分のトリセツを作る。思

5 単元の評価規準

- 1 20 - 21 1 1 1 2 2 2 1		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・三大義務や主な権利につい	・苦手なことや困ったときの対応	・友達や教師の話を聞いたり、自
て知り、勤労の意義につい	策として、自分でできる解決策	分の考えを発表したりしよう
て理解を深めている。	を考えている。また、他者にお願	としている。
・様々な法律や条約を通して、	いしたいことを考えている。	・トリセツを活用し、他者に自分
互いに助け合って生きてい	・合理的配慮の有用性に気付いて	のことを伝えようとしている。
くという考え方について知	いる。	・必要に応じて、自分の苦手なこ
っている。	・他者に助けを求めることに肯定	とについては、他者に助けを求
・合理的配慮について知って	的な考えもっている。	めようとする気持ちをもって
いる。		いる。

6 本時の計画

- (1) 本時のねらい
- ①自分の困った経験や苦手とする事について、自分のできる解決策を考える。図
- ②他者にお願いしたいことを考える。思

(2) 本時の主な学習活動

- ・自分の苦手なことや困ったことについて、解決策を考える。
- ・他者にお願いしたいことを考える。
- ・(考えることが難しい生徒がいた場合には、みんなで考える機会を設ける)友達の解決策を考える。
- ・トリセツを活用し、友達に伝える。(発表する)

(3) 対象生徒の期待する姿

<中・竜>

- ・自分の苦手なことについて、<u>自分でできそうな解決策を考えている</u>。 思考力・判断力・表現力
- ・<u>他者の立場や考えも考慮しながら</u>、<u>周囲にお願いしたいことを考えている</u>。 知識・技能 思考力・判断力・表現力

令和3年度 全校授業研究会(高等部)授業概要シート

授業提示

1日時2授業

令和3年9月22日(水) 10:45 ~ 12:25

年・コース	指導の形態 単元名	場所	指導者
普通科3年 職業自立コース	職業科 「自分のトリセツを作って伝えよう」	中高会議室	遠藤 葵

<本時の授業について>

本時は、「トリセツ」を作成し活用することの意義を理解し、これまでの自分の経験から困ったことや苦手なことに対して、解決策を考えたり、周囲の人に相談したいことを考えたりする。作成後には、友達同士で発表する機会を設け、共感したり、自分の解決策に取り入れたりしながら、見識を深めていきたい。本時のねらいは、①自分の困った経験をもとに苦手とする事について、自分でできる解決策を考える、②他者のできる範囲内で、相談したいことを考える、である。そのための主な手立てとして、解決策を考えることができるよう、具体的な場面を想起させたり、例を示したりする。また、考えることが難しい生徒がいた場合は、「自分だったらこうしてもらいたいな」等の友達からのアドバイスをもらう場面を設定し、友達の意見を参考にしたり、取り入れたりして、対話的で深い学びを目指したい。生徒が自分の考えに自信をもてるよう、教師は生徒の考えに共感したり、称賛したりしながら授業を進めていく。

<対象生徒について>

(1) 対象生徒の実態

対象生徒は、中学校からの入学者で、入学時は消極的な様子が見られたが、現在、学校生活全般において、分からないことや不安なことがあると、自分から積極的に質問するようになってきている。大型スーパーでの現場実習では、商品の品出しを正確に行ったり、お客さんに商品の場所を尋ねられ、丁寧に接客したりする姿が見られた。自信のなさから、声は小さくなりがちだが、実習先で課題になることはなかった。また、障害特性から、他者との距離感が近く、相手の気持ちを推し量ることは苦手だが、友達の考えや気持ちを聞くことで、良好な人との関わり方について学んできている。

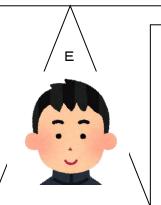
(2) 本単元における育みたい資質能力

学びに向かう力・人間性等

- ・卒業後、義務を果たそうとする気持ちをもつ。
- ・働いていくために大切なことを知り、今後の自分の行動 に生かそうとする。
- ・必要に応じて、自分の苦手なことについては、他者に助 けを求めようとする気持ちをもつ。

知識及び対能

- 自分についての肯定的な理解のもと、 自分の苦手なことなどについて理解 している。
- ・様々な法律や条約、合理的配慮についての理解を通して、互いに助け合って生きていくという考え方について知る。
- ・よりよい人間関係を築くための話し 方や相談の仕方について知る。



思考力・判断力・表現力等

- ・雇用されたり、働き続けたりするために大切なことを知り、今後、頑張りたいことについて、具体的に考える。
- ・苦手なことや困ったときの対応策と して、自分でできる解決策や他者に 相談したいことを具体的に考える。
- ・「トリセツ」の有用性に気付き、それ を活用して、他者に自分のことを伝 える。

(3) 対象生徒のこれまでの学習の様子と本時の期待する姿(本時のねらいを達成した姿)

これまでの学習の様子 期待する姿 積極的ではないが、自分の意見や考えを伝えることが ①自分のできる具体的な解決策を考え、感想等で実践 できる。合理的配慮を学んだ際には、「自分からできる しようとする気持ちを表す。 ②他者のできる範囲内で、相談したいことを考える。書いた。表面的な考えになりやすいが、教師が問い掛けることで、考えが深まることが多い。

高等部普通科 第3学年 職業自立コース 職業科 学習指導案

日 時:令和3年9月22日(水)10:45~12:25

場 所:中高会議室

生 徒:男子7名、女子2名、計9名

指導者:遠藤 葵

1 単元名 自分の「トリセツ(仮称)」を作って伝えよう

2 児童生徒と単元

(1) 生徒について

本学習集団は、一般企業就労を目指す職業自立コースを選択している男子7名、女子2名の生徒により構成されている。本校中学部からの入学者5名、中学校からの入学者4名で、特に中学校から入学してきた生徒は、不登校傾向にあったり、自分の考えはしっかりもっているにも関わらず、自分から発信することが難しいなどコミュニケーションに課題があったりする。

職業科の授業では1年生から、友達から評価を受ける機会を多く設けたことで、少しずつ自分のよさを感じることができるようになってきている。しかし、困った場面であっても、自分から他者に助けを求めることには難しい様子があった。自分の苦手なことを改善するための方法や他者に相談したいことを考え、自己理解を深めたり、自分から課題を解決しようとする態度を育んだりするために、2年生の3学期には、初めて自分の「トリセツ」を作成した。

これまでの取り組みを基に、日本国憲法における義務と権利や障害者の権利条約の内容を学び、合理的配慮について知り、苦手なことは他者に助けを求めながら、自分のもてる力を最大限に発揮し、社会でいきいきと働こうとする姿を目指したい。

(2) 単元設定理由

前単元までは、自己理解を深めるために、自分の長所や短所、苦手なことに対する対処法などについて考えた。また、特に生徒が自らの課題として挙げた怒りへのコントロールや落ち込んだときの対処法についても学び、自己管理能力の育成を図ってきた。

本単元では、社会科の内容と関連付けながら、将来の職業生活を見据えた自己の課題を見付け、その解決策を考え、実行し、評価・改善しようとする実践的な態度を育成したい。しかし、本コースのほとんどの生徒が、自己肯定感が低く、自分から他者に助けを求めることに抵抗を感じている。そこで、今後の自分自身の可能性を含めた肯定的な理解に基づき、他者に助けを求める実践的な態度を育みたい。「トリセツ」の有用性を感じ、卒業後、職場において、自ら課題の解決策を考えたり、周囲に助けを求めたりすることができるようになれば、良好な人間関係を構築したり、いきいきと社会で生活したりすることができるのではないかと考える。

(3) 指導について

- ・自己を肯定的に捉えることができるよう、障害者雇用されている先輩の頑張っている様子や特別支援 学校生徒と普通高校生徒一人あたりに掛かる税金の違いなどについて知る機会を設ける。
- ・自分でできる解決策を具体的に考えることができるよう、必要に応じて、教師が問い掛けたり、例示 したりする。
- ・他者に相談する内容を考えることが難しい場合には、友達の意見を参考にする機会を設ける。
- ・他者の多様な考えに触れ、自分の考えを広げたり深めたりすることができるよう、生徒同士で話し合 う機会を設ける。
- ・学んだことが分かりやすいよう、要点がまとめられた学習プリントを作成する。
- ・学んだことへの気付きや自分の成長を感じられるよう、既習のプリントを振り返る機会を設ける。
- ・単元配列については、校内現場実習の事前事後学習の前後に配列することで、現場実習への意欲喚起 や本単元の深まりにつなげる。
- ・個人情報に関する事なので、校内での活用においても、事前に保護者の了承を得て進め、作成した「トリセツ」は保護者にも提示する。

3 単元の目標

- (1)自分についての理解を深めると共に、日本国憲法における義務と権利や障害者権利条約などの社会 の仕組みについて知る。知
- (2) 自分の苦手なことや困っていることについて、解決のために自分でできることや周囲に相談したいことについて考えた「トリセツ」を作成し、それを活用して、自分のことを他者に伝える。 思
- (3)「トリセツ」の作成、活用を通して、よりよい人間関係を築き、いきいきと生きていこうとする意欲を育てる。 学

4 単元計画 (総時間数 18 時間/本時 11・12 時) *○はキャリア教育における「基礎的・汎用的能力」

4 単	元計画(総時間数 18 時間	1/本時 II・I2 時)* ○はキャリ	ア教育における「基礎的・汎用的能力」
時	学習内容	学習活動	育成を目指す資質・能力(知 圏 営)
時 1 6	・日本国憲法の義務と権利・障害者に関する条約や法律・障害者雇用と一般雇用の違いと利点	・日本国憲法における三大義務と主な権利について知り、なぜ義務があるのか考える。 ・障害者に関する法律について知り、合理的配慮について知る。 ・タブレット端末を活用し、障害者雇用と一般雇用の違いについて分かり、企業が雇用したい人材について知る。	・日本国憲法における三大義務と主な権利について知る。知 ・勤労の意義について理解を深める。 思学 ・障害者に関する様々な法律やその内容について知る。知 ・周囲にお願いを伝えることのよさに気付く。思 ・障害者雇用について知る。知 ・様々な法律の助け合って生きていく考え方について触れ、卒業後、義務を果たそうとする気持ちをもつ。学
7 5 10	・働くために大切なことの理解	・障害者雇用されている人や その職場の上司の話を聞 き、採用されるためには何 が大切か考える。 ・卒業生の話を聞き、働き続 けていく中で、大切なこと を考える。	 ・採用されたり、働き続けたりするために大切なことについて知り、現場実習で頑張ることについて具体的に考える。 ・働いていくために大切なことを知り、今後の自分の行動に生かそうとする。 〇キャリアプランニング能力
11 • 12	・職業生活における自己理解(「トリセツ」の作成①)	・現場実習や作業学習などで 感じた困ったことについて の解決策を考え、「トリセ ツ」を作成する。	・これまでの経験を踏まえ、困った場面で自分が講じる解決策や他者に相談する事について考える。 〇自己理解〇課題対応能力
13 • 14	・「トリセツ」を使った 相談の仕方の理解と 活用	・「トリセツ」の伝え方を知る。・「トリセツ」を活用し、作業担当教師に、自分が困る場面についての対応を相談する。	・よりよい人間関係を築くための話し 方や相談の仕方について知る。知 ・「トリセツ」を活用し、自分のことを 他者に伝えようとしている。学 ○課題対応能力
15 • 16	・振り返り	・「トリセツ」を伝えた時やその後の作業学習での様子などを振り返る。・「トリセツ」で説明を受けた教師の感想を聞く。	・「トリセツ」活用後の自分や友達の感想、説明を受けた教師の話などを聞き、他者に伝えることの有用性に気付く。 〇キャリアプランニング能力
17 • 18	・職業生活における自 己理解(「トリセツ」 の作成②)	・これまでの経験を振り返り、職場に依頼したい、困った場面において、自分でできる解決策や他者に相談したいことについて考え、「トリセツ」を作成する。	・これまでの経験を踏まえ、困った場面で自分が講じる解決策や他者に相談する事について、前回よりも更に具体的に考え、自分の「トリセツ」を作る。 ○自己理解○課題対応能力

5 単元の評価規準

3 平元の計画が十		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・自分についての肯定的な理	・苦手なことや困ったときの対応	・友達や教師の話を聞いたり、自
解のもと、自分の苦手なこ	策として、自分でできる解決策	分の考えを発表したりしよう
となどについて理解してい	を具体的に考えている。また、他	としている。
る。	者に相談したいことを無理のな	・「トリセツ」を活用し、他者に自
・三大義務や主な権利につい	い範囲内で、具体的に考えてい	分のことを伝えようとしてい
て知り、勤労の意義につい	る。	る。
て理解を深めている。	・「トリセツ」の有用性に気付いて	・必要に応じて、自分の苦手なこ
・様々な法律や条約、合理的配	いる。	とについては、他者に助けを求
慮についての理解を通し	・他者に助けを求めることに肯定	めようとする気持ちをもって
て、互いに助け合って生き	的な考えをもっている。	いる。
ていくという考え方につい		
て知っている。		

6 本時の計画(総時間数18時間/本時11・12時)

(1) 本時のねらい

- ①自分の困った経験をもとに、苦手とすることについて、自分のできる解決策を考える。思
- ②他者のできる範囲内で、相談したいことを考える。思

(2) 生徒のねらいと手立て

No.	氏名・性別	実 態	個別のねらい	手立て
1	A	言葉の意味の理解が不十	①自分の苦手な事につい	・学校生活で、教師に相談
	(男)	分なときがある。自分の	て、自分のできる解決策	したいことを考える場
		解決策を考えることはで	を考える。	面を設ける。
		きるが他者に相談したい	②教師や友達のアドバイ	・考えることが難しい場
		ことを一人で考えること	スを参考にしながら、相	合には、友達からアドバ
		は難しい。	談したいことを考える。	イスをもらう場面を設
				定する。
2	В	積極的に自分の考えを発	①自分の苦手な事につい	・他者のできなそうなこ
	(男)	表する。自分の解決策を	て、自分のできる解決策	とを考えていた場合に
		考えることはできる。し	を考える。	は、本人がその事に気付
		かし、他者への相談では	②教師や友達のアドバイ	くことができるよう、本
		他者のできることかどう	スを参考にしながら、他	人に問い掛けたり、周囲
		かまで、考えることは難	者のできる範囲内で、相	に問い掛けたりする。
		しい。	談したいことを考える。	
3	С	積極的に自分の考えを発	①自分のできる解決策を	・解決策が具体的でなか
	(女)	表するが、自分に自信が	考え、実践しようとする	ったり、できる範囲外の
		なく、一人で他者に伝え	気持ちをもつ。	相談だったりした場合
		ることに不安を感じてい	②他者のできる範囲内	には、問い掛けたり、選
		る。解決策やお願いは自	で、相談したいことを考	択肢を提示したりする。
		分で考えられる。	える。	
4	D	自分の考えはあるが、積	①自分の苦手な事につい	・過去の経験で、失敗した
	(男)	極的に発表することは少	て、自分のできる解決策	ことについて、問い掛

		ない。自分の障害を否定	を考える。	け、考える場面を設け
		的に感じている。おおま	②他者のできる範囲内	る。 る。
		かな解決策や相談は自分	で、相談したいことを考	・具体的に考えられるよ
		で考えられるが、具体的	える。	う、問い掛けたり、例示
		に考えるのは難しい。		したりする。
5	E	控えめではあるが、理解	①自分のできる具体的な	・実践しようとする気持
	(男)	していることは積極的に	解決策を考え、実践しよ	ちが高まるよう、できた
	()3)	発表する。おおまかな解	うとする気持ちをもつ。	自分の姿を想起させる
		決策や相談は一人で考え	②他者のできる範囲内	機会を設ける。
		られるが、具体的に考え	で、相談したいことを考	・解決策や相談内容が具
		るのは難しい。	える。	体的でなかった場合は
		S 17 TOXILL O 1 0	, c 0 °	問い掛け、深く考える機
				会を設ける。
6	F	<u>│</u> │ 積極的に発表することは	①自分のできる具体的な	・具体的な解決策を考え
	(女)	少ないが、学習プリント	解決策を考える。	られるよう、「こんな時
	(2)	に自分の考えを言葉で書	②他者のできる範囲内	はどうするの? などと
		き表すのは早い。おおま	で、相談したいことを考	具体的な場面を問い掛
		かな解決策や相談は一人	える。	け、深く考える機会を設
		で考えられる。		ける。
7	G	じっくり考えて、自分の	①自分の苦手な事につい	じっくり考える時間を
	(男)	 考えを表出する為、解決	て、自分のできる解決策	確保できるよう、教師は
		 策や相談は一人で考える	を考える。	必要以上に問い掛けず
		ことはできるが、時間を	②授業時間を越えてもよ	見守る。
		要する。	いので、他者のできる範	・授業時間以上、時間を要
			囲内で、相談したいこと	する場合には宿題にし
			を考える。	て、後日時間を取って内
				容を確認する。
8	Н	自分の考えをまとめたり	①教師のアドバイスを参	・学校生活や実習中の課
	(男)	言葉で表したりするのに	考にしながら、自分の苦	題について触れ、考える
		時間を要する。解決策や	手な事についての解決策	機会を設ける。
		相談を一人で考えること	を考える。	考えることが難しい場
		は難しい。	②教師や友達のアドバイ	合には、友達からアドバ
			スを参考にしながら、相	イスをもらう場面を設
			談したいことを考える。	定する。
9	I	自信があることについて	①自分の困った経験に気	・困ったことや苦手だっ
	(男)	は、積極的に発表する。	付き、自分のできる具体	たことについて、例示し
		自分の障害を否定的に感	的な解決策を考える。	て問い掛ける。
		じている。おおまかな解	②他者のできる範囲内	・解決策が具体的でなか
		決策や相談は一人で考え	で、相談したいことを考	った場合には、問い掛け
		られるが、具体的に考え	える。	たり、選択肢を提示した
		ることは難しい。		りする。

(3) 学習過程

時間		学習活動	教師の働き掛け、指導上の留意点
(分)			囲み部分はねらいに対する手立て
20	導	1 既習内容を振り返る	・本時のねらいやポイントとなる既習内容を書き出す穴埋
	入		め式のプリントを準備し、記入する場面を設ける。
35		2 「トリセツ」を作成する	・自己のマイナスな部分を肯定的に捉えることができるよ
			う、共感する言葉掛けをする。
		(考えることが難しい	・具体的に解決策を考えることができるよう、これまでの
		生徒がいた場合には)	困った経験等を想起させ、考える機会を設ける。
	展	友達からのアドバイス	・具体的な解決策や、他者の対応可能な内容を考えていた
		を聞く	場合には、共感したり、称賛したりする。
			・解決策が具体的でなかったり、他者の対応可能な範囲外
15		3 「トリセツ」の発表をす	の相談だったりした場合には、問い掛けたり、実現可能
		る	か周囲に投げ掛けたりする。
			・相談したいことを考えることが難しい生徒がいた場合に
	開		は、友達からアドバイスをもらう場面を設定する。
		(友達の発表を受けて)	・「トリセツ」の作成が完了し時間が余っている生徒がい
10		4 解決策やお願いしたい	た場合には、友達にアドバイスをする場面を設ける。
		ことを書き足す	・自信をもって発表できるよう、記入の時点で、称賛した
			り、共感したりする。
20		5 授業の感想を書いて発	・本時の学習を、今後の行動実践につなげることができる
	ま	表する	よう、授業で分かったことや心掛けたいことなどの感想
	٢		を書くプリントを準備する。
	め	6 今後の予定について知	・自信をもって発表できるよう、感想の記入の際に、良い
		る	気付きがあった場合には称賛する。
			・感想発表で、伝わりにくい内容があった場合には、必要
			に応じて、言葉を補ったり、例示を問い掛けたりする。
			・今後について見通しがもてるよう、「トリセツ」の活用に
			ついて説明する。

(4) 評価

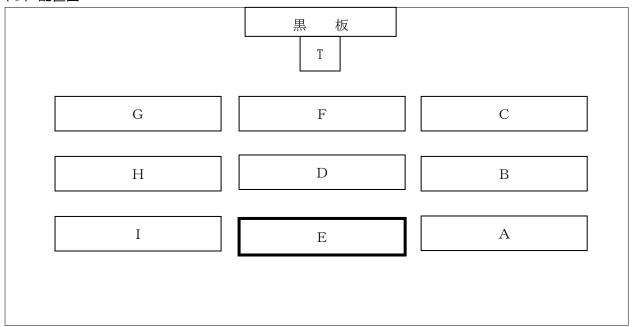
<生徒の評価>

- ・自分でできそうな解決策を考えられたか。
- ・他者のできる範囲内で、相談したいことを考えられたか。

<教師の手立ての評価>

- ・具体的な解決策を考えられるような言葉掛けや支援が適切であったか。
- ・生徒が発している言葉と解釈が一致しているか確認が適切であったか。
- ・他者に相談したいことが相手にとってできることか、想像できるような言葉掛けや支援が適切であったか。

(5)配置図



<高等部総合サービス科 研究テーマ>

職業科を中心とした系統性・発展性のある教育課程の工夫・改善 ~学びを活用して思考・行動する生徒の育成を目指した授業づくり~

1 学科研究テーマ設定理由

(1) 昨年度の研究の課題

本学科の生徒は企業就労を目指しており、学んだことを日常生活でも継続して行い、定着させていくことが望ましい。しかし、生徒自身が「できる」と認識していることが何度も課題として挙げられたり、実習で同様の失敗をしたりしてしまうなど、学んだことが定着していない生徒もいる。そのため、昨年度は学んだことを継続して発揮する力を高めること、そのために繰り返しの学習場面を設定することが課題として挙げられた。

今年度は、生徒が「身に付いた」と実感できるよう、職業科を中心に他教科等との関連や他学年との系統性、発展性をもたせ、学んだ力の定着を目指した学習の充実や学んだことを次時や次のステップにつなげる工夫を行う必要がある。

(2) 職業科の系統性・発展性

本学科では、「年間学習計画表」を作成している。学科教育課程におけるすべての教科・領域の 1年間の学習内容、学習時期を一覧にして、年間の見通しをもち、他教科等と関連付けた学習計画を立てることを目的としている。

しかし、職業科は、学年ごとに実施される教科であり、担任によって年間学習計画が立てられるため、3年間の系統性・発展性が見えづらくなっていた。そこで、生徒の企業就労を目指した働く力の習得に向けて、3年間を見通した学習計画が必要と考えた。

2 研究仮説

職業科を中心に3年間の学習計画を立案し、生徒が学びを活用して思考、行動する授業づくりの工夫・改善を行うことで、学びの定着につながると考える。

3 取組の実際

(1)目指す資質・能力の明確化~学ぶ内容を明確にする~

年間学習計画表の見直しにあたり、指導内容の根拠となる学校教育目標、学部目標、キャリア教育全体計画、学習指導要領職業科の指導内容と、各学年で作成した職業科の年間指導計画を照らし合わせながら、企業就労を目指す生徒の「総合サービス科で身に付けたい力」を明確にした。

【総合サービス科で身に付けたい力】

- ・職場や生活の場を知る
- ・自分の適性や課題に気付く
- ・自分の生活習慣や態度を改善しようとする
- ・社会人としてのマナーを身に付ける など

(2) 単元(題材)の目標と学習内容を明確にした単元(題材)計画~学ぶ内容を関連付ける~

「総合サービス科で身に付けたい力」を基に、職業科の学習内容が系統的・発展的になるよう、各学年が必修で取り組む内容を決め、3年間の学習計画を立案した(表1)。

また、職業科と他教科(専門3教科の家政、流通・サービス、福祉)を関連付け、学習計画の見直し・改善を図った。



写真1 学習計画検討の様子

表 1 職業科 年間学習計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年			€習★	実習先・職場ルール・マ	けでの ナー	様々な職種	(444-30.70.1.)	現場実習★		生活にか; ・時給の計算(1	
2年	進路決 定まで の流れ		実習★	実習先・職場ルール・マ	での 先輩 (編列	記と語る会 学、2種の話を聞く)	職業ガイダンス	現場実習★	選択履修について	生活にか	はお金と使い方	
3年		現場領	実習★	求職者登録に		個別実習 (~3月)	職業講話				る仕組み、機関	

★実習事後で課題解決 (一般化) に向けて、自分でスモールステップを立てられるように、客観的評価を活用する。

※各学年で必ず実施する学習を記載。その他、各学年の実態に応じて、学習内容を追加する。

(3) 目標を達成するための学習過程の工夫・改善~学んだことへの気付きや自覚を促す~

事例対象生徒について、実態を基にした期待する姿と手立てを検討し、生徒の変容を記録した。

①研究事例対象生徒の設定

対象生徒:1年 Aさん

実態:伝えたいことを言葉にすることが難しい。

自信がないためか、声が小さい。教師が聞き返すことで、はっきりと言い直す。 語彙が少ない。清掃の報告や教科連絡、SHR(ショートホームルーム)の進行など、

定型文であれば、安心して伝えられる。

担任の思い:伝えたいことをはっきりと話して伝えてほしい。

本人の思い:不安なことは言葉にしにくい。相手に聞こえやすい声の大きさで話したい。

②期待する姿と手立ての検討(I期)

期待する姿: 1年生同士の話合いで、3~4人グループの中で自分の意見を聞こえるように話す。 手 立 て:対象生徒と「なぜできたのか」「なぜできなかったのか」「どうすればできるのか」を 振り返り、共有する。

対象生徒が行動するための繰り返しの学習場面を設定する。

③生徒の変容 (I 期)

<7月> Aさんは、学科合同での学習で話合いの場面になると、緊張や自信のなさから隣の生徒にしか聞こえない声の大きさになってしまったり、他のグループの声にかき消されてしまう声の大きさになったりしていた。そこで、各授業で小グループを作り、自分の考えを伝える機会を設定した。小グループで伝えられるようになったら、次に全体の場で一人一人の意見を聞く場面を設けた。また、Aさんの不安を軽減するため、分からないことをそのままにせず、友達や教師に聞くことを確認した。

繰り返し学習をしたことで、Aさんは自分の課題に気付き、日々実践することとして、「相手に聞こえやすい声の大きさを心掛ける」ことを目標に設定した。

<9月> Aさんの目標に対する意識が高く、SHRや日常会話の中で、友達から聞き返される ことがなくなってきた。授業中に挙手をして発言することや、分からないことを友達や 教員に質問したり、確認したりすることが増えた。

目標に対する自己評価に、高評価を付ける日が続いたため、教師が最近の様子を伝えながら、"なぜできるようになってきたのか"を本人と一緒に考えた。

Aさんは、皆と話す機会が増えて、話すことに慣れた。間違っても大丈夫という雰囲気を感じ、まずは言ってみようという気持ちになったり、前よりも自信をもって話したりできるようになったと振り返った。

<10月> 学科全体で実施した道徳科の授業で、1~3年生4名のグループで話合いをした。A さんにとって慣れていないメンバーのため、表情は硬く、低い声であったが、自分の考えを同じグループの生徒が聞き取れる声で話した。

慣れていない場面や相手でもはっきりと話せるようになるために、朝清掃の報告は、 担任が不在の場合は、他の教師にするように学級全員に伝えた。すると、<u>朝清掃の報告を他学年の教師にもするようになった。</u>また、教室の入口で、明瞭な声で挨拶して入室 した。さらに、清掃場所を尋ねると、明瞭な声で「福祉学習室です」答えた。

④期待する姿と手立ての検討(Ⅱ期)

期待する姿: 自分の考えを伝えるときに、「どんな」「どのように」など、具体的に話す。

手 立 て:対象生徒の語彙を増やしたり、相手に伝わる内容で話したりするために、話した内容 について、「どうだったのか」「どのようにしたのか」など、質問する。

凡事徹底ファイルの評価シート(職場で求められる力について、どの程度できたかを 毎日振り返るシート)や授業のワークシートに、具体的に記入するよう伝える。

⑤生徒の変容(Ⅱ期)

<11月> 凡事徹底ファイル(毎日の学習や態度を振り返るファイル)の評価シートや授業のワークシートに、"○○をしました""○○をがんばりました"と記入することが多く、内容が伝わりにくかった。

具体的な振り返りを書けるよう、教員が5W1Hカード「いつ」「どこで」「だれが」「何を」「どのように」を作成し、Aさんが自分で書いた文にカードを貼り付けながら、具体的に記述できているか判断できるようにした。

「福祉で、シーツ交かんをしわにならないように気をつけてがんばりました」「流サで

ひさしぶりの食堂清掃をしました。 いすあげ、いすおろし、ダストクロスS字2しゅうをしました。しっかりとやり方も覚えていてできました」など、具体的に記入することが増えた。カードを用いることで、具体性に欠けていることに自ら気付き、言葉を追加することもあった。

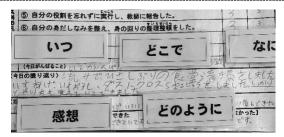


写真2 凡事徹底ファイルの振り返り

< 1月> 3学期始業日、学級内で冬休みの思い出を発表し合う時間を設定した。Aさんは、初めて一人で映画を観に行ったことを話した。友達や教師からの質問タイムを設けたところ、「いつ」「どこで」「何の」などの質問を受けて、具体的に説明した。

⑥事例検討を通して

相手に伝わる声の大きさについて、学習の積み重ねや小グループから徐々に集団を大きくする環境設定の工夫に併せて、学習過程で、教師の「なぜできるようになってきたのか」という思考を促す発問によって、Aさんは自分自身の学びや成長、その要因に気付いた。また、相手に伝わる文章を書けているかを自分で判断できる5W1Hカードを用いたことで、言葉の不足に気付き、自分から加筆する姿を引き出した。

(4) 学ぶ姿に着目した授業研究

授業者だけでなく、参観者も"一緒に授業をつくる"という意識を高められるよう、生徒の学 ぶ姿に着目した授業研究を実施してきた。本学科で実施した高等部内授業研究会、他学部と普通 科が実施した全校授業研究会の参加・参観を通して、授業者と参観者の視点で、研究会のもち方 を振り返った。(○成果、△課題)

①事前授業検討会

<実際の意見>

- ○授業者と参観者が同じ目線で協議に参加できるよう、授業のねらい、生徒の様子について、 授業者による説明と質疑応答の時間を設定した。活発な質疑応答が行われ、情報を共有し たことで、一緒に授業づくりをする意識が高まった。
- ○他学部、他学科の児童生徒の実態や取組みを知る機会が少ないため、事前授業検討会を通 して互いの取組みを知れた。事前に授業内容や児童生徒の実態を知り、参観の際に授業が 見やすくなった。
- ○協議を参考に、自分の単元計画や授業の組立てを考えられた。アイディアの交換の場となった。
- ○複数の目で、多角的に授業を見つめる機会となった。
- △授業のねらい、生徒の実態などを踏まえた授業者の思いを理解した上で、具体的、建設的 な話合いにしていかなければならない。
- △授業者の意図が伝わり切らず、否定的な意見が出ることがある。授業者が協議題としている内容について、建設的な話し合いができるとよい。

事前授業検討会を通して、授業のねらいや児童生徒の実態などの情報を共有することで、参観者にとっては、他学部、他学科の取組を知る機会となったり、学部を超えて一緒に授業をつくろうとする意識が高まったりした。また、様々な意見やアイディアを基に、参観者自身が授業を見つめ直す機会となった。一方、協議内で否定的な意見が出ることがあり、生徒の実態や授業者の意図が伝わっていないのではないかという課題も挙がっている。授業説明や質疑応答を通して授業者の意図を理解し、建設的な話合いになるよう、協議の目的を改めて示す必要性を感じた。

②授業提示

<実際の意見>

- ○他学部の授業を参観することで、児童生徒の実態や取組みを知る機会となった。
- ○事前授業検討会を実施することで、参観のポイントが分かった。
- ○「事実」に着目し、「解釈」をしながら参観することで、普段から生徒の言動について、 どうしてそうしたのかと理由を考えたり、生徒に質問したりするようになり、生徒の思 考を理解しようとするようになった。

他学部の授業を参観することは、事前授業検討会と同様に、児童生徒の実態や互いの取組を知る機会となっている。また、事前授業検討会を経たことで、参観をする際に授業者が見てほしいポイントが絞られて、生徒の学びに注目しやすくなった。さらに、児童生徒の実際の姿「事実」に着目し、その言動を「解釈」しながら参観することで、参観者自身が普段から生徒の思考を理解しようとする意識が向上した。

③授業協議・指導助言

<実際の意見>

- ○指導助言を受けて、学習指導要領や年間指導計画とのつながりを再確認した。
- ○解釈や手立てについて話し合うことで、自分の授業づくりや生徒と接する際の参考になった。
- ○様々な解釈や手立てについての意見が出てきた。生徒の学びを見取るために、普段から の実態把握の大切さに改めて気付かされた。
- ○複数の視点で生徒の学びについて協議することで、生徒を見取る視点が分かってきた。

- ○協議を通して、授業内での生徒のグルーピングの大切さを実感し、意識し始めた。
- △協議中、授業者への質問が多かった。次回への改善案(アドバイス)を考えるため、初めに授業者から生徒の評価、授業の評価を聞きたい。

授業協議や指導助言を受けて、学習計画や学習内容の組立てという授業づくりの基礎となる部分から、授業中のグルーピングまで、幅広く考える機会となった。参観者にとっては、自分の授業づくりや生徒との接し方に反映したり、実態把握の大切さを再確認したりできた。

授業者から授業を終えての目標の達成度について話を聞きたいという意見があった。より活発な協議とするため、今後協議の流れについて検討する必要がある。

4 まとめ

(1) 学びを活用して思考・行動する生徒の育成

職業科の授業で、1年生は働くために必要なマナーを題材とした。現場実習を振り返って自分の成果と課題を知り、振り返りを活用して働くために必要なマナーを考え、ロールプレイを通してどのような言動が適切か理解を深めた(資料1~3)。2年生はビジネスマナーを題材とした。授業で覚えたビジネスマナーが、学校や職場のどの場面で生かされるかを知り、学校生活や現場実習で心掛けている姿が見られた。3年生は、卒業後を見据え、職場に適応するために必要な力をより具体化し、特定の場面で「できた」ことを他の場面でも「できる」ことにする方法を自分たちで考え、日々実践した。

いずれの学年も、生徒が学びを活用する学習を意図的に設定したり、活用する場面を具体化して示したりすることで、生徒が意欲的に学びを発揮した。

(2) 職業科を中心とした系統性・発展性のある教育課程の検討

卒業後の企業就労を目指して、各学年段階で身に付けたい力、総合サービス科の3年間で育てたい力が明確になったことで、職業科の指導内容が整理された。

職業科が系統性・発展性のある計画となったことで、専門3教科の学習内容も、前期を終了した時点で、見直し・改善を図った。生徒のねらいの達成状況や進路希望に応じて、学習時期や学習内容を見直した。

育てたい力、学ぶ内容は決まっても、学ぶスピード、学び方は生徒一人一人で異なる。今後も年間学習計画表を基に、各教科を他教科等と関連付けながら、年度途中での見直し、改善を図り、個々の学びに応じた指導方法を検討していきたい。

(3) 今後に向けて

職業科の系統性・発展性のある教育課程を検討し、学科で育てたい力を習得するための学年ごとの学習内容が整備された。また、専門3教科と関連付け、学習時期や学習内容が適切であるかどうかの検討を実施した。しかし、現段階では、職業科と他教科等の"学び"を相互に活用する学習場面を意識的に設定するまでは至っていない。生徒が、"学び"を他教科や学校生活でどのように生かしたいか、就職に向けてこれからどのようになりたいかという具体的なイメージをもてるよう働きかけること、生徒と教員共に、"学び"がどの教科、どの場面に活用できるかを理解し、教師は生徒が得た"学び"を活用する場を、意図的に設けることで、学び続ける生徒の育成を目指したい。

高等部総合サービス科 第1学年 職業科 題材計画案

1 題材名 ルールとマナー②

2 生徒と題材

(1)児童生徒について

- ・本学習集団は、一般企業就労を目指している男子6名、女子5名の学年である。
- ・本校中学部からの入学者3名、他校中学校からの入学者が8名である。他校中学校から入学してきた生徒は、中学校のときに不登校傾向や人との関わり方に課題があり、ルールやマナーの大切さは分かるが行動に移すことができない生徒もいた。また、多くの生徒は、自己肯定感が低く、活動に対して消極的な態度が見られる。しかし、現在、不登校傾向は改善してきており、人との関わり方についての学習を積み重ねていく中で、ルールやマナーの大切さを考えて、場面に応じた行動が見られるようになってきている。
- ・前回 (ルールとマナー①) までの学習では、話合い活動やグループでの劇制作を通して、「ルールとマナーがなぜ必要なのか」、「学校におけるルールとマナーは何か」について考え、今後の生活に生かそうとしていた。

<対象生徒について>

- ・自分の考えを整理して伝えることは難しいが、清掃の報告やSHRの進行など定型文であれば、 はっきりと相手に伝わる声の大きさで話をする。
- ・クラスや学年の集団では、学習の中で手を挙げて発言することや、生活の中で分からないことを 教師や友達に質問したり、確認したりすることが増えている。
- ・前回までは、進んで発言することはあまりなかったが、指名されたり順番が回ってきたりすると答えている。発言内容の説明が足りず、職員に「それはどういうこと?」等と聞き返されることもあった。

(2) 題材設定理由

- ・11月15日~26日に初めての現場実習を行い、先週までに現場実習での成果や課題についてまとめている。しかし、自分の成果や課題についての振り返りは、まだ不十分である。(予定)
- ・ほとんどの生徒は、自己肯定感が低く、自信をもって行動することに課題があるため、前回 (ルールとマナー①) の学習では、生徒の興味・関心が高い劇制作を通して、「挨拶・返事」「言動」「食事」のルールとマナーについて、実際にどうすればよいかの疑似体験もしながら、学習を進めてきた。そこで、今回も活動に対しての安心感をもちながら、生徒一人一人が自信をもって、協力しながら活動できるのではないかと考え、劇制作を通した学習を展開することとした。
- ・現場実習の振り返り、劇制作を通して、ルールやマナーの大切さを再確認し、自分や友達の成果 に気付き、お互いを認め合い、今後の生活にどう生かしていくかを考える機会となるのではない かと考え、題材設定をした。

(3) 指導について

- ・現場実習を振り返って、職場におけるルールやマナー、自分の成果や課題について、プリントに記入、発表できるよう、実習日誌を基に実習を振り返る時間を設けたり、実習での出来事について問い掛けたりする。
- ・活動への見通しをもち、自信をもって、話合いや発表ができるよう、授業の内容を掲示したり、生 徒の成果に着目した話合いや発表の機会を繰り返し設定したりする。
- ・学習したことを今後の生活に生かすことができるよう、劇制作を通して疑似体験したり、今後の目標を設定したりする。

3 題材の目標

- (1) 現場実習の振り返りを通して、職場におけるルールやマナーを知る。 知
- (2) 劇制作を通して、現場実習における自分や友達の成果や課題に気付いたり、発表したりする。思
- (3) これからの生活に必要なルールやマナー、トラブルへの対処方法について考え、実践する。学

4 題材計画(総時間数8時間/本時1・2時)

時	学習内容	学習活動	育成を目指す資質・能力(知 圏 学)
1 5 4	○現場実習振り返り・自分の成果・友達の成果	・現場実習での自分や友達 の成果について知り、劇 制作をする。	・自分や友達の成果に気付く。国 ・劇制作を通して、友達と協力する、試行 錯誤する、表現する力を養う。国
5 • 6	○現場実習振り返り・自分の課題・友達の課題	・現場実習での自分や友達 の課題について知り、劇 制作をする。	・自分や友達の課題に気付く。知 ・劇制作を通して、友達と協力する、試行 錯誤する、表現する力を養う。国
7 • 8	○今後の目標・個人目標・学年目標	・これまでの学習を振り返り、今後の生活に向けた 目標を立てる。	・よりよい将来の職業生活の実現に向けて 日々の生活を改善しようとする実践的な 態度を養う。 学

5 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・自分や友達の成果や課題につ	・劇制作を通して、自分の意見を	・生徒同士で話し合いながら、役
いて知る。	伝える、友達の意見を聞き入	割分担をしたり、試行錯誤し
・情報機器を活用しながら、劇を	れる。	たりしながら、劇を制作しよ
制作する。	・自分たちの意見が、どのように	うとする。
	したら相手に伝わるかグルー	・発表を振り返りながら、「自分
	プで話し合いながら試行錯誤	ならどうするのか」「これから
	する。	どうしていくのか」をグルー
		プや個人で考える。

6 本時の計画

- (1) 本時のねらい
- ①現場実習の振り返りを通して、自分や友達の成果について知る。知
- ②話合い活動や劇制作を通して、職場におけるルールやマナーについて考えたり、友達に意見を伝えたりする。 圏

(2) 本時の主な学習活動

(個人) 実習日誌等を基に実習を振り返りながら、職場におけるルールやマナーを再確認し、自分 の成果を学習プリントに記入したり、発表したりする。

(グループ) お互いの成果を伝え合う中で、職場におけるルールやマナーについて整理し、劇制作の題 材を検討したり、役割分担をしたりする。

(3) 対象生徒の期待する姿

- ・実習日誌(職員からもらった評価やコメント)を見返して、「こういうことですか?」と気付いた自分 の成果を教師に確認を求めたあと、挙手するなどして進んで、全員が聞き取れる声の大きさで発表す る。
- ・グループの話合いの中では、自分の意見に理由を付け加えながら具体的に伝える。また、劇制作の場面では進んで自分の役割を果たし、みんなで協力して進めようとする。

令和3年度 学部授業研究会(高等部)授業概要シート

授業提示

1 日 時 令和3年12月14日(火) 10:45~12:25

2 授業

	//C		
学年· 学級	指導の形態 題材名	場所	指導者
1	職業 ルールとマナー②	第二校舎 1年1組教室 1年2組教室	中野 貴洋 (T1) 佐々木 幸 (T2)

<本時の授業について>

本時は、「ルールとマナー②」の1・2時間目である。

導入は、今日の目標が「働く上で必要なルールやマナーについての劇を制作する」を提示し、本時の学習内容について説明する。展開①は、働く上で必要なルールとマナーの視点で現場実習での成果について、学習プリントに記入したり、発表したりする。展開②は、3グループに分かれて、働く上で必要なルールとマナーについて考えながら劇制作を行う。展開③は、情報機器で撮影したお互いの劇を見合い、感想を伝え合う。まとめは、働く上で必要なルールとマナーについて、今後の生活にどう生かしていくかを考え、目標を立てる。

ねらいは、「現場実習の振り返りを通して、自分や友達の成果について知る」「話合い活動や劇制作を通して、働く上で必要なルールやマナーについて考えたり、友達に意見を伝えたりする。」である。手立ては、「働く上で必要なルールやマナーの視点で自分の成果を振り返りできるよう、実習日誌を振り返る時間を設けたり、実習での出来事について問い掛けたりする。」「働くために必要なルールとマナーについて考えられるよう、『なぜ必要なのか』と理由を問い掛けたり、映像で振り返ったりする時間を設ける。」である。

<対象生徒について>

(1) 対象生徒の実態

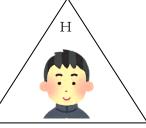
新しいことを覚えたり、手順の多い作業をしたりすることは得意ではないが、繰り返しの学習により積み重ねができ、時間をかけてできるようになる。自分の考えを整理して伝えることが難しく特に慣れない相手に自分の考えを伝える場面でははっきり伝えられないことが多い。掃除の報告やSHRの進行など定型文であれば、はっきりと相手に伝わる声の大きさで話をする。また、クラスや学年の集団では、学習の中で手を挙げて発言することや、生活の中でわからないことを教師や友達に質問したり、確認したりすることが増えている。

(2) 本題材における育みたい資質能力

学びに向かう力・人間性等 ・これからの生活に必要なルールやマナーに ついて、友達と考えを伝え合い、今後の自 分の生活に生かそうとする。

知識及び技能

- ・自分や友達の実習での成果や課題 について、気付いたことをワーク シートに書く。
- 働く上で必要なルールやマナーを 知る。



思考力・判断力・表現力等

- ・話し合い活動の中で、テーマに 沿った意見を出す。
- ・自分の意見を友達に伝わるよう、 具体的に聞こえる声で話す。

(3) 対象生徒のこれまでの学習の様子と本時の期待する姿(本時のねらいを達成した姿)

これまでの学習の様子	期待する姿
前回までは、進んで発言することはあまりなかっ	① 自分の成果を教室にいる全員が聞き取れる声
たが、指名されたり順番が回ってきたりすると答え	の大きさで発表する。
ている。発言内容の説明が足りず、職員に「それは	② 話合いの中で、自分の意見に理由を付け加え
どういうこと?」等と聞き返されることもあった。	ながら具体的に伝える。

高等部総合サービス科1年 職業科学習指導案

日 時:令和3年12月14日(火)10:45~12:25

場 所:第二校舎1年1組、2組教室 生 徒:男子6名、女子5名、計11名 指導者:中野貴洋(T1)、佐々木幸(T2)

1 題材名 ルールとマナー②

2 生徒と題材

(1) 生徒について

本学習集団は、一般企業就労を目指している男子6名、女子5名の学年である。そのうち、本校中学部からの入学者が3名、他校中学校からの入学者が8名である。他校中学校から入学してきた生徒は、中学校のときに不登校傾向や人との関わり方に課題があり、ルールやマナーの大切さは分かるが行動に移すことができない生徒が多い。また、多くの生徒は、自己肯定感が低く、活動に対して消極的な態度が見られる。しかし、現在、不登校傾向は改善してきており、人との関わり方についての学習を積み重ねていく中で、ルールやマナーの大切さを考えて、場面に応じた行動が見られるようになってきている。

前回(ルールとマナー①)までの学習では、話合い活動や3つのグループでのロールプレイング(生徒には「3分劇」の名称を使用しており、以下、劇と表記している)を通して、「ルールとマナーがなぜ必要なのか」、「学校におけるルールとマナーは何か」について考え、今後の生活に生かそうとしていた。

対象生徒(H)は、自分の考えを整理して伝えることは難しいが、清掃の報告やSHRの進行など定型文であれば、はっきりと相手に伝わる声の大きさで話す。学級や学年の集団では、手を挙げて発言することや、生活の中で分からないことを教師や友達に質問したり、確認したりすることが増えている。前回までは、進んで発言することはあまりなかったが、指名されたり、順番が回ってきたりすると答えている。しかし、説明が足りず、友達や職員に「それはどういうこと?」等と聞き返されることもあった。

(2) 題材について

11月15~26日に初めての現場実習を行い、先週までに現場実習での成果や課題についてまとめ、実習報告会で発表したり、礼状作成に生かしたりしている。しかし、現場実習での成果と課題が働く上で必要なルールやマナーにつながることへの意識が薄く、さらなる学習が必要である。

また、現場実習の振り返り、劇制作を通して、働く上で必要なルールやマナーの大切さを再確認 し、今後の生活にどう生かしていくかを考える機会となるのではないかと考え、題材設定をした。

(3) 指導について

- ・働く上で必要なルールやマナーについて気付くことができるよう、現場実習での自分の成果や課題について、実習日誌を基に振り返り、学習プリントに記入する時間を設けたり、現場実習での出来事について問い掛けたりする。
- ・活動への見通しをもち、自信をもって話合いや発表ができるよう、授業の内容を掲示したり、生 徒の成果や課題に着目した話合い活動や発表の機会を繰り返し設定したりする。
- ・ほとんどの生徒は、自己肯定感が低く、自信をもって行動することに課題があるため、前回 (ルールとマナー①) の学習では、生徒の興味・関心が高い劇制作を通して、「挨拶・返事」「言動」「食事」のルールとマナーについて、実際にどうすればよいかの疑似体験もしながら、学習を進めてきた。そこで、今回も活動に対しての安心感をもちながら、生徒一人一人が自信をもって、協力しながら、共通の成果や課題に対して、今後の生活にどう生かしていくかを考える機会となるのではないかと考え、劇制作を通した学習を展開することとした。
- ・学習したことを今後の生活に生かすことができるよう、劇制作を通して疑似体験したり、今後の 目標を設定したりする。

- 3 題材の目標 知:知識及び技能 思:思考力・判断力・表現力等 学:学びに向かう力・人間性等
- (1) 現場実習の振り返りを通して、働く上で必要なルールやマナーを知る。 知
- (2) 劇制作を通して、働く上で必要なルールやマナーについて考え、話し合い、発表する。 思
- (3) これからの生活に必要なルールやマナーについて考え、実践する。学

4 題材計画(総時間数8時間/本時1・2時)

	. 1711111111111111111111111111111111111		/ *T'E3 - E3/	
ı	時	学習内容	学習活動	育成を目指す資質・能力(知 圏 学)
	6 時間	○働く上で必要	・現場実習での自分や友	・自分や友達の成果や課題を知る。知
	(本時1・2	なルールやマ	達の成果や課題を知	・劇制作を通して、働く上で必要なルール
	/6)	ナー	り、働く上で必要なル	やマナーについて考える。圏
			ールやマナーを考え	・劇制作を通して、友達と協力する、試行
			て、劇として発表する。	錯誤する、表現する力を養う。圏
ĺ	2 時間	○今後の目標	・これまでの学習を振り	・よりよい将来の職業生活の実現に向けて
			返り、今後の生活に向	日々の生活を改善しようとする実践的な
			けた目標を立てる。	態度を養う。学

5 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・自分や友達の成果や課題について知る。	・働く上で必要なルールやマナー について考え、どのように劇に	・生徒同士で役割分担をしたり、試行錯誤したりしなが
・働く上で必要なルールやマナーを知る。	するか話し合う。 ・「自分ならどうするのか」「これ	ら、劇を制作しようとする。
	からどうしていくのか」をグル ープや個人で考える。	

6 本時の計画

(1) 本時のねらい

- ①現場実習を振り返り、自分や友達の成果について知る。知
- ②話合い活動や劇制作を通して、働く上で必要なルールやマナーについて考えたり、友達に意見を伝えたりする。 思

(2) 生徒のねらいと手立て

No.	氏名(性別)	実態	個別のねらい	手立て
1	A (男)	自己肯定感が低く、失 敗への抵抗が強いため、 教師への相談が多い。 話合い活動は苦手では あるが、劇制作の見通し はもっている。	・自分の成果が分かり、 学年のみんなの前で 発表する。・リーダーシップを発揮 しながら、話合い活動 を進める。	・自分の成果を整理し、 発表の仕方が分かるプリントを準備する。・話し合うポイントを明確にし、グループ編成を工夫する。
2	B (男)	自信のなさから、教師 に行動の確認を取ること が多い。 初めての活動に対して 不安感は高いが、演じる ことは好きである。	・自分の成果が分かり、 みんなに伝わる声量で 発表する。・働く上で必要なマナー について、自分の意見 を相手に伝える。	・実習での成果を相手に 伝わる声量で発表した ときは称賛する。 ・自分の考えを整理する 時間を設け、伝える内 容を教師と確認する。
3	C (男)	他人の間違いが気になり、本人に指摘したり、 教師に伝えたりする。 友達の意見を聞き入れて、よりよい方向にまとめようとする。	・友達の成果が分かり、 称賛したり、自分の成果と比較したりする。・リーダーシップを発揮しながら、劇制作を進める。	・友達の成果や今後への 目標を記入するプリントを準備する。・劇制作の流れを明確にし、グループ編成を工夫する。

4	D (女)	自分や友達の行動に対して、肯定的に捉えることが多い。 決められた活動を勝手に工夫してしまうことがある。	・友達の成果が分かり、 自分の目標設定に取り 入れる。 ・自分の役割が分かり、 友達と協力しながら、 最後までやり遂げる。	・友達の成果や今後への 目標を記入するプリン トを準備する。・活動前に決められた役 割を教師と確認する。
5	E (女)	夏休み明けから、教師や友達と会話できるようになった。 自分から友達に話し掛けることは少ないが、与えられた役割は果たす。	・自分の成果が分かり、 みんなに伝わる声量で 発表する。・自分の考えを友達に伝 え、よりよいマナーに ついて考える。	・実習での成果を相手に 伝わる声量で発表した ときは称賛する。・友達に自分の考えを伝 える機会や話合いの機 会を設ける。
6	F (女)	自己肯定感が低く、他 人と比べ、劣っていると 落ち込むことがある。 自分の都合に合わせて 思考したり、勝手に行動 したりすることが多い。	・自分の成果が分かり、 学年のみんなの前で 発表する。・自分や友達の役割が分 かり、自分の役割を守 って活動する。	・自分の成果を整理し、 発表の仕方が分かるプリントを準備する。・決められた役割を守っているかを繰り返し、 即時評価する。
7	G (女)	筋道を立てながら発言する傾向がある。 興味のないことについて積極的に話すことは少ないが、求められると発言する。	・実習の成果が分かり、 自分の言葉で成果を発表する。・友達と意見交換をしながら、働く上で必要なマナーについて考える。	・実習日誌を手元に置き 自分の考えを整理する 時間を設ける。 ・話し合うポイントを明 確にした上で話し合い の場を設ける。
8	H (男)	慣れた集団の中など安 心できる場面では発言す ることが増えている。 周りと協力しようとす る気持ちが高く、できる ことを見付けて行動する。	・自分の成果が分かり、 みんなに伝わる声量で 発表する。・働く上で必要なマナー について、理由を添え て意見を伝える。	・発表の意欲につなげるよう気付いた成果を教師と一緒に確認する。・考えを整理する時間を設けたり、説明を促す問い掛けをしたりする。
9	I (男)	場の盛り上げ役になる こともあるが、余計な一 言で相手を不快にするこ とがある。 感情豊かではあるが、 稀に攻撃的な発言がある。	・友達の成果を聞き、自 分の成果と比べながら 次の目標を設定する。・意見交換を通して、ル ールやマナーを守る大 切さを知る。	・自分や友達の成果、今後の目標を記入するプリントを準備する。 ・意見交換の場面を捉え即時に称賛したり、注意を促したりする。
10	J (男)	教師や友達に積極的に話し掛けるが一方的になることがある。 言葉が足りず分かりにくいことがある。発言しようとする意欲はある。	・自分の成果が分かり、 みんなに理由を添えて 伝える。・意見を伝えるだけでな く、友達の意見を取り 入れながら話し合う。	・成果を記載した内容が 適切な表現か教師と一 緒に確認する。 ・話合いの進行状況に合 わせ、自分の意見を伝 えるよう促す。
11	K (女)	経験のないことへの抵抗感が強く、反応が乏しくなったり、活動に参加できなくなったりする。 見通しがもてると取り組む傾向がある。	・自分の成果が分かり、 学年のみんなの前で発表する。 ・劇制作の中で友達との 意見交換を通し、働く 上で必要なマナーに気 付く。	・成果に教師が共感を示したり、安心して発表できるよう発表順を決めたりする。 ・前回と同じ手順で劇制作を進める。

(3) 学習過程

時間 (分)		学習活動	教師の働き掛け、指導上の留意点 囲み部分はねらいに対する手立て
10	導	1 学習内容を知る。	・今日の目標を意識して活動できるよう、今日の目標「働く上で 必要なルールやマナーについての劇制作をする」を掲示する。
10	入		・学習内容や活動の進め方について分かるよう、活動内容表を提示しながら、説明する。
10		2 自分の成果について振り返りながら、プリントに記入する。	・働く上で必要なルールなマナーの視点で自分の成果を振り返り できるよう、実習日誌を読み返す時間を設けたり、実習での出 来事について問い掛けたりする。
20		3 自分の成果について発表したり、 な達の成果を聞いたりする。	・机間巡視しながら、生徒の成果について共感したり、称賛したりする。・安心して発表できるよう、発表前に発表順を決める。・発表側は話す内容にキーワードを入れる、聞く側は学習プリントに記入することを事前に伝えたり、学習プリントに記入例を
30	展開	4 3グループに分かれて、働く上で必要なルールやマナーについて考えながら、劇制作す	 載せたりする。 ・働く上で必要なルールとマナーについて考え、生徒同士で協力しながら劇制作できるよう、グループ編成を工夫する。 ・机間巡視しながら、劇の制作状況について確認したり、働く上で必要なルールとマナーは何かについて問い掛けたりする。
20		る。 5 各グループが情 報機器で発表す る。	・各グループの発表を通して、働く上で必要なルールとマナーに ついて考えられるよう、「なぜ必要なのか」と理由を問い掛けた り、プリントで振り返る時間を設けたりする。
10	まとめ	6 働く上で必要な ルールやマナーの 大切さについて再 確認する。	・今後、働く上で必要なルールとマナーをどのように生かすのかについて考えられるよう、現場実習での生徒の具体的な行動や劇作りでの様子などの感想を伝え、これから頑張ることをキーワードとして提示する。

(4) 評価

<生徒の評価>

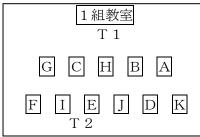
- ・自分や友達の成果について、プリントにまとめたり、発表したりできたか。
- ・働く上で必要なルールやマナーについて、友達と協力して劇制作したり、振り返りシートに感想を書いたりする。

<教師の手立ての評価>

- ・自分や友達の成果についてまとめることができるような教材の準備や言葉掛けができていたか。
- ・働く上で必要なルールやマナーについて考え、協力して劇制作できるような学習場面の設定やグルー プ編成ができていたか。

(5)配置図

<導入・まとめ時>



<展開時>

1組表	数室	2組教室	
A F	B G	C D	
K T 2	E H	I J	T 1



〈寄宿舎 研究テーマ〉

生徒自身の衛生面の意識向上を目指した生活指導の実践

1 寄宿舎研究について

寄宿舎では、「基本的生活習慣を身に付ける」「集団生活の中で協調性や責任感、思いやりの心を育む」「自立した生活を目指して自主的に行動する力を育てる」という寄宿舎目標のもと生活指導を行っている。昨年度は、指導や活動を行っていく上での着眼点を「身に付けた知識・技能を活用したり発揮したりできる生徒」とし、知識や技能の習得に加え主体的な意識の向上を目指して取組んできた。新型コロナウイルス感染拡大の状況にあり、感染予防・対策に留意しながら日々の生活や活動を工夫して指導を行ってきたが、特に衛生面(身だしなみ・手洗い・うがい・マスクの着用と管理・清潔なハンカチの携帯など)においては、知識や理解があっても習慣化に結び付かない生徒や見届けの必要な生徒が多く定着に至っていない実態が浮き彫りとなった。そこで、今年度は、卒業を控えている高等部3年生に対象を焦点化し、学校や寄宿舎在学中に身に付けた知識や技能を卒業後も自分の力として活用・発揮できる生徒の育成を目指すことにした。家庭・学部・寄宿舎3者の連携を大切にしながら、有効な指導方法や手立てを共有し、衛生面における社会の常識や現状も含めた生活指導の取組をすることで「生徒自身の意識の向上」にもつながるのではないかと考え本研究を進めることにした。

2 研究仮説

個々の実態に応じた学習会や指導体制・手立ての工夫と改善を積み重ねることにより、生徒の衛 生面における意識の向上と習慣化を図ることができるであろう。

3 取組の実際

研究を進めるに当たっての目指す生徒像を「自分の課題を知り、問題解決の必要性を意識できる 生徒」「場所や場面が変わっても身に付けた知識や技能を活用・発揮できる生徒」とした。

(1) 実態把握シートを活用した取組と指導体制の工夫

①課題の明確化と生徒との共有

個別の生活指導計画の実態把握表や日々の生活記録から衛生面における実態や課題点をピックアップし、実態把握シートにまとめた。「何を目指すのか」「何を学ぶのか」「優先的に必要な指導は何か」を明確にした上で、生徒自身も自分の課題を意識し、必要な力を共有できるよう、個別に話合いをする機会を設けた。話合いで確認した課題は、個別の生活指導計画の目標の一つとして設定した。

②研究体制の工夫による指導方法・手立ての共有

意見交換や情報共有がしやすいように個別の生活指導計画を話し合うグループと研究会のグループを統一した。各グループで目標や指導方法・手立てについて検討した内容や進捗状況等を寄宿舎研究会(全体)で共有し、指導の振り返りや実践していく中で見えてくる変容や課題点を実践記録シート(資料1)にまとめ、それを基に指導方法や手立てを再考していく流れで進めた。

③対象生徒の様子と変容

研究まとめシート (1グループ)

A (男) 総合サービス科3年 氏 名 高等部

実 態

- ・おしゃれに関心はあるが、身だしなみや衛生面の意識は低い。
- ・登校前や食事前にハンカチやティッシュの所持を毎日確認している。

目標

・衛生面を意識して、基本的マナーを身に付ける。

手立て・指導内容

生徒の様子・変容

- ・資料を提示しながら、マナーを身に付けるこ との大切さを一緒に確認する。
- ・身に付けるための方法を複数提案し、卒業後 も取り組める方法を一緒に考える。
- ・自室と事務室に身だしなみチェックポイント を掲示する。
- ・評価シートを作成し、定期的に振り返りの時 間を設ける。
- ・本人と相談して目標を決め、下校後のハンカチ 交換までの流れを一緒に見直した。
- ・使用済みのハンカチを入れる箱を準備したこ とで、忘れずに準備できるようになった。
- ・評価シートの使用は、成果を確認しながら減ら すことができた。
- ・姿見で最終確認するようになった。

まとめ

- ・マナー集や学習会の資料を参考にして職場で働くことをイメージしながら繰り返し確認したと ころ、衛生面を意識して身だしなみを整えるようになった。
- ・評価シートを基に振り返りを行うことで、次の課題を一緒に確認できた。また、評価シートの 使用を徐々に減らすことで、本人の意識付けを深めることができた。

高等部 氏 名 B (男) 総合サービス科3年

実 熊

- ・T字カミソリを乾かさずに返却する。
- ・歯ブラシ、コップの洗い方が不十分である。

目標

・衛生面に配慮した洗面用具の片付け方を身に付ける(歯ブラシ、歯磨き用コップ、T字カミソリ)。

手立て・指導内容

- ・衛生管理の必要性と、衛生面に配慮した洗面 用具の片付け方について、テキストを用いて 一緒に確認する。
- ・知識と技術の定着を図るために定期的に洗面 用具の片付け方について振り返る時間を設け
- ・歯ブラシや歯磨き用コップ、カミソリが不衛 生であることを説明し、対応策を一緒に考え

生徒の様子・変容

- ・テキストを用いて確認したことにより、歯ブラ シやコップを丁寧に洗ったり、汚れを気にし たりするようになった。
- ・T字カミソリが濡れたままでは不衛生である ことを知り、職員に乾燥を依頼するようにな った。

まとめ

- ・定期的に、職員と一緒に振り返る時間を設けたことで、洗面用具の片付け方に限らず、衛生面 全般に気を配るようになった。
- ・T字カミソリについて、家庭での乾燥の仕方を確認した。寄宿舎で身に付けたことを活かし、 家庭でも衛生面を意識した行動をするように励ました。

研究まとめシート(2グループ)

高等部 総合サービス科3年 氏名 C(男)

実 態

- ・着用した衣類をその日のうちに洗濯しない。自己判断なのか忘れたのか判別しづらい。
- ・行動の優先順位をつけることが難しい。
- ・知識を学んで自己判断を促すよりも、定型的に習慣化した方が身に付きやすい。

目標

・洗濯日に洗濯物を全て洗うことを習慣化する。

手立て・指導内容

- ・本人と話し合って洗濯日を決める。
- ・汚れ物とは何かを本人と一緒に定義付けする。
- ・視覚的ツールを作成し活用する。
- ・退舎後、寄宿舎生活で身に付けたことを家庭でどう活かすかについて本人に確認する。

生徒の様子・変容

- ・部活日や体育の授業日を確認しながら洗濯日を 決めたことで、忘れずに行うようになった。
- ・一度身に付けた衣類は汚れ物であり、必ず洗 濯することを確認すると理解していた。
- ・机上に小さなホワイトボードを置いたことに より、洗濯日を視覚的に確認できた。
- ・「家族に喜んでもらいたいので、寄宿舎で身 に付けたことを家庭でも発揮したい」と意欲 を見せていた。

まとめ

- ・就職したいという思いが強いため、意欲的に取り組み、洗濯の知識や理解が深まった。
- ・退舎後、継続できているかの確認ができないことが課題である。

実 熊

・衣類や頭髪の乱れがあっても恥ずかしいと思わず、どこを直すべきか分からない。

目標

- ・身だしなみを整える必要性とポイントを知る。
- ・鏡を見て整えた後、職員に確認の依頼をすることができる。

手立て・指導内容

- 生徒の様子・変容
- ・身だしなみのポイントや目指す男性像について、本人がポイントを記入した全身のイラストを掲示して意識付けを図る
- ・鏡を見る習慣を付けるために、着替えたら鏡を見て頭髪や衣類の乱れがないかをチェックする→職員に確認の依頼をするという流れをつくる。
- ・職員からのアドバイスの内容を振り返る機会 を定期的に設け、自分で考えて自分の言葉で 話すように促す。
- ・退舎後も引き続き意識できるよう、寄宿舎で 使用したツールや変容を保護者に話し、家庭 でも活用できるようにする。
- ・自分でポイント考えて記入したり、記入内容 を職員に質問されたりしたことで、気を付け るべきチェックポイントを意識できるように なった。
- ・職員からのアドバイスに対して、自分はそう 思わないと話していた。しかし、職員のアド バイスは周りから見られている自分の姿であ ることを知り、受け入れることができるよう になった。
- ・身だしなみは相手を思いやることだということを日々の振り返りや学習会から学んだことで、意識して身だしなみを整えようとする姿が見られるようになった。

まとめ

- ・身だしなみについて、本人の意識や考え方に変化が見られた。職員からのアドバイスに対して も素直に受け入れる様子が見られるようになった。
- ・退舎後は本人なりに身だしなみを意識している様子は見られるが、周りから言われなくても自分で気付いて身だしなみを整えようとする意識の継続においては課題が残っている。

研究まとめシート(3グループ)

高等部	総合サービス科3年	氏 名	E (女)
-----	-----------	-----	-------

実 熊

- ・身だしなみや衛生面の必要性を理解し、頑張ろうという意欲はあるが、丁寧さに欠ける。
- ・長時間マスクをしていると中央が睡液で濡れることがある。汚れたら交換することはできる。

月 樗

・マスクの取り扱いを覚え、感染予防に努める。

手立て・指導内容	生徒の様子・変容
・マスクの正しい取り扱いや始末の仕方について資料を提示しながら説明する。・実習を振り返り、気付いたことなどを聞き取り今後、日常的に継続できることや感染予防に向けた必要性を再確認する。	・マスクの正しい取り扱いについて、重点や必要性など、より深く知ることができた。・マスクの中央を触らずに耳ひもを持って外し捨てることや手洗いが定着した。・マスクの交換を休憩時間と食後と決め、必要な枚数を準備、交換するようになり、自ら予備も携帯するようになった。

まとめ

- ・学んだことを肯定的に捉え、意識しながら丁寧に実践する様子が見られ、マスクの取り扱いや 始末、感染予防など幅広く理解できるようになった。現場実習に限らず、学校生活や社会人にな っても大事であることに気付き、理解が深まった。
- ・個包装のマスクが衛生的に良いことに気付き、準備するようになった。予備マスクや捨てる際 に必要なナイロン袋をポーチにまとめて入れるなど、応用も知り、実践するようになった。

(2) 学習会の工夫

①内容に応じた対象生の抽出

「何を目指すのか」「何を学ぶのか」、実態把握から見えてきた必要な学習内容を検討し、内容に応じた対象生の抽出を行った。

②校内講師等を活用した学習会と振り返り

衛生面における専門的な知識をもった養護教諭や、社会人として必要な力や就労先の声を知っている進路指導主事に学習会を行ってもらうことで、生徒の興味や意識付けを図った。学習会を行うにあたり実態把握シートから見えた課題を各講師に説明し、学習内容の検討を一緒に行った。

③実態に応じた振り返り方法の工夫(資料2)

対象生の抽出同様、学習会の振り返りも生徒の実態に応じたツールをグループで検討した。

④友達同士の学び合いの工夫

自分が学んだことやそれが生かされた場面等を友達と教え合ったり後輩に伝えたりできる場面をつくる

ことも意識付けにつながると考え、退舎後もどのように頑張っているか、後輩へのメッセージも含めたアンケートを実施した。また、アンケートを基にインタビューで撮ったビデオを学習会の中で在舎生へのメッセージとして伝えた。身近な先輩からの声に、真剣に聞き入る姿が多く見られた。

ひげえりのそった時につりたもの処理やかもかしちを家でがんばっています。日重日日 時間も自分で増ま里して決めた時間で複る 起対の時間を続けています。 B(男)

~退舎生のアンケートから~

《養護教諭による学習会》

テーマ「マスク・うがい・手洗いの必要性について」

, , ,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	/13N ·			
内 容	生徒の様子			
マスク・うがい・手洗いの必	・イラストや手洗いの歌など、分かりやすい	教材道具を用いて		
要性について	説明してもらったことで、興味をもって参	加することができ		
①正しいマスクの付け方と	た。			
捨て方	・マスクの正しい外し方	3 3 3 8		
②正しいうがい・手洗いの仕方	や捨て方について分か			
③ハンカチの交換の目安	っていない生徒が多く	THE WAR		
④ウイルスの飛ぶ範囲	理由も含めて再確認す			
	ることができた。			

振り返り方法と生徒の様子・変容

【方法】

生徒の実態に応じた2種類の振り返り用紙を用い(質問形式・記述式)、小人数制(部屋ご と)で行う。

【様子・変容】

小人数制で行ったことで、学習会では話せなかった生徒も積極的に意見を述べることができ た。食事前の手洗いの際、教えてもらった手洗いの歌を口ずさみながら、丁寧に洗おうとす る様子が見られた。

テーフ「ステキか草校生にかるための身だ」かみ」

対象:全員

ナーマースナヤな高校生になる	にめの身にしなみ」		
内 容	生徒の様子		
身だしなみとは・・・	・身だしなみの意味(人に不快感を与えないように言動や服装		
意味、場に合った服装、周	を整えること、またその心掛け)を学習し、自分は周りから		
りからの印象	どう見られているのかについて考える機会になった。		
就職面接では・・・	・就職面接の話が出たこと		
最初に見られるところ	で自分たちの近い将来と		
自分ならどんな人を採用し	結び付け、真剣に話を聞		
たい?	いたり質問したりと、意		
今からできることは?	欲的な様子が見られた。		

振り返り方法と生徒の様子・変容

【方法】

振り返りシートに記入したものを基に話合う。 ※シートはその場で記入

【様子・変容】

自分が良いと思っても相手は不快に思っている場合もあるということに気付くことができた。 シートをその場で記入することが難しい生徒もいたため、予め時間を設ける必要があり、振 り返り方法の課題点として職員間で共有した。

テーマ「ステキな高校生になるための身だしなみ」

テーマ「ステキな高校生になるための身だしなみ」		対象:高等部普通科		
内 容 生徒の		走の様子		
身だしなみはなぜ大事?	身だしなみはなぜ大事? ・「きれい」とはどのような状態を言			
①「きれい」とは?	認識との違いを学ぶことで、	Marie II.		
②「きれい」にしないと	どうすれば良いのかを考える			
どうなる?	機会となった。	To an and an		
③身だしなみについての	・クイズ形式だったため、興味			
○×クイズ	をもち楽しみながら参加して			
	いた。			
振り返り方法と生徒の様子・亦家				

振り返り方法と生徒の様子・変容

【方法】

室会を利用し、部屋ごとに行う。

【様子・変容】

部屋単位という少人数制で行うことで、学習会で発言できなかった生徒も意見を出すことが できた。期間をおかずに振り返りを行うことで意識の継続につながった。

《進路指導主事による学習会》

テーマ「立派な社会人になるために大切なこと」

対象:指導グループによる抽出生

/ · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	が、 温寺 グル プロの 国面工工			
内 容	生徒の様子			
立派な社会人になるために	・進路の先生からの初めての学習会に興味津々な様子で、うな			
~健康管理と清潔について~	ずいたり質問に答えたりしながら真剣に参加していた。			
・健康は大切	・健康管理や清潔感を出すコツについては、項目に沿って自分			
・健康管理のコツ	を振り返りながら確認するこ			
・清潔感を出すコツ	とができた。自分が気を付け			
	ていることや普段から頑張っ			
	ていることをみんなの前で紹			
	介する生徒も見られた。			

【方法】

学習会のテキストを基に、学んだことを室会で話題にして意見交換する。

【様子・変容】

これから気を付けたいことや将来に向けて頑張りたいことを再確認した。友達の話を聞いて 生徒同士でアドバイスし合う様子も見られた。また、抽出生ではなかったが、大人への憧れ から学習内容に興味をもち、自発的に参加する生徒もいた。

(3) 学部との連携

寄宿舎で学んだことが、どの場面においても生かすことができるよう、学部との連携に昨年度から継続している情報交換シートを活用した。また、寄宿舎の取組を学部と共有するとともに客観的な評価を得る機会として、舎監から寄宿舎生へ衛生面に関する内容について「メッセージ」を書く取組を行った。

(4) 家庭との連携

研究の取組が個別の生活指導計画の目標と連動しているため、目標設定の段階から保護者との連携を進めてきた。面談で寄宿舎の取組を伝えた上で、帰省帰舎日に情報交換をしたり長期休業前には保護者と話合う機会をつくったりしながら情報共有を行った。また、学習会や日々の取組、生徒の様子等を通信や寄宿舎内の掲示を通して発信した。

4 まとめ

(1) 成果

①研究体制の工夫による指導の充実

寄宿舎研究はこれまで全体で話し合う形で行ってきたが、今年度は、個別の生活指導計画を話し合うグループと研究グループを統一し、小グループ制での話合いや実践を重ねてきた。これにより、情報や指導方法の共有ができ、有効だった指導方法を他生徒にも応用することができた。また、昨年度は研究対象生徒を中学部、高等部普通科及び環境・福祉科のそれぞれの学部、学科に設定したが、今年度は高等部総合サービス科の3年生に焦点化したことで、卒業後を見据えた目標の明確化や指導の具体化を図ることができた。

②校内人材の活用・連携による生徒の学びに向かう意欲の向上

校内講師を活用した専門的な面からの学習会を行うことで、生徒が興味・関心をもって参加する姿が見られた。生徒が学びを深めるとともに、指導する職員側も知識を深めることができ、日々

の指導方法の工夫につながった。また、多くの生徒が舎 監からの「メッセージ」を読んでいた。「メッセージ」 はいろいろな教師からのアドバイスを聞いたり、褒め られたりする機会となり、さらなる意欲や意識の向上 につながった。

情報交換シートを介した情報共有や、学部の授業研究会に参加し目標や手立ての共有を図ったことで、生徒への接し方の工夫や言葉掛け等参考になる部分も多



舎監からの「メッセージ」

く、生徒の学びやすさについても共有しながら指導に生かすことができた。

(2)課題

①退舎後の支援方法と一貫した指導のための連携の在り方

今年度は、対象生のほとんどが年度の途中で退舎したため、学部と情報交換シートでの情報共有を継続するとともに、機会を捉えて生徒へ聞き取りをする形での支援を行ってきた。家庭との連携においては、途中退舎した生徒に対し、これまで寄宿舎で取り組んできた工夫や言葉掛けを

伝えたり、使用したツールを提供したりして家庭でも同様に取り組んでもらえるよう協力を依頼 した。

衛生面に関しては一年間で身に付けることが難しい課題であり、定着・習慣化するには早い段階からの継続した取組と学部・家庭との一貫した指導が必要であるため、退舎後も保護者面談への参加や学級担任からの情報を基にサポートしていける体制を検討していく必要がある。次年度も途中退舎生がいると予想されるため、情報交換シートを活用したより具体的な支援方法の検討と継続、学校や寄宿舎での学びが他の場面でも活かすことができるような連携の在り方について、学部と話し合いながら整えていきたい。

②評価方法の検討と工夫

衛生面全般において「達成度をどのように捉えるのか」、「生徒が自分のこととして意識できているかどうかの評価方法とは何か」など、生徒に応じた達成度や評価だけでなく、社会情勢や一般常識も含めた評価規準の設定が難しかった。学校や寄宿舎に在籍している時から卒業後を意識した指導の継続と統一した評価の視点を共有するためにも、生徒が「身に付いた」と実感できる指導方法や、生徒の実態と社会の一般常識という両面からの評価方法の検討・工夫が必要である。

	実践記録シート【6月】						
学 年	氏名		目標・手立て	変容・課題	今後の指導方法		
		目標	・衛生面を意識して、基本的マナーを身に付ける。	・6月前半に現場実習もあり、事前に清潔の大切さについて確認する時間を 設けた。・学習会の振り返りでは積極的に意見を出しているが、実際の行動となかな か結びついていない。	・全般的に知識や必要性は理解しているが、意識して行動に		
	A (男)	手立て	 ・資料を提示しながら、マナーを身に付けることは周囲の人が 気持ちよく生活するための思いやりであることを確認する。 ・身につけたいマナーを一緒に確認し目標にする。 ・身に付けるための方法を複数提案し、卒業後も取り組める方 法を一緒に探る。 ・定期的に振り返る時間を設け、次の目標を相談する。 	・学校と寄宿舎でハンカチは分けて使用すると本人からの発言があった。当初はできていたが同じハンカチを使用することが多くなった(毎日の洗濯に干されているハンカチが1枚のときが多いため)。 ・登校前や食前のハンカチの所持は忘れなくなってきているが時々確認が必要	移すことが難しい。卒業後の生活をイメージさせて繰り返し本人と確認していく必要がある。 ・一つ目の目標「清潔なハンカチの所持」については、2学期の初めに評価し、次の目標(ティッシュの所持と使い型(鼻のかみ方・マナー等))を確認する。引き続き清潔なハンカチの所持については確認していく。		
		目標	・衛生面に配慮した洗面用具の片付け方を身に付ける。 (歯ブラシ、歯磨き用コップ、T字カミソリ)	・ 衛生面の必要性について説明したところコックや歯ノブンの洗い方が「夢」になり、汚れを気にしている様子が見られている。 ・ 目標からは外れるが、洗濯物の乾かし方が足りず湿ったままタンスにしま	************************************		
総合サービス科3年 	B (男)	手立て	・衛生管理の必要性と、衛生面に気を遣った洗面用具の片付けについて、テキストを用いて一緒に確認する。・知識と技術の定着を図るために定期的に洗面用具の片付け方について振り返る時間を設ける。		・乾燥の依頼やコップの洗い方など実践できている場面が多く見られるため、なぜ清潔を保つ必要があるのかなどを質問して知識の定着を図る。		
		目標	・洗濯日には洗濯物を全て洗うことを習慣化する。	・一度身に付けた衣類は「汚れ物」であることを本人と一緒に確認した。	・寄宿舎で身に付けたこと、できるようになったことを振り		
	C (男)	手立て	 ・洗濯日について、本人と話し合って曜日を決める。 ・視覚的ツールを作成し、活用する。 ・入浴→洗濯の流れを固定し、入浴の際に洗濯物を全て一緒に持ってきたかを確認する。 ・汚れ物とは何か、を本人がわかりやすいように本人と一緒に定義づけする。 	 ・本人と部活日や体育の授業日を確認しながら洗濯日を決めたことにより、忘れずに行うことができた。 ・入浴の際に、洗濯物を全て一緒に持っていくようにしていたが、本人から「物が多すぎて大変だ」と訴えがあったため、本人と相談の上、この手立てを中止した。手立てを中止しても、部活や体育で使った物を忘れずに洗濯するよう念押しすると、忘れずに洗濯することができていた。 	を		
		目標	・身だしなみを整える必要性とポイントを知る。・鏡を見て整えた後、職員に確認の依頼をすることができる。	・実習をはさんだため、チェックポイントや職員への確認依頼の流れについ			
	D (男)	手立て	 ・身だしなみのチェックポイントや目指す男性像について、本人の意見を聞きながら一緒に確認する。 ・登校前、下校後、入浴後と着替えたタイミングで鏡を見て頭髪や衣類のチェックをし、職員に確認の依頼をする流れをつくることで鏡を見る癖をつける。 ・「褒められたこと」「言葉掛けされたこと」を振り返る時間を定期的に設けることで、本人のやる気と意識付けにつなげる。 	て、質問しながら再確認した。チェックポイントについてはほとんど覚えていた。ただ、実際に行動に移すかどうかは別問題で、実習前に比べて言われて気づくことが少し増えたようだった。 ・職員からのアドバイスについて振り返る機会を設けることで、自分では良いと思っても相手から見れば違う場合があることを再確認した。納得いかない様子の時もあったが、学習会で学んだ「身だしなみは相手を思いやる	・必要性とチェックポイントは理解しているため、「周りからどう見られているか」を意識した身だしなみについて、また、卒業後のことを考え、社会人に求められる身だしなみについて、繰り返し本人と確認していく必要がある。		
		目標	・マスクの取り扱いを覚え、感染予防に努める。	・マスクの取り扱いや始末について、本人と再確認した。これまでに学んだ			
	E (女)	手立て	・マスクの正しい取り扱いや始末の仕方等について、本人と再確認する。・実習を振り返り、困ったことや気付いたことなどを聞き取り今後、日常的に継続できることや感染予防に向けた必要性を話題にする。	個包装の予備マスクと使用済みマスクを入れるナイロン袋を持参し、昼食 後、新しいマスクに交換・始末も適切にできたことを話していた。	・これまでの生活を振り返り、できるようになったことや知ったこと、課題など、感染予防だけでなく自己理解について再確認する。 ・学んだことを、場所が変わっても継続できるように、本人だけでなく、家庭にも様子を伝え、励ましを依頼する。		

【実態に応じた振り返りシート】

1. 鼻だしなみを整える影響性と、薔薇の自分の様子



職の機器……たまに立っていたりして113

鬟の遠くせ・・・・ 今は、波ったた

ハンカチ、ティッシュの機等・・・・和シェガン、てなかたりする事が多

- 2、昨日学習したことを含め、身だしなみについて、普段自分が一番更をつけていること 。毎日かかみで、石を設し、先生にも石を認してもう。
- 言生に見せても取ぶずかしくない格好でいるために 3. 身だしなみを整える理由
- 4. 身だしなみが整っていない炭だちを見たらどう思う? あんまり関わりたくない

就 職 而接であなたが面接官だったら・・・ どちらの人を採用したい と思いますか。なぜそう思いますか。





どちらの人がよいか①か②を書きましょう



なぜそう思うか書きましょう

のけっていて現存をしていて清潔ながあ

正いと思う番号すべてに○をしましょう!! *どんな時に手をあらっていますか? ・学大文が帰たまた下校後 ★マスクをつけるのはどうして? ① ウィルスから自分を行るため ·剪前·外出後 ★どうしてうがい・手あらいをするの? 2 先生に言われるから は、ほから体を持るため ② 手の汚れをとるため 0 9 ★学習会の感想や、これからがんばりたいことを ★ハンカチは毎日とりかえてますか? ★きれいなハンカチをもつ理由は? (1) 第った手がまたよこれるから) 2 先生に言われるから

自分の考えを記入後、みんなで意見交換してみましょう

1. マスク、うがい、手洗いの必要性と、普段の自分の様子

マスク・・・・飛沫ないせぐため

強いいされった物に菌がついている うかんれないから

2. 今日学習したことを含め、質良百分か

コロナ間が始まてから意識しなかった
手夫いやうがしたこまめにするようになった

3. anいなハンカチを終っ難 前便、たハンカチは、ウイルスや汚物かり つりていてそれで対くと汚ないから

4. マスク、うかい、手続いをしていない人を見たらどうするか

呼びかける でフスケルアいない人とは局力接角をしない。

研究のあゆみ

昭和	56 年度	生活単元学習、遊びの学習
	57 年度	合同遊び、作業学習
	58 年度	日常生活の指導、作業学習
	59 年度	日常生活の指導、作業学習
	60 年度	ことば(国語)・かず(数学)の要素表の作成
	61 年度	ことば(国語)・かず(数学)の年間指導計画の作成、自作教具集の作成
	62 年度	音楽・図工・美術・体育
	63 年度	養護・訓練

分校発足時から日々の指導の実践の具体的なよりどころとなる「教育課程の編成」に取り組み、主な 指導の形態ごとの「年間指導計画」を作成し、指導の手掛かりとして活用してきた。

しかし、児童生徒の障害の重度化・多様化に伴い、これまでの指導内容や方法だけでは子どもたちの発達要求に十分応えることができないという状況が多く見られるようになってきた。また、基礎集団としての学級での指導を基本としながらも、子どもたちの発達段階と各教科の課題を考慮しつつ、「質」と「量」の違う複数の集団での活動を保障しながら「個」への配慮が必要だという意見が出るようになった。このことから平成元年度に研究テーマを設定し、「個別学習」についての研究・実践を進めた。これが、「研究くりた」の始まりである。

「研究くりた」 研究主題

平成 元年度	個々の発達課題に即した指導の内容と方法に関する研究
	~一人ひとりを生かす指導の形態と個別指導のあり方~
2~3年度	個々の発達課題に即した指導の内容と方法に関する研究
	~一人ひとりを生かす指導のあり方~
4~7年度	個々の発達課題に即した指導の内容と方法に関する研究
8~10年度	生き生きと豊かに生活していく力を育てるために
	~日常生活の指導の実践をとおして~
11~12 年度	「生活する力」を育てる指導実践 ~生活単元学習を中心として~
13~15 年度	個別の指導計画の効果的な活用 ~よりよい授業づくりを目指して~
16 年度	障害の特性に応じた指導の在り方
	~専門性の向上及び環境の整備を軸に児童生徒の伸長を目指す~
17~18 年度	障害の特性に応じた指導の在り方
	~自閉性障害の障害特性に適切に対応した教育内容・方法の充実を目指して~
19~20 年度	一人一人の教育的ニーズに応じた授業づくりを目指して
	~4つの観点(主体性、知識・技能、生活への般化、社会性)から~
21~22 年度	一人一人の願いを生かした授業づくり
23~24 年度	一人一人の自立と社会参加を目指した一貫性のある指導の在り方
	~働く意欲を育てる授業づくりを通して~
25~26 年度	自立と社会参加を目指して、主体的に学習する姿を求めた授業づくり
	~「考える」「活かす」に焦点を当てて~
27~28 年度	自分のよさに気付き、もてる力を発揮できる児童生徒を育てる授業づくり
29~30 年度	「合わせた指導」の基本を徹底した授業づくり
	~「授業改善プロジェクト」の検証と成果を踏まえて~
令和元~2年度	児童生徒が学びを実感できる授業づくり
	~学ぶ姿に着目した授業研究を通して~(元年度)
	~単元・題材の構成及び配列の工夫・改善を通して~(2年度)
令和3年度	一人一人の学びに応じた教育課程の工夫・改善<1年計画>
	~学んだことを活用・発揮できる児童生徒の育成を目指した授業づくりを通して~

- 94 -	-
--------	---

おわりに

この一年間、様々な制約を受けながらも「新しい生活様式」に柔軟に対応し、児童生徒の学びの保障に努め、歩み続けてまいりました。年度末を迎える今、本校の実践研究の記録を紀要としてまとめ上げることができました。

本年度の研究は、「一人一人の学びに応じた教育課程の工夫・改善〜学んだことを活用・発揮できる児童生徒の育成を目指した授業づくりを通して〜」という主題のもと、児童生徒の学ぶ姿に着目した授業研究を積み重ね、一人一人に応じた指導の充実を図り、教育課程の工夫と改善を目指してまいりました。

職員室の壁に、多くの付箋が貼り付けられた「目指す姿と各教科等の目標や学習内容の一覧」があります。付箋には、日々の授業を振り返る中で見えてきた改善案が記されており、実践の足跡が一目で分かるものでもあります。

付箋に書き込まれた内容を吟味し、最終的にまとめ上げた「目指す姿と各教科等の目標や学習内容の一覧」と「単元配列表」は、これまでの研究を通して教師間で共通理解を図ってきた「子どもがどのように学んでいたか」という視点と姿勢を意識して授業づくりに臨んできた成果と捉えております。

児童生徒一人一人の学びの過程に寄り添った授業を展開する上で、各学部教職員 縦割りグループによる「事前授業検討会」と一人一授業を提示する「授業者実践研修」の取組も大きな成果に結び付きました。「学び」をキーワードにすることで、 児童生徒にとって各学習間における学びの関連性や学んだことを活用したり発揮したりする具体の姿について踏み込んだ意見交換が行われ、一人一人の学びに応じた 指導の在り方を見直す機会となりました。

今年度の研究実践の一つ一つが、教育課程の工夫・改善につながる取組であることを再確認し、地域の資源を活用しながら、特色ある教育活動を計画的・組織的に継続していきたいと考えております。

中学部での授業の終わりに、一人の生徒から「みんなで話し合うとこんなにもたくさんの発見ができてとてもうれしい気持ちになりました。」という発言がありました。一人一人の学びが大きな学びとなり、実を結ぶことを願い、研究実践に努めてまいります。

お届けいたしました本研究紀要に対し、御意見・御感想をいただければ幸いです。 最後に、本校の研究推進に対し、御指導・御助言くださいましたすべての皆様に 厚くお礼を申し上げますとともに、今後とも御指導を賜りますようお願い申し上げ、 結びといたします。

副校長 諸岡 美佳

研 究 同 人

 校 長 佐藤 博司
 副校長 諸岡 美佳
 教 頭 高田屋陽子 伊藤 潤

 事務長 真田 郁朗
 教諭 鎌 教育専門監 石垣 徹 菅原 文彦
 研究主任 北島 珠水

小学部

齊藤 理香	京屋 庸子	佐藤 尚人	柳田 智子	渡辺 舞子	小嶋美智子
筒井 清子	大塚亜紀子	畑 美貴子	大山万里子	堀田 聡弥	菅原 尚子
宮野佳代子	藤原 真美	高橋 遙	中野純子	佐々木江利子	栗津 綾乃
渡部 大樹	田口 智子	菊池 良一	齋藤 彩夏	照井真紀子	鷲谷 武彦
吉田 卓也	田中 亜希	藤原 忍	宇佐美朝子	岩田 祝子	泉 純子
髙橋あゆ子	田中明美	岩谷 桜	佐々木千春	進藤かりん	田口 舜
佐藤 緑	磯邊 千春	伊藤ひとみ	尾山 優子	中村麻希子	

中学部

菊地 武	黒澤 正子	菅原 文彦	北島 珠水	髙橋ひな子	市川奈津子
鈴木 暁子	太田 清子	大友 信	杉渕 陽子	藤井 優香	工藤 達矢
小笠原なおみ	葛西亜樹子	髙橋 公	海道 史子	目黒 雄悦	熊谷理香子
会場 友美	沖口 祥子	千葉 隆之	五十嵐智子	髙橋 裕子	越後 楓
山田 賢子	髙橋 学	渡部 恵	長谷部優子	中川 朋美	柴田 壮紀
佐藤 雅子	原 和馬	菊地奈都子	大門真理子	三浦 弥	長谷部 元
森本 芹果					

高等部

【普通科】					
畠山 幸司	安藤 一敏	石垣 徹	東谷 秀昭	渋谷 真二	田中 正之
大友 祥子	小野 直子	佐藤 洋子	伊藤陽子	鈴木 崇	髙橋 俊英
大友 良江	河村 奈央	佐藤 美幸	木村 栄一	播摩友紀子	市川 尭
和泉 緑	大野 藍	熊谷 菜子	伊藤 俊彦	遠藤 葵	門間 陽子
加藤 秀幸	加藤真理子	佐藤 昭子	笹渕 幸廣	田近礼津子	田中佑可子
千葉 翠子	惠比原 拓	長谷川舞子	能登屋 弥	大山 等	永澤 正太
成田 ゆか					
【総合サービス科】					
工藤思郎	中野 貴洋	佐々木 幸	鈴木 幸子	相澤 晶	後藤真紀子
三浦ちあき	竹場 久美	長谷川節子	岡部 智美	近藤 文晴	

寄宿舎

篠塚 朋子	佐藤 明子	佐藤 光子	坂本 香織	柏谷 典子	藤田志穂子
岩澤 佑一	佐々木晶子	堀江 千里	保坂 康子	加藤 郁恵	加賀 瞳
佐々木滉太					